

尾張旭市

男女共同参画に関する市民意識調査

結果報告書

令和6年3月

尾張旭市

目次

I	市民意識調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象及び調査方法	1
3	調査票の回収状況	1
4	集計方法	1
II	市民意識調査結果の概要	2
III	市民意識調査結果	6
1	あなたご自身のことについて	6
2	家庭生活における男女共同参画について	9
3	地域活動における男女共同参画について	23
4	就業における男女共同参画について	30
5	教育における男女共同参画について	40
6	DV（配偶者や恋人からの暴力）について	42
7	性の多様性（性的マイノリティ）について	53
8	男女の意識について	62
9	男女共同参画全般について	91
IV	小中学生調査の概要	99
1	調査の目的	99
2	調査対象及び調査方法	99
3	調査票の回収状況	99
4	集計方法	99
V	小中学生調査結果の概要	100
VI	小中学生調査結果	102
1	あなた自身のことについて	102
2	男女共同参画社会について	104
3	デートDVについて（※中学生のみ）	125
VII	事業者調査の概要	126
1	調査の目的	126
2	調査対象及び調査方法	126
3	調査票の回収状況	126
4	集計方法	126

Ⅷ 事業者調査結果	127
1 事業所の状況.....	127
2 女性管理職の登用について.....	130
3 育児休業制度の利用について.....	132
4 ワーク・ライフ・バランスについて.....	133
5 今後の取組について.....	134

I 市民意識調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次尾張旭市男女共同参画プラン」の策定に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態を調査したものです。本調査と過去の意識調査を比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査対象及び調査方法

区分	一般
調査対象	市内在住の18歳以上の方
調査票の配布・回収	郵送による調査票の配布、 回収は郵送方式及びWEB回答方式
調査基準日	令和5年10月1日現在
調査期間	令和5年10月18日(水)～11月12日(日)

3 調査票の回収状況

区分	一般
配布数(A)	2,000
有効回答件数(B)	781
有効回答率(B/A)	39.1%

4 集計方法

- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略し、凡例のみを表示しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合もあります。
- ・ クロス集計では、分析軸の「その他」「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の合計値と全体の数値が合わない場合があります。

Ⅱ 市民意識調査結果の概要

1 家庭生活における男女平等参画について

(1) 男女の家庭での役割分担や子育て観について

- 家庭の仕事の役割については、「家や車など高額なものの購入」「生活費を稼ぐ」を除く、「そうじ・洗濯などの家事」「食事のしたく」「日用品の買物」「地域活動への参加」「子どもの身の回りの世話」「子どものしつけ・教育」「親の介護」などの、いわゆる家事や育児等は「主に女性が担っている」の割合が高くなっています。
- 働き方でみてもこの傾向は変わらないことから、共働き、非共働きに関係なく、女性が家庭においては家事や育児等の中心的な担い手であり、女性の負担が大きいことがうかがえます。

(2) 仕事と家庭生活と個人の生活の現実と理想

- 仕事と家庭生活、個人の生活の関わり方については、理想として「仕事・学業を優先したい」が24.5%となっているのに対し、現実では「仕事・学業を優先している」が46.1%となっており、現実には理想と違って仕事や学業を優先している状況がうかがえます。
- 理想の第1位にあげられている「家庭生活を優先したい」については、理想と現実には違いはみられないものの、理想の第2位にあげられていた「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)を優先したい」人は、61.5%となっているのに対し、現実には37.6%となっており、理想と現実の間に大きなギャップが生じていることがうかがえます。
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動により積極的に参加していくために必要なことについては、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。また、全体的に男性に比べ女性の方が高い割合を示す項目が多くなっており、特に「男性の家事等への参加について、職場における上司や周囲の理解を進めること」「社会の中で、男性による家事等の評価を高めること」「周りの人が夫婦の役割分担などについて、当事者の考え方を尊重すること」などは、性別によって差がみられる項目です。

2 地域活動における男女共同参画について

(1) 地域活動・社会参画について

- 地域活動への参加状況については、“地域活動に参加したことがある人”(全体から「どの活動にも参加したことはない」と「無回答」を除いた割合)は約8割となっています。参加したことがある地域活動については、「町内会や自治会」「PTAや子ども会」が上位2項目となっており、特に「PTAや子ども会」は、女性が61.9%であるのに対し男性が14.7%と、男性の参加割合が非常に低くなっています。

(2) 防災・災害復興対策で男女共同参画の視点に配慮した取組

- 防災・災害復興対策で男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があることについては、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が男女とも最も高くなっており、特に女性からのニーズが高くなっています。

3 就業における男女共同参画について

(1) 育児休業や介護休業の取得状況

- 育児休業を取得したことがある人は、女性で 16.6%、男性で 2.7%、介護休業を取得したことがある人は、女性で 1.6%、男性で 2.4%となっています。取得できなかった理由については、「法制度が整っていなかったから(出産・子育て期、介護期が育児・介護休業法の制定前だったなど)」「職場に休める雰囲気になかったから」が上位2項目としてあげられています。

(2) 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なこと

- 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なことについては、「男女がともに育児休業、介護休業を取りやすくする」が 63.9%と最も多く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務など多様な働き方ができる」が 51.5%、「保育所、放課後児童クラブなどの充実を図る」が 45.7%、「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる」が 43.5%となっています。また、全体的に男性に比べ女性の方が高い割合を示す項目が多くなっており、特に「家族の積極的な支援や協力がある」「保育所、放課後児童クラブなどの充実を図る」「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる」などは、男女差が大きい項目となっています。

4 教育における男女共同参画について

(1) 学校教育の場における男女共同参画を推進するために必要な取組

- 学校教育の場において男女共同参画を推進するために必要な取組については、「性別に関わらず、個人の能力、個性、希望を重んじた進路指導を行う」が 65.4%と最も多く、次いで「学校生活において、児童・生徒の性別による役割分担をなくす」が 37.8%、「男女の人権・生き方等を含んだ性教育を実施する」が 35.7%、「男女共同参画に関する授業を充実する」が 30.7%となっています。

5 DV（配偶者や恋人からの暴力）について

(1) DVを受けた経験

- 配偶者・パートナー・恋人からの DV の被害経験については、「ある」が 7.8%、「ない」が 86.9%となっています。
- DV を受けたときの相談については、「相談しようとは思わなかった」が 34.4%と最も多く、これに「相談したかったが、相談しなかった」を合わせると、全体の約5割(50.8%)が相談していない現状があります。
- 相談しなかった理由については、「相談してもむだだと思った」が 51.6%と最も多く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が 25.8%となっており、被害者が問題を一人で抱え込み解決しようという状況もうかがえることから、被害者が気軽に相談できる環境づくりが求められます。
- DVについての相談窓口の認知については、「警察署」が 80.8%と最も多く、次いで「尾張旭市の相談窓口(女性の悩みごと相談など)」が 55.8%となっています。一方で、相談窓口を知らない人も 46.6%と約半数を占めていることから、さらに広く市民に周知していく必要があります。

6 性の多様性（性的マイノリティ）について

- 性の多様性に関する言葉の理解については、「LGBT」「カミングアウト」などの認知度は8割を超えており、一定の認知度は得られています。その一方で、「SOGI」「アウトティング」では3割台、「アライ」では1割台と認知度は低くなっています。
- 性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくために必要な取組については、「相談できる窓口の設置」が40.3%と最も多く、次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が39.9%、「幼少期からの教育の充実」が33.0%となっており、性的少数者の方たちの人権を守るための相談体制の充実や、当事者同士が交流できる居場所づくりに対するニーズが高くなっています。

7 男女の意識について

(1) 男女の地位の平等感

- 8つの分野における男女平等に関する意識については、“男性優遇”（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は、「政治の場」（82.2%）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（78.1%）、「社会全体として」（73.8%）、「職場」（62.3%）の分野においては男性偏重の傾向が強くなっています。また、「平等である」と回答した人は、高い順に「学校教育の場」（52.9%）、「地域活動の場」（36.7%）、「家庭生活」（31.0%）となっています。学校の中では比較的男女平等が保たれているものの、社会の様々な分野において、“男性優遇”という意識が強いことがうかがえます。
- 男女別にみると、全ての分野において、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と回答している割合が高くなっており、あらゆる分野で不平等を感じている女性が多いことがうかがえます。

(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

- 全体では“反対派”（「反対」+「どちらかといえば反対」）が51.6%と、“賛成派”（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）の25.3%を大きく上回っているものの、男女別でみると“賛成派”が男性で29.7%、女性で22.2%と男女間で認識の差がみられます。
- 前回調査と比較すると、“反対派”は12.4ポイント増加しています。一方で、“賛成派”は14.6ポイント減少しているものの、依然として25.3%と約4人に1人の割合となっており、いまだ男は仕事、女は家庭という意識を持っている方も少なくないことがうかがえます。

(3) 家庭における子どもの育て方について

- 女の子と男の子のそれぞれの育て方で差がみられる項目は、男の子の場合は「経済力のある子に育ててほしい」「リーダーシップのある子に育ててほしい」が、女の子の場合は「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」「家事能力（料理、掃除など）のある子に育ててほしい」が10ポイント以上上回っており、ここでも女の子は家庭を守る、男の子は仕事ができるようにというような、性別による役割分担意識が残っていることがうかがえます。

(4) 女性の職業への関わり方について

- 女性の職業への関わり方については、男女ともに「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が最も高くなっています。全国や県の調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人は、全国に比べて 3.8 ポイント低く、県に比べて 12.2 ポイント高くなっています。また、前回調査と比較すると、23.2 ポイント増加しており、女性の働き方についての意識の変化が進んできている現状がうかがえます。

8 男女共同参画全般について

(1) 10 年間における男女共同参画の進捗度について

- この 10 年くらいの間には男女共同参画は進んだと思うかについては、“進んだと感じている人”(「かなり進んだと思う」+「やや進んだと思う」)の割合が 47.9%となっており、前回調査に比べて 4.7 ポイント増加しています。

(2) 男女共同参画社会を実現するために力を入れていくことについて

- 男女共同参画社会の実現のために、今後市民が力を入れていくべきことについては、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が 62.4%と最も多く、次いで「性別に基づく固定的な習慣、しきたりなどを見直す」が 46.5%、「家庭において、男女平等を基本とする子育てや教育を行う」が 40.5%となっています。また、男女の意識に 10 ポイント以上の差が見られたのは、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」(女性 69.3%、男性 53.9%)で 15.4 ポイント、女性が男性を上回っています。
- 男女共同参画社会の実現のために、今後行政が力を入れていくべきことについては、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が 46.1%と最も多く、次いで「教育の場において男女共同参画を浸透させる」が 34.1%となっています。また、男女の意識に 10 ポイント以上の差が見られたのは、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」(女性 53.1%、男性 37.7%)で 15.4 ポイント、女性が男性を上回っています。

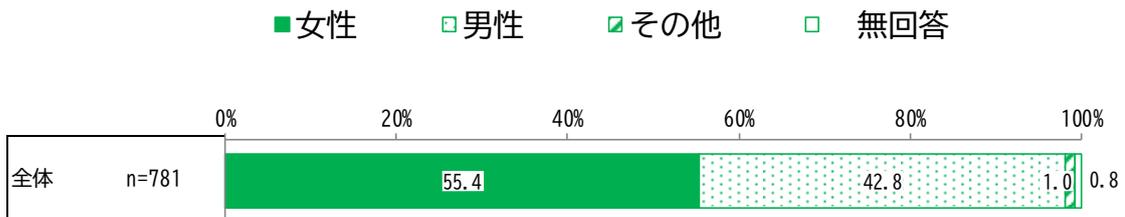
Ⅲ 市民意識調査結果

1 あなたご自身のことについて

問1 性別（○は1つ）

➤ 回答者の性別は、「女性」が55.4%、「男性」が42.8%と、「女性」の占める割合が高くなっています。

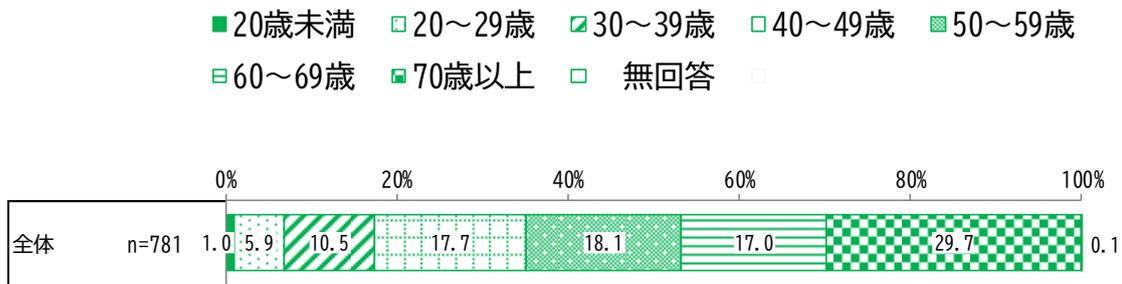
図表1 性別について



問2 年齢（○は1つ）

➤ 回答者の年代は、「70歳以上」が29.7%と最も多く、次いで「50～59歳」(18.1%)、「40～49歳」(17.7%)、「60～69歳」(17.0%)、「30～39歳」(10.5%)、「20～29歳代」(5.9%)、「20歳未満」(1.0%)となっています。

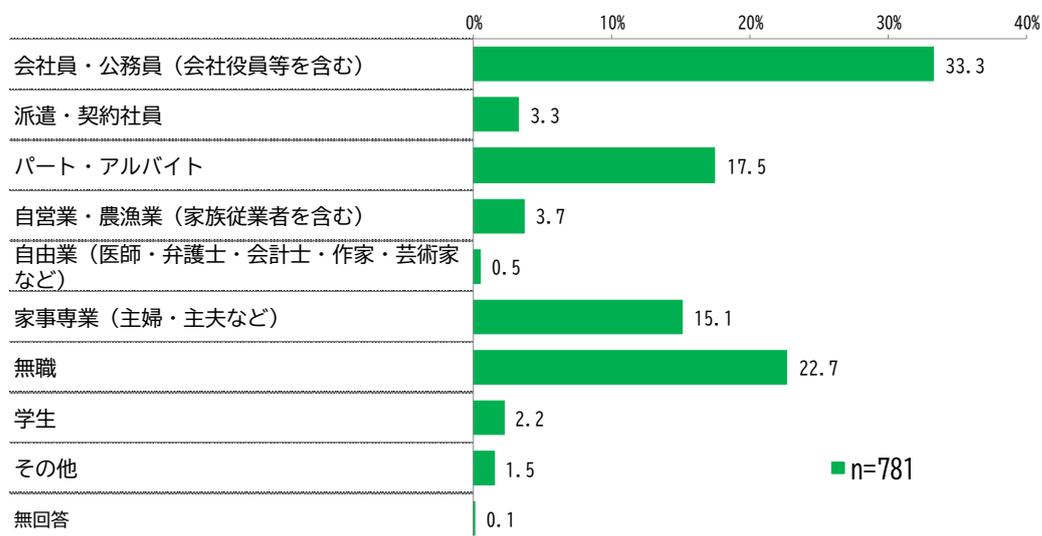
図表2 年齢について



問3 職業 (○は1つ)

➤ 「会社員・公務員(会社役員等を含む)」が 33.3%で最も多く、次いで「無職」が 22.7%、「パート・アルバイト」が 17.5%、「家事専業(主婦・主夫など)」が 15.1%となっています。

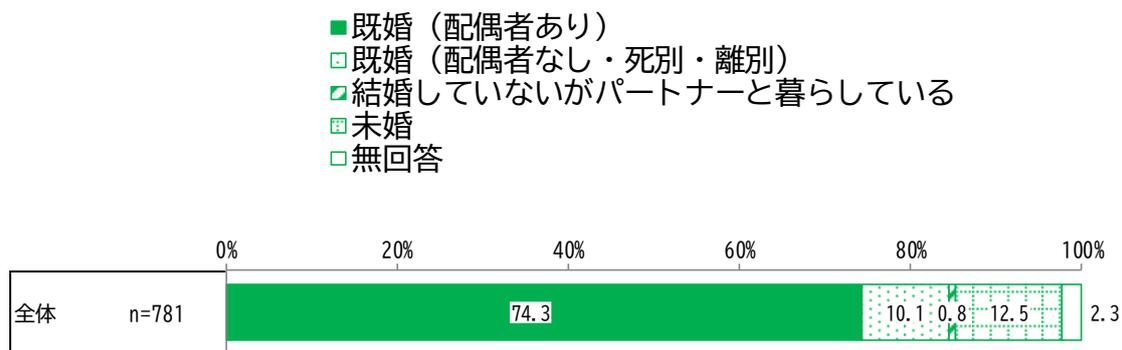
図表 3 職業について



問4 婚姻状況 (○は1つ)

➤ 婚姻の状況に関しては、「既婚(配偶者あり)」が 74.3%、「未婚」が 12.5%、「既婚(配偶者なし・死別・離別)」が 10.1%となっています。

図表 4 婚姻状況について



問4-1 共働きの有無（○は1つ）

➤ 夫婦の働き方については、共働きを「している」が46.9%、「していない」が46.9%となっています。

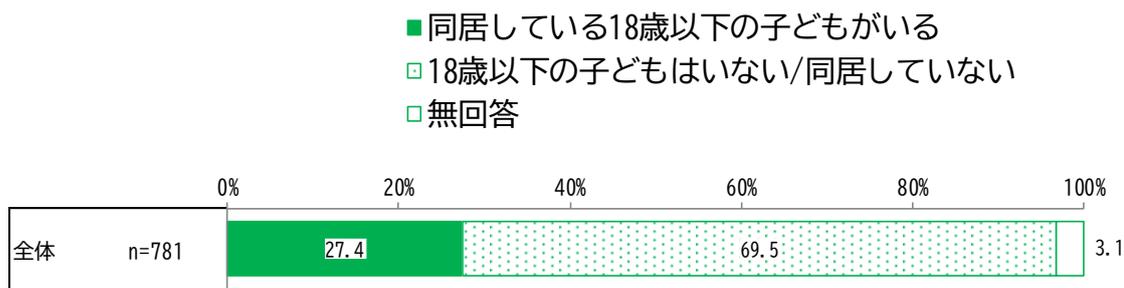
図表 5 共働きの有無について



問5 18歳以下の子どもの有無（○は1つ）

➤ 同居の子どもの有無については、「同居している18歳以下の子どもがいる」が27.4%、「18歳以下の子どもはいない/同居していない」が69.5%となっています。

図表 6 18歳以下の子どもの有無について



2 家庭生活における男女共同参画について

問6 現在、あなたの家庭では、次にあげることがらは、主に誰の役割ですか。

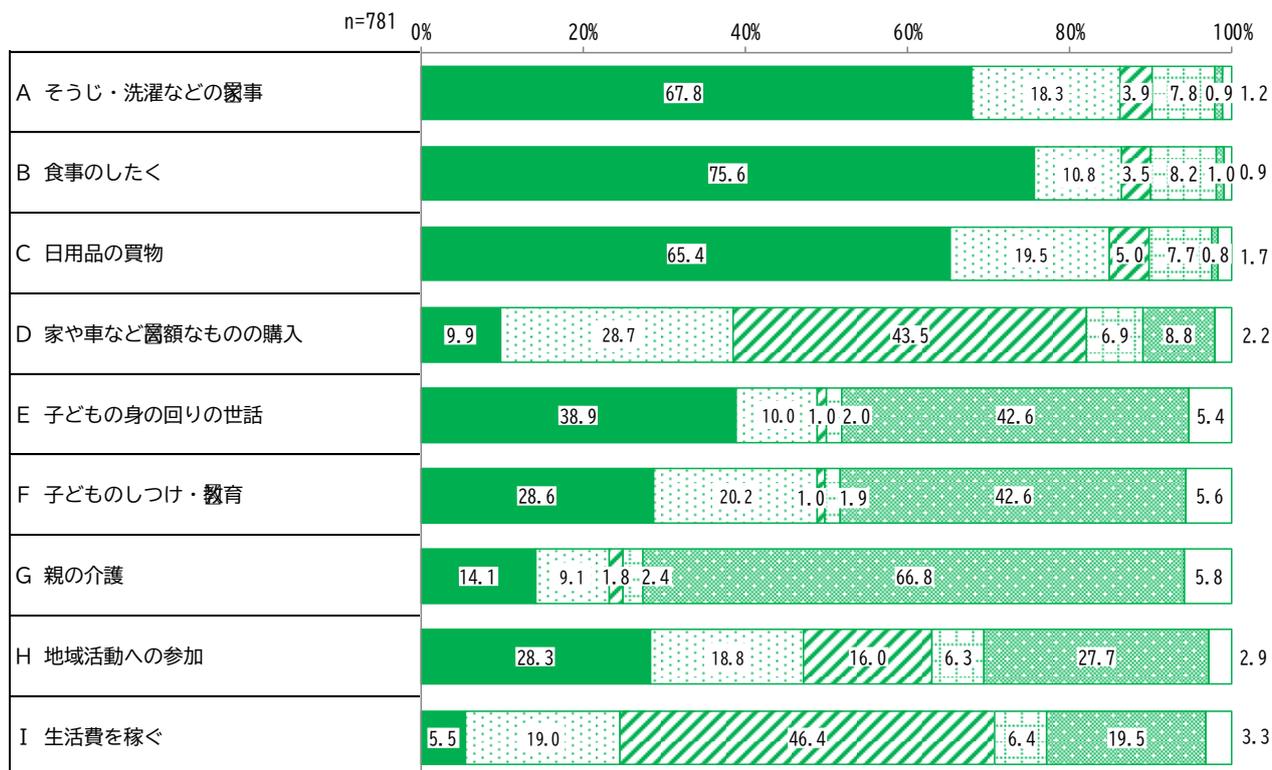
(A～Iのそれぞれについて、○は1つずつ)

- 家庭の仕事の役割については、「A そうじ・洗濯などの家事」「B 食事のしたく」「C 日用品の買物」「H 地域活動への参加」では「主に女性が担っている」の割合が最も高くなっています。また、「D 家や車など高額なものの購入」「I 生活費を稼ぐ」では「主に男性が担っている」が、「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「G 親の介護」は、該当しないを除けば「主に女性が担っている」の占める割合が最も高くなっており、家庭での役割が女性に偏る傾向がみられます。

<全体>

図表7 家庭での役割について

- 主に女性が担っている
- 女性・男性同じくらい
- ▨ 主に男性が担っている
- ▩ 家族構成上、自分だけが該当
- 該当しない
- 無回答



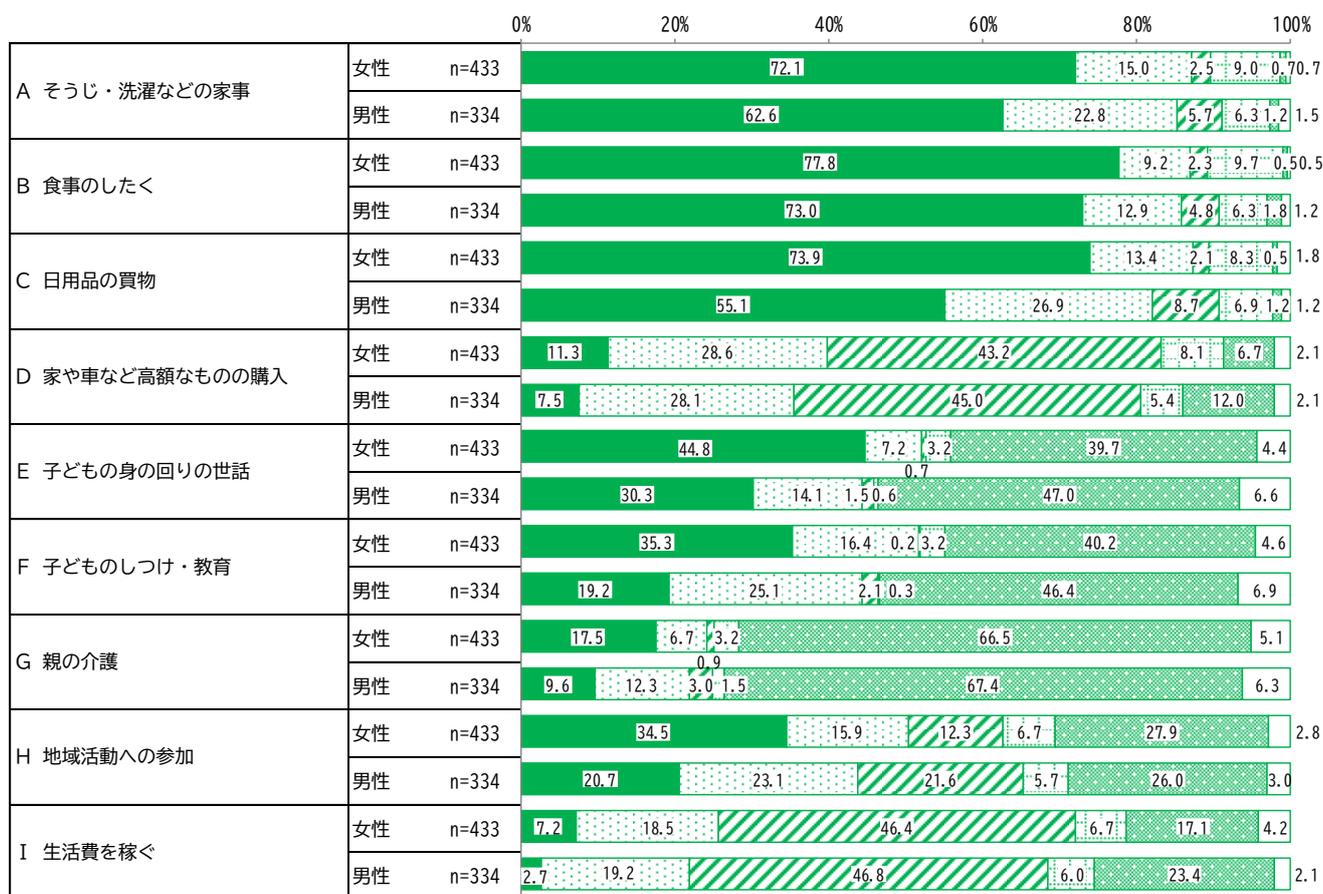
※「主に女性が担っている」:(「すべて女性が担っている」+「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」)

※「主に男性が担っている」:(「すべて男性が担っている」+「主に男性が担っていて、女性は手伝う程度」)

▶ 性別で見ると、全ての項目で「主に女性が担っている」は、女性が男性を上回っており、特に「C 日用品の買物」「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「H 地域活動への参加」では、10ポイント以上の開きがあり、男女で意識の差がみられます。

<性別>

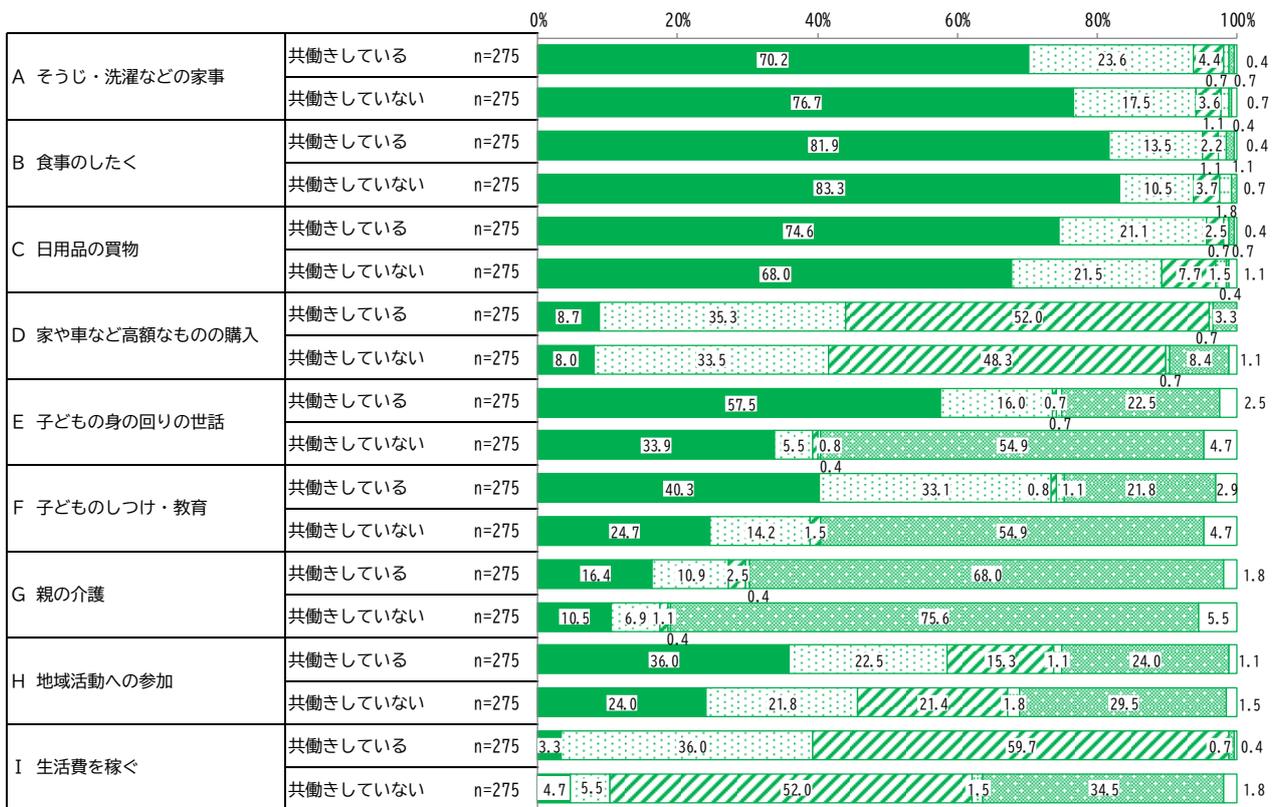
- 主に女性が担っている
- ▣ 女性・男性同じくらい
- ▤ 主に男性が担っている
- 家族構成上、自分だけが該当
- ▦ 該当しない
- 無回答



▶ 共働きの有無別でみると、「A そうじ・洗濯などの家事」「B 食事のしたく」「C 日用品の買物」「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「H 地域活動への参加」などの、家庭における家事や育児は、共働きの有無にかかわらず、男性と比較して女性に偏っている傾向にあります。

<共働き別>

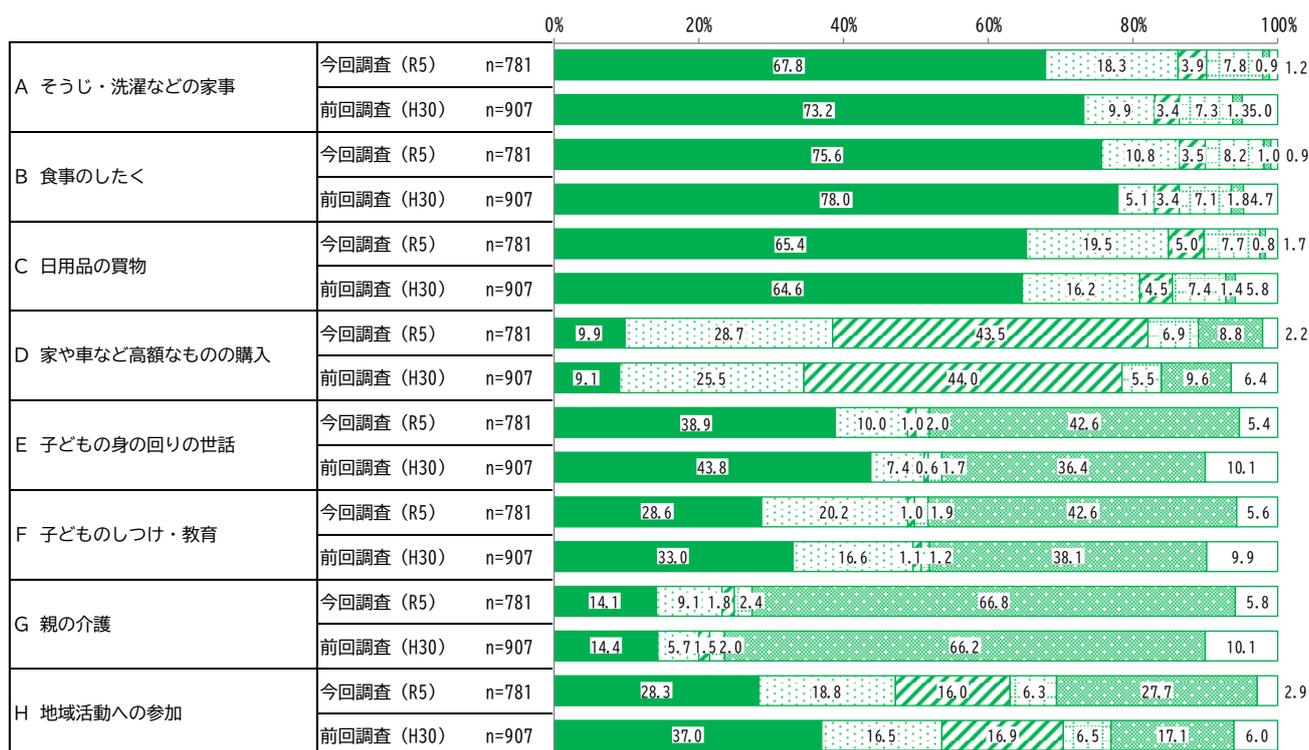
- 主に女性が担っている
- 女性・男性同じくらい
- 主に男性が担っている
- 家族構成上、自分だけが該当
- 該当しない
- 無回答



▶ 前回調査と比較すると、「A そうじ・洗濯などの家事」「B 食事のしたく」「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「G 親の介護」「H 地域活動への参加」においては、「主に女性が担っている」の割合は減少しています。

<経年比較>

- 主に女性が担っている
- ▨ 女性・男性同じくらい
- ▩ 主に男性が担っている
- ▧ 家族構成上、自分だけが該当
- ▦ 該当しない
- 無回答



※「I 生活費を稼ぐ」は、前回調査では設問にないため比較はできない。

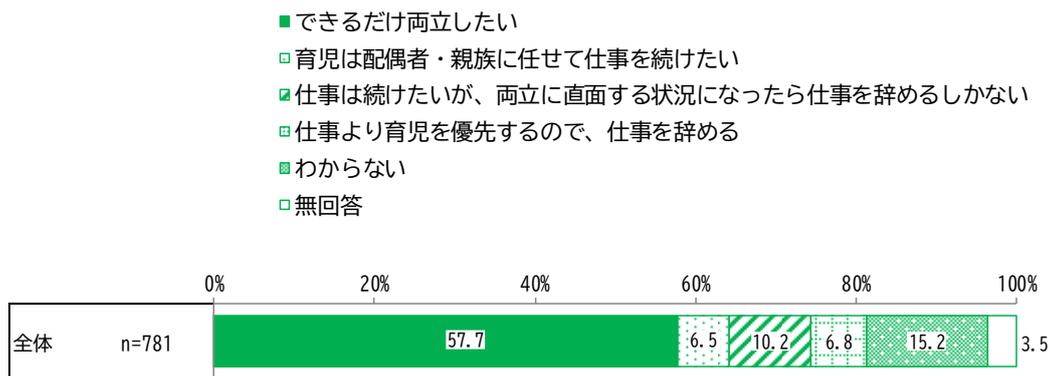
問7 あなたは、仕事と育児、仕事と介護の両立について、それぞれどのように考えますか。※仕事や育児、介護をしていない人は、そのような状況に直面した場合を想定してお答えください。

【仕事と育児について】

- 仕事と育児については、「できるだけ両立したい」が 57.7%と最も多く、次いで「わからない」が 15.2%、「仕事は続けたいが、両立に直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」が 10.2%となっています。

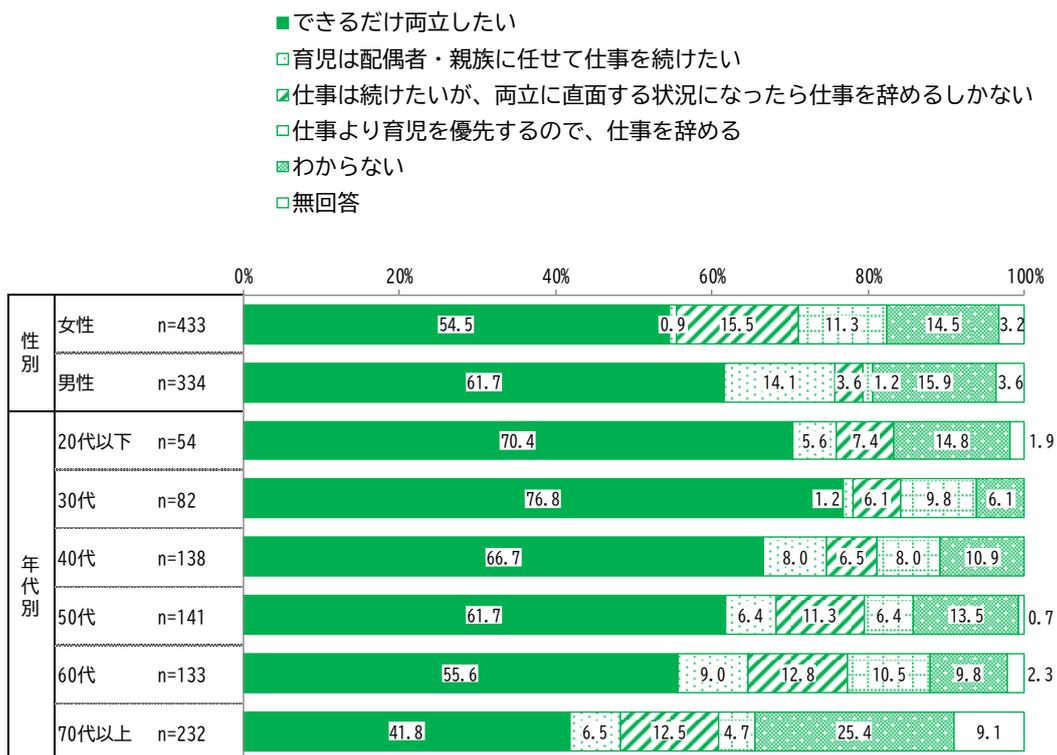
<全体>

図表 8 仕事と育児について



- 性別でみると、「できるだけ両立したい」「育児は配偶者・親族に任せて仕事を続けたい」では、男性が女性を、それぞれ 7.2 ポイント、13.2 ポイント上回っています。一方で、「仕事は続けたいが、両立に直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より育児を優先するので、仕事を辞める」は、女性が男性を 10 ポイント以上上回っています。
- 年代別でみると、「できるだけ両立したい」は、30 代をピークに年齢とともに減少する傾向にあります。

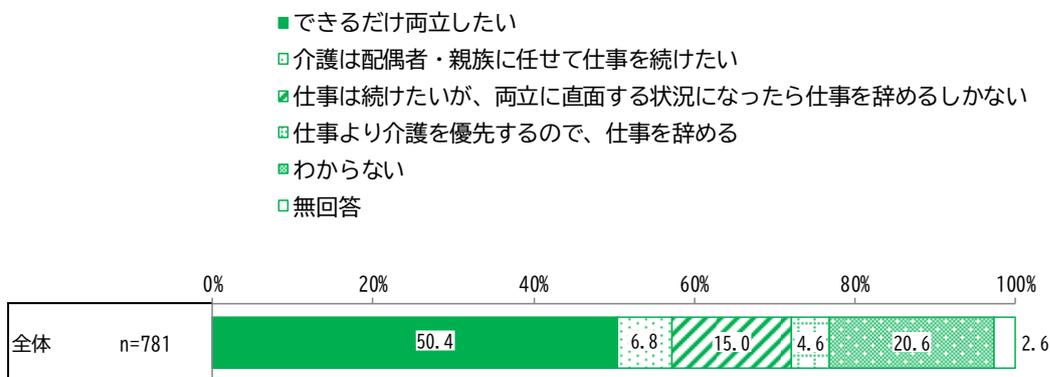
<性・年代別>



【仕事と介護について】

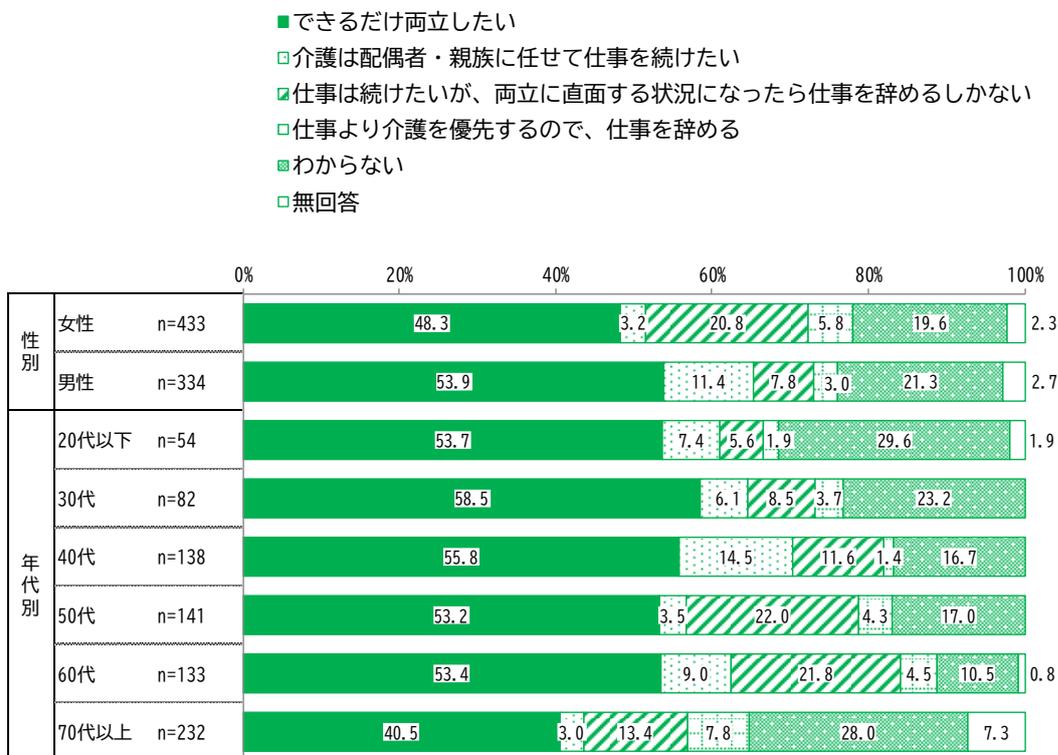
- ▶ 仕事と介護については、「できるだけ両立したい」が50.4%と最も多く、次いで「わからない」が20.6%、「仕事は続けたいが、両立に直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」が15.0%となっています

図表 9 仕事と介護について



- ▶ 性別でみると、「介護は配偶者・親族に任せて仕事を続けたい」では、男性が女性を8.2ポイント上回っているのに対し、「仕事は続けたいが、両立に直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」は、女性が男性を13.0ポイント上回っています。
- ▶ 年代別でみると、「できるだけ両立したい」は、70代以上を除く年代で5割を超えています。

<性・年代別>

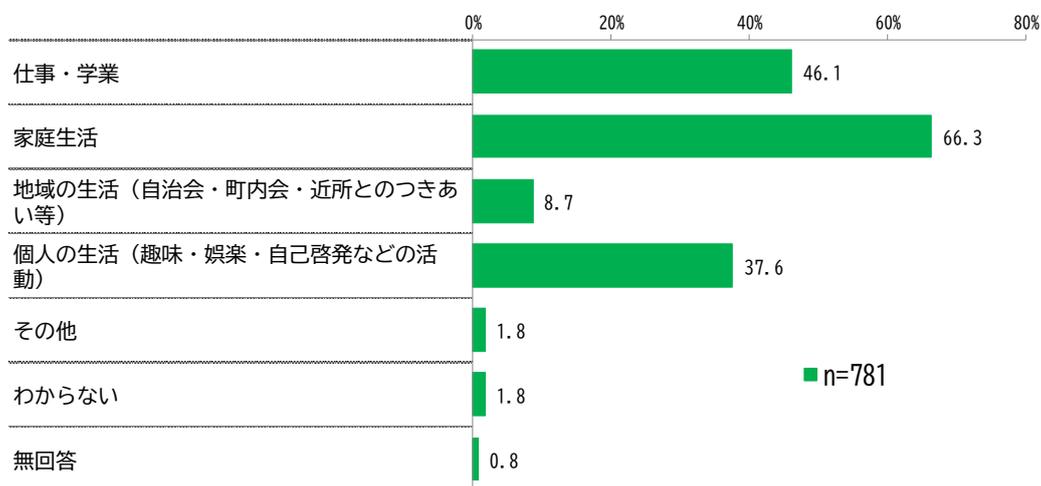


問8 あなたの生活の中で、実際に優先しているものは次のどれですか。（〇はいくつでも）

➤ 生活の中で優先しているものについては、「家庭生活」が66.3%と最も多く、次いで「仕事・学業」が46.1%、「個人の生活（趣味・娯楽・自己啓発などの活動）」が37.6%となっています。

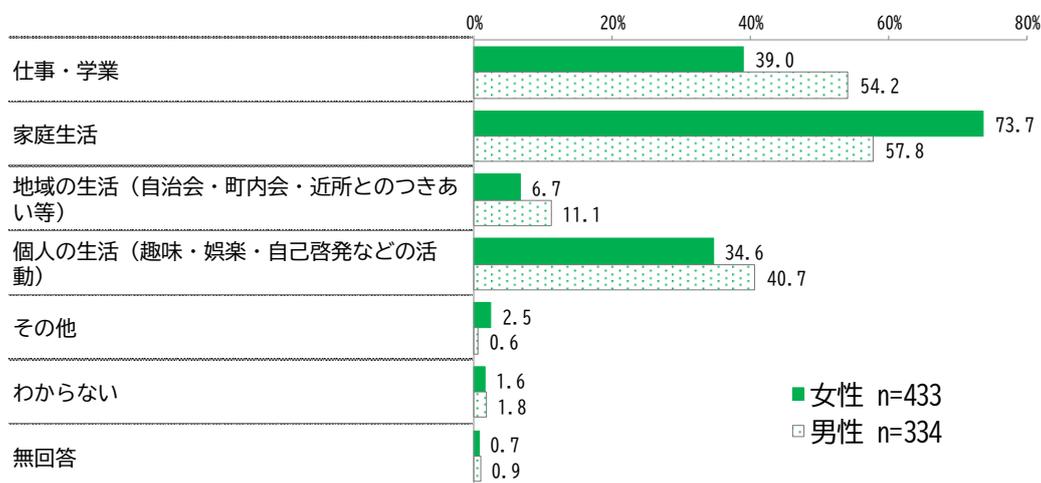
<全体>

図表 10 生活で実際に優先しているものについて



➤ 性別でみると、「家庭生活」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を15.9ポイント上回っています。また、「仕事・学業」では、男性が女性より15.2ポイント高くなってしています。

<性別>



▶ 年代別でみると、「仕事・学業」「家庭生活」は 30～60 代で上位2項目にあげられています。また、20 代以下では「仕事・学業」「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」が、70 代以上では「家庭生活」「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」が上位2項目にあげられています。

<年代別>

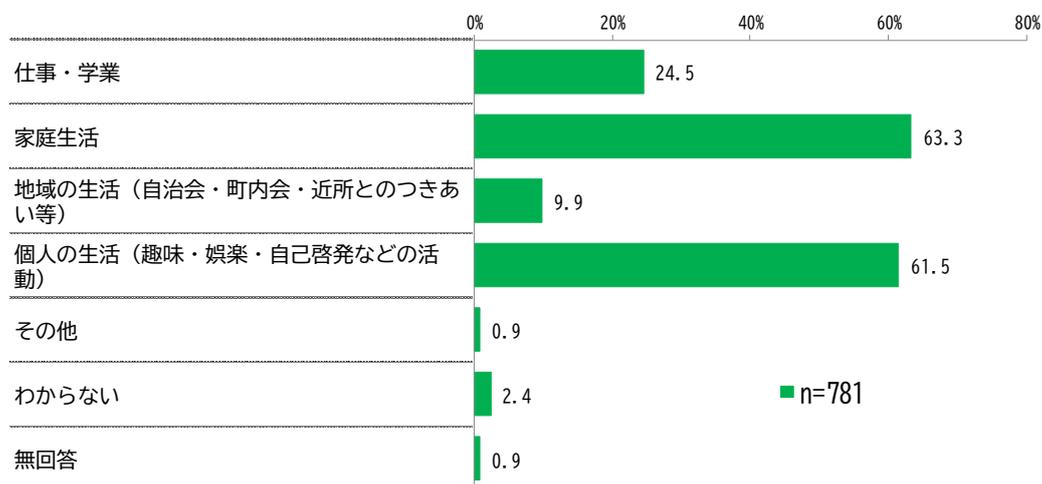
		全 体	仕事・学業	家庭生活	地域の生活 (自治会・町 内会・近所と のつきあい 等)	個人の生活 (趣味・娯 楽・自己啓発 などの活動)	その他	わからない	無回答
全 体		781	46.1	66.3	8.7	37.6	1.8	1.8	0.8
年 代	20代以下	54	68.5	40.7	0.0	55.6	3.7	5.6	0.0
	30代	82	59.8	78.0	6.1	26.8	1.2	1.2	0.0
	40代	138	65.9	72.5	2.9	26.8	2.9	0.7	0.0
	50代	141	65.2	61.7	7.1	26.2	0.7	0.7	0.0
	60代	133	45.9	69.9	5.3	41.4	1.5	0.0	1.5
	70代以上	232	12.5	65.5	18.1	48.7	1.7	3.4	1.7

問9 あなたの生活の中で、理想として優先したいものは次のどれですか。(〇はいくつでも)

➤ 生活の中で理想として優先したいものについては、「家庭生活」が63.3%と最も多く、次いで「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」が61.5%、「仕事・学業」が24.5%となっています。

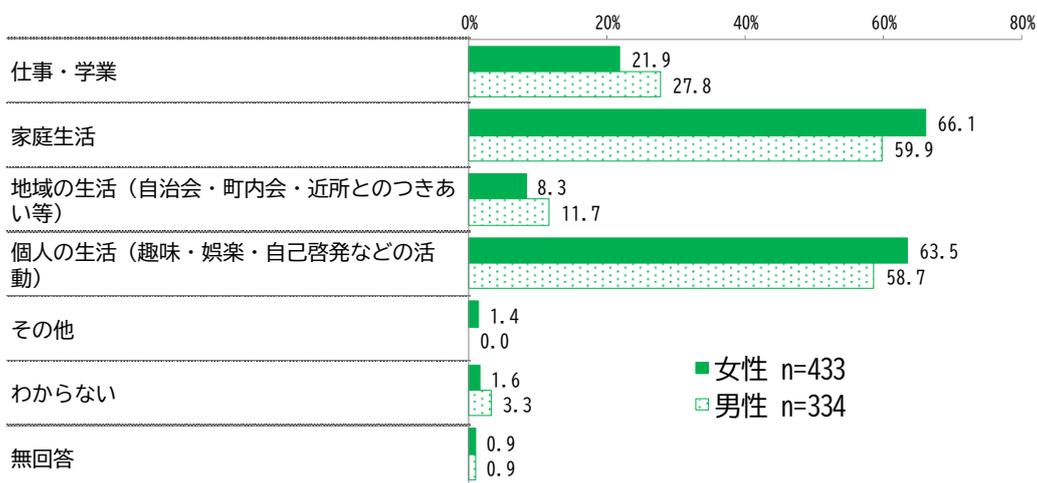
<全体>

図表 11 生活で理想として優先したいものについて



➤ 性別でみると、「家庭生活」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を6.2ポイント上回っています。また、「仕事・学業」では、男性が女性より5.9ポイント高くなっています。

<性別>



- ▶ 年代別で見ると、20代以下を除き順位に違いはあるものの、生活の中で理想として優先したいものの上位2項目は「家庭生活」「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」があげられています。また、「家庭生活」は30～40代で、「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」は20代以下や50代以上で高くなっています。

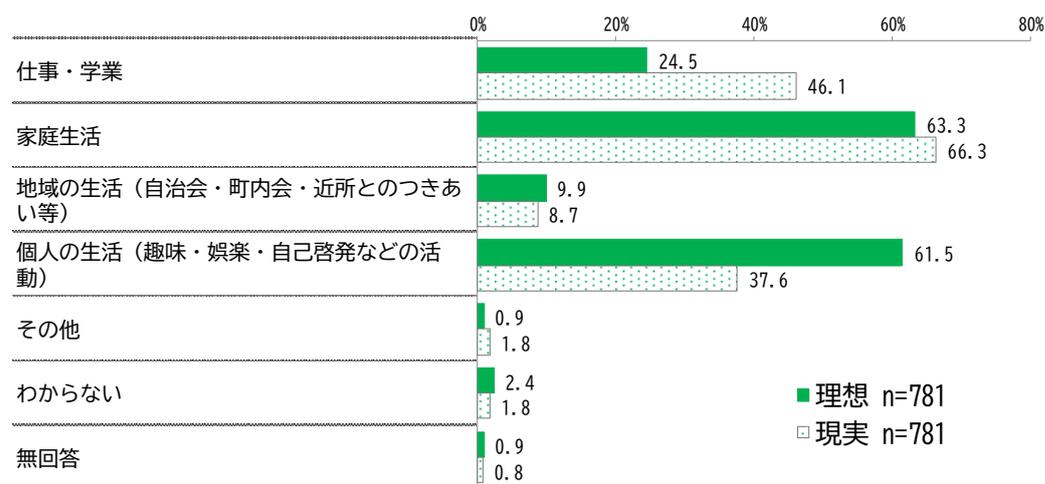
<年代別>

		全 体	仕事・学業	家庭生活	地域の生活 (自治会・町内会・近所とのつきあい等)	個人の生活 (趣味・娯楽・自己啓発などの活動)	その他	わからない	無回答
全 体		781	24.5	63.3	9.9	61.5	0.9	2.4	0.9
年 代	20代以下	54	44.4	40.7	3.7	74.1	3.7	3.7	0.0
	30代	82	25.6	87.8	2.4	53.7	1.2	0.0	0.0
	40代	138	38.4	77.5	5.8	58.0	0.7	1.4	0.0
	50代	141	24.8	60.3	6.4	62.4	0.7	2.1	0.7
	60代	133	24.8	54.1	7.5	68.4	0.0	3.0	1.5
	70代以上	232	10.8	58.6	19.8	58.6	0.9	3.4	1.7

【問9理想と問8現実の比較】

- ▶ 理想と現実を比較すると、実際に「仕事・学業」を優先しているが46.1%と、理想より21.6ポイント高くなっています。また、理想の第2位にあげられていた「個人の生活(趣味・娯楽・自己啓発などの活動)」を優先したいは、理想に比べ現実が23.9ポイント下回っており、理想と現実の間に大きなギャップが生じていることがうかがえます

<理想と現実の比較>



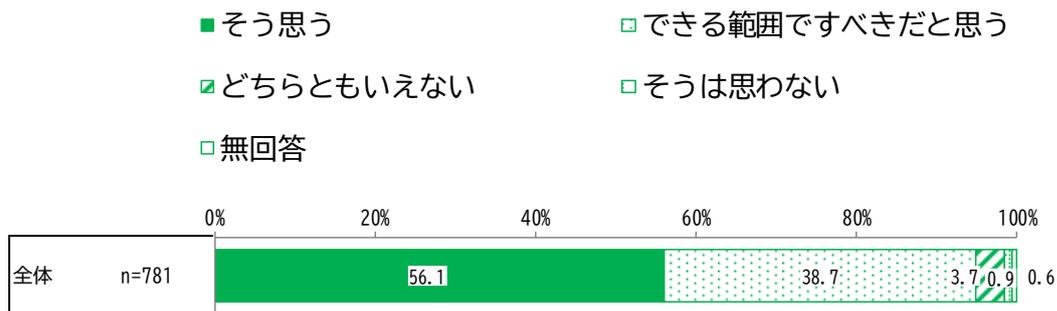
問10 あなたは、家事・育児・介護に男性も参加すべきという考え方についてどう思いますか。

(○は1つ)

▶ 家事・育児・介護に男性も参加すべきという考え方については、「そう思う」が 56.1%と最も多く、次いで「できる範囲ですべきだと思う」が 38.7%となっており、これらを合わせた、この考え方に賛成している人が9割を超えています。

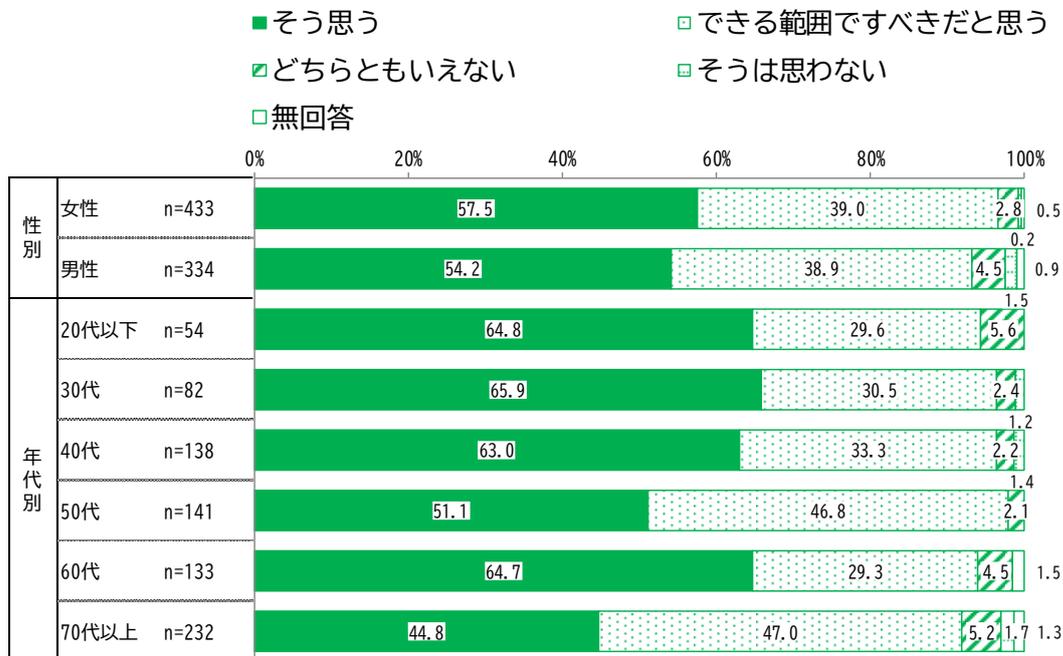
<全体>

図表 12 家事・育児・介護に男性も参加すべきという考え方について



▶ 性別でみると、男女では大きな差はなく、この考え方に賛成している人が9割を超えています。
▶ 年代別でみると、いずれの年代においてもこの考え方に賛成している人が9割を超えています。

<性・年代別>

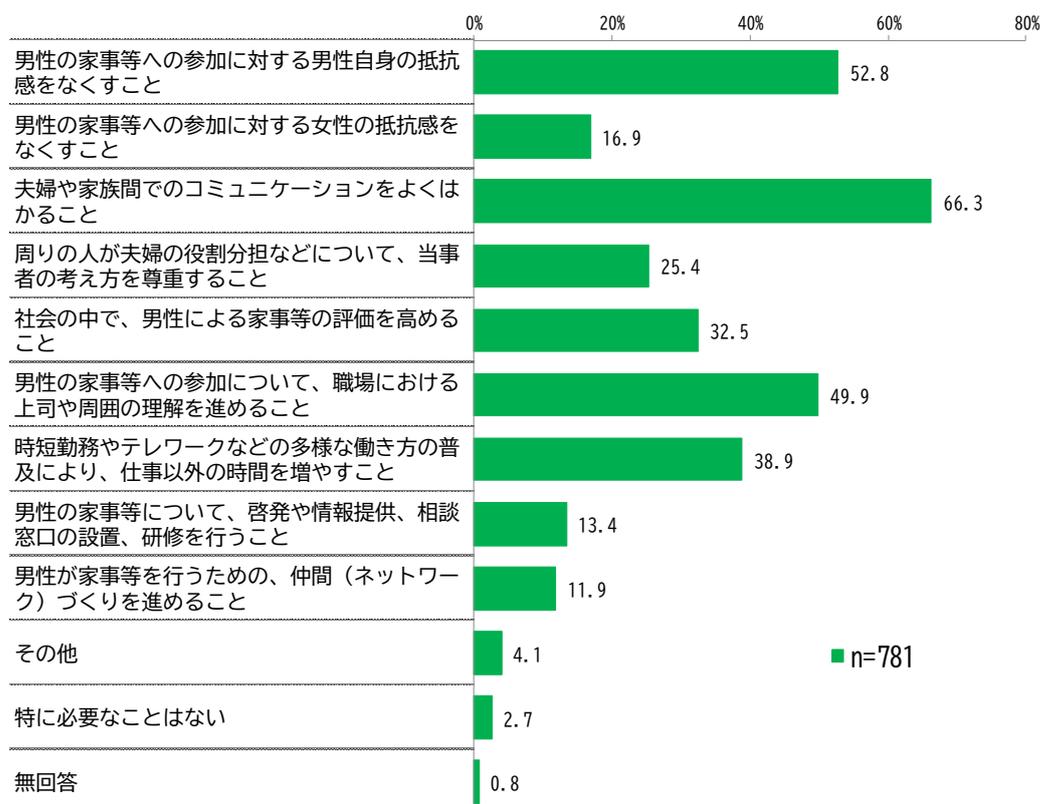


問 11 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に、より積極的に参加するには何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ▶ 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に、より積極的に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 66.3%で最も多く、次いで「男性の家事等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 52.8%、「男性の家事等への参加について、職場における上司や周囲の理解を進めること」が 49.9%となっています。

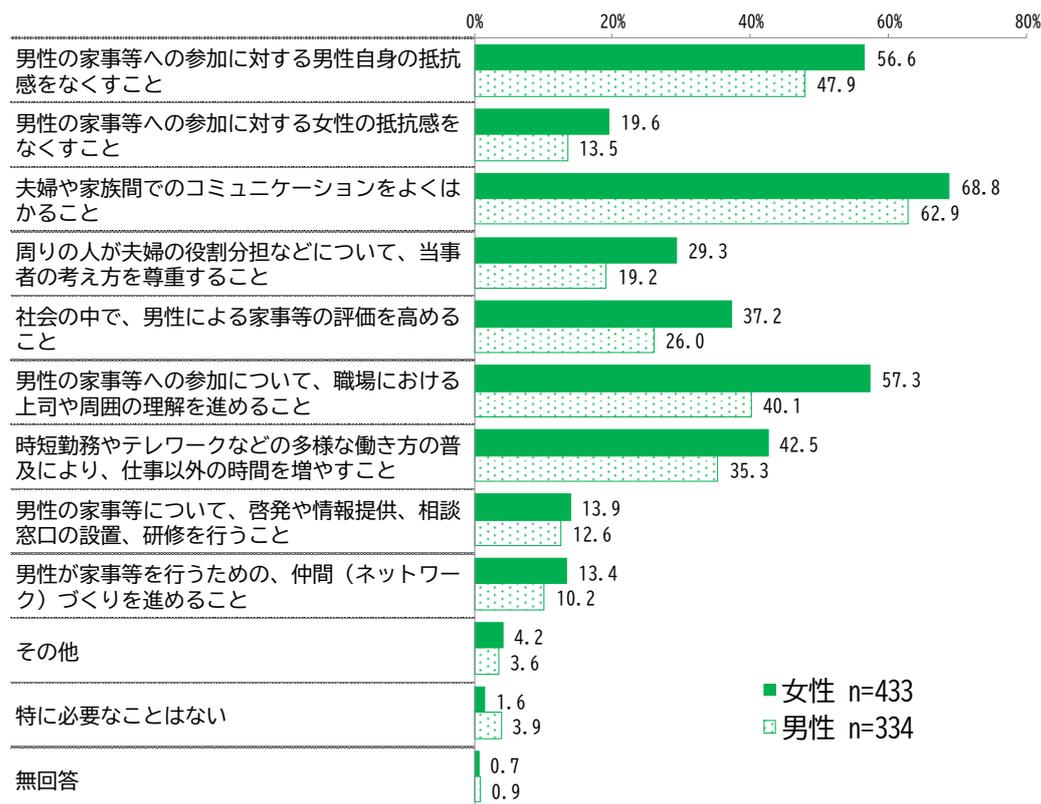
<全体>

図表 13 全体男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的な参加に必要なこと



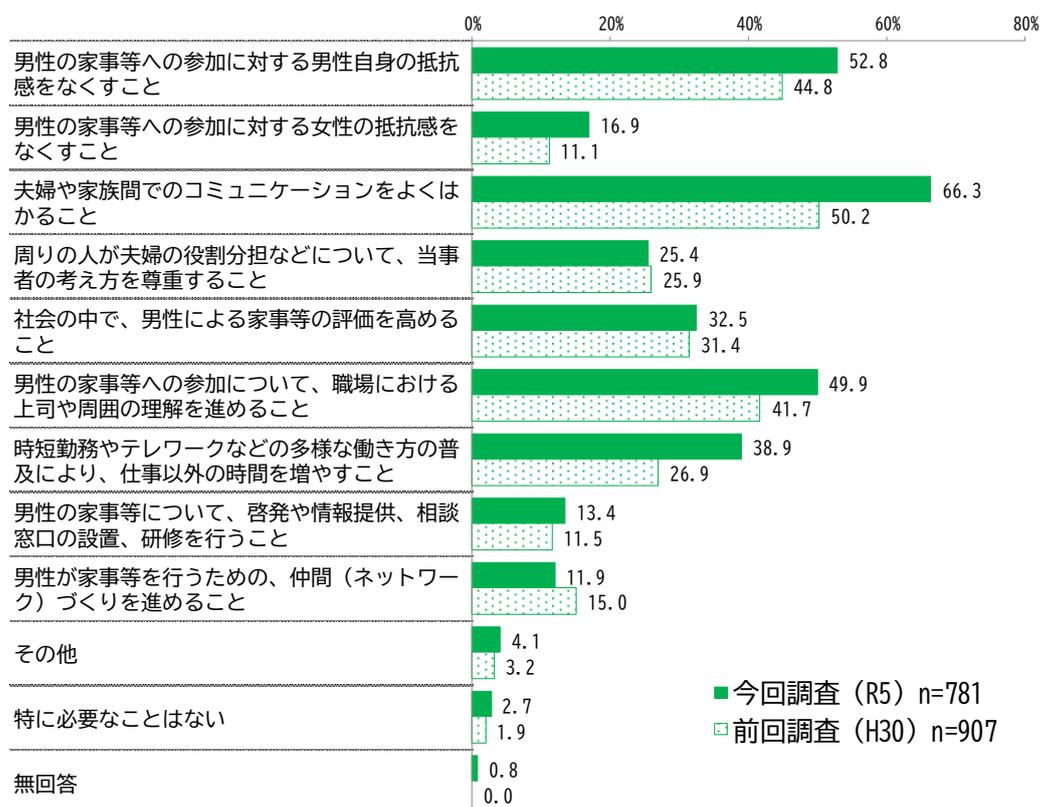
▶ 性別でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が男女ともに最も高くなっています。また、全体的に男性に比べ女性の方が高い割合を示す項目が多くなっており、特に「男性の家事等への参加について、職場における上司や周囲の理解を進めること」「社会の中で、男性による家事等の評価を高めること」「周りの人が夫婦の役割分担などについて、当事者の考え方を尊重すること」などは、男女差が大きい項目となっています。

<性別>



- ▶ 前回調査と比較すると、ほとんどの項目で増加しており、特に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「時短勤務やテレワークなどの多様な働き方の普及により、仕事以外の時間を増やすこと」は10ポイント以上増加しています。

<経年比較>



3 地域活動における男女共同参画について

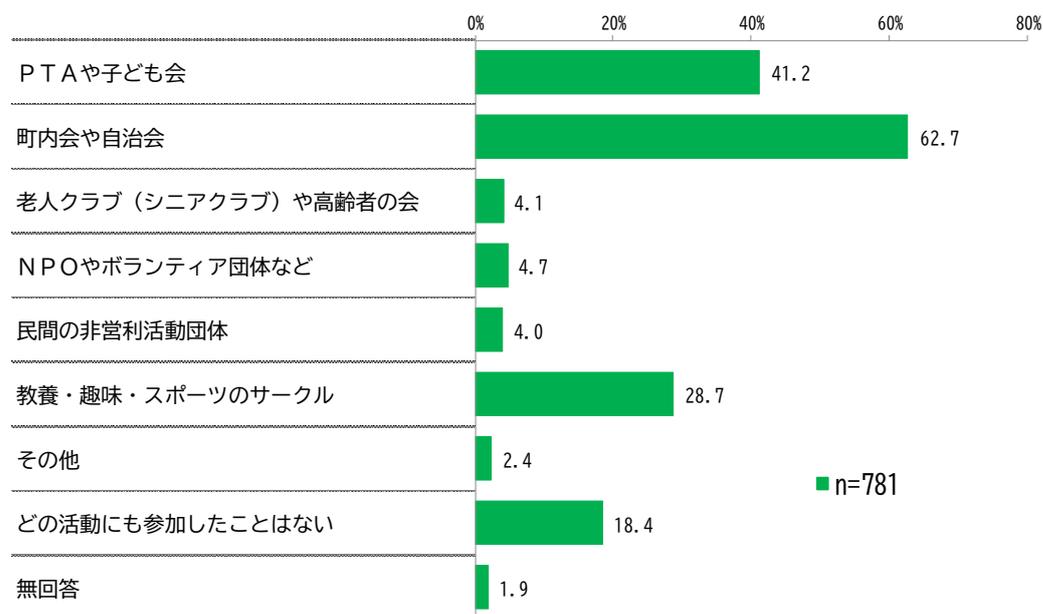
問12 あなたは、現在（今までに）何か地域の活動に参加した経験はありますか。

（○はいくつでも）

- ▶ 地域活動に“参加している人”は、79.7%と約8割を占めています。また、参加している人では「町内会や自治会」が62.7%と最も多く、次いで「PTAや子ども会」が41.2%、「教養・趣味・スポーツのサークル」が28.7%となっています。一方で、「どの活動にも参加したことはない」人も約2割を占めています。

<全体>

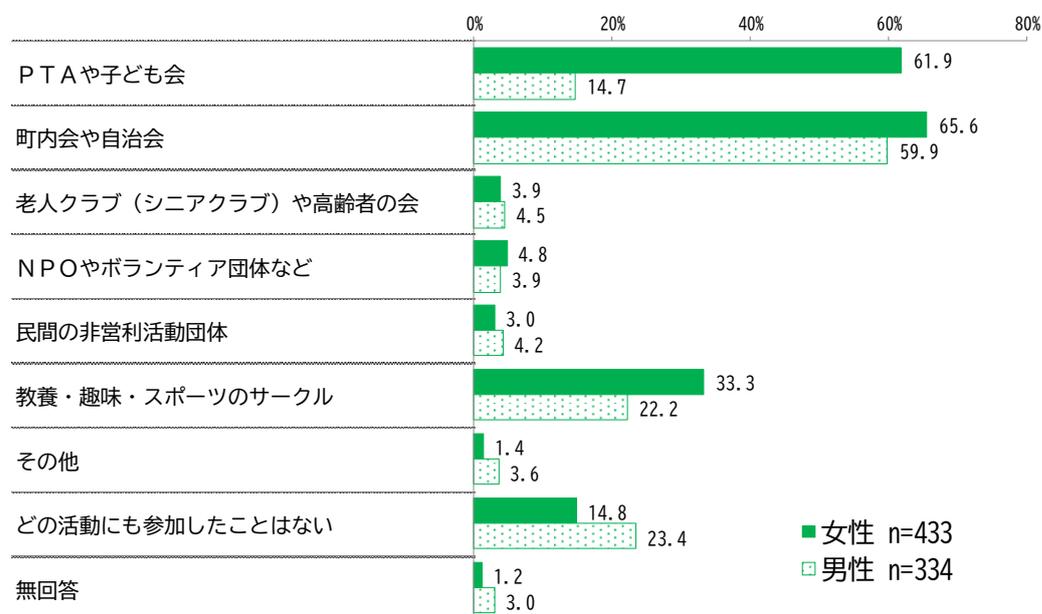
図表 14 地域活動への参加経験について



※ “参加している人”：(全体から「どの活動にも参加したことはない」と「無回答」を除いた割合)

▶ 性別でみると、「町内会や自治会」が男女ともに最も高くなっています。また、女性は「PTA や子ども会」「教養・趣味・スポーツのサークル」などで男性より高くなっています。一方で、「どの活動にも参加したことはない」は男性が女性を 8.6 ポイント上回っています。

<性別>



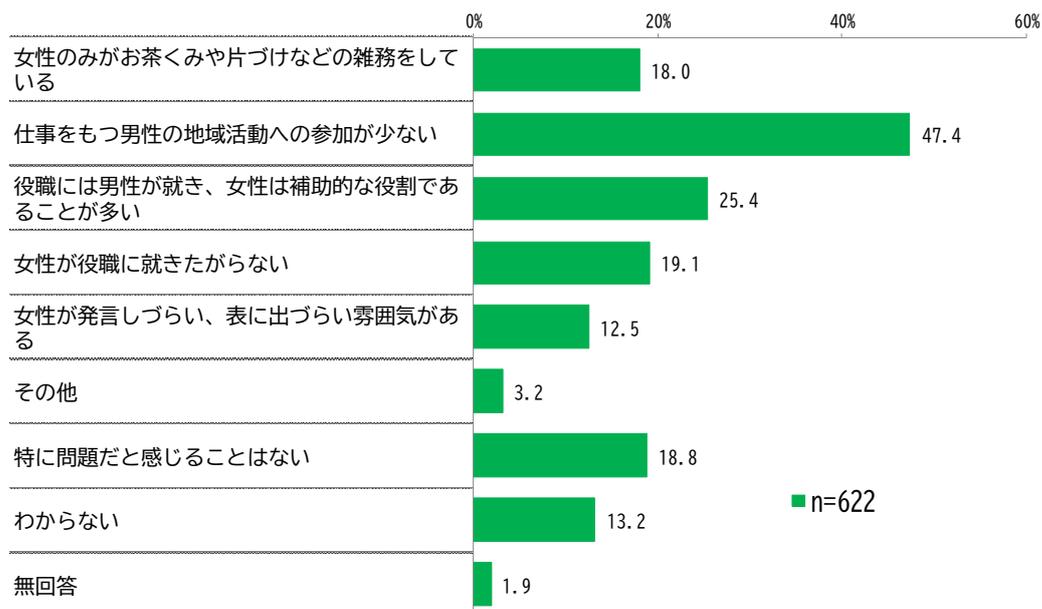
問12-1 地域活動の中で、男女共同参画の視点からどのような問題があると思いますか。

(○はいくつでも)

- ▶ 地域活動の中で、男女共同参画の視点からみた問題点については、「仕事をもつ男性の地域活動への参加が少ない」が47.4%と最も多く、次いで「役職には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」が25.4%、「女性が役職に就きたがらない」が19.1%となっています。

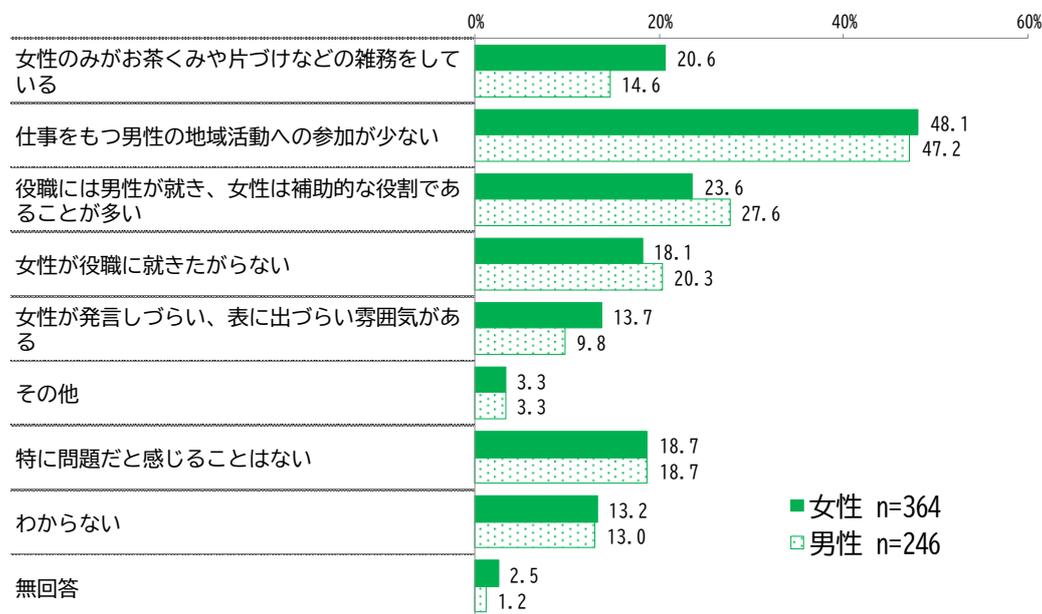
<全体>

図表 15 地域活動における問題点について



▶ 性別でみると、「仕事をもつ男性の地域活動への参加が少ない」が男女ともに最も高くなっています。また、女性では「女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている」が 20.6%と、男性より 6.0 ポイント高くなっています。

<性別>



▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「仕事をもつ男性の地域活動への参加が少ない」の占める割合が最も高くなっており、50代では6割を超えています。

<年代別>

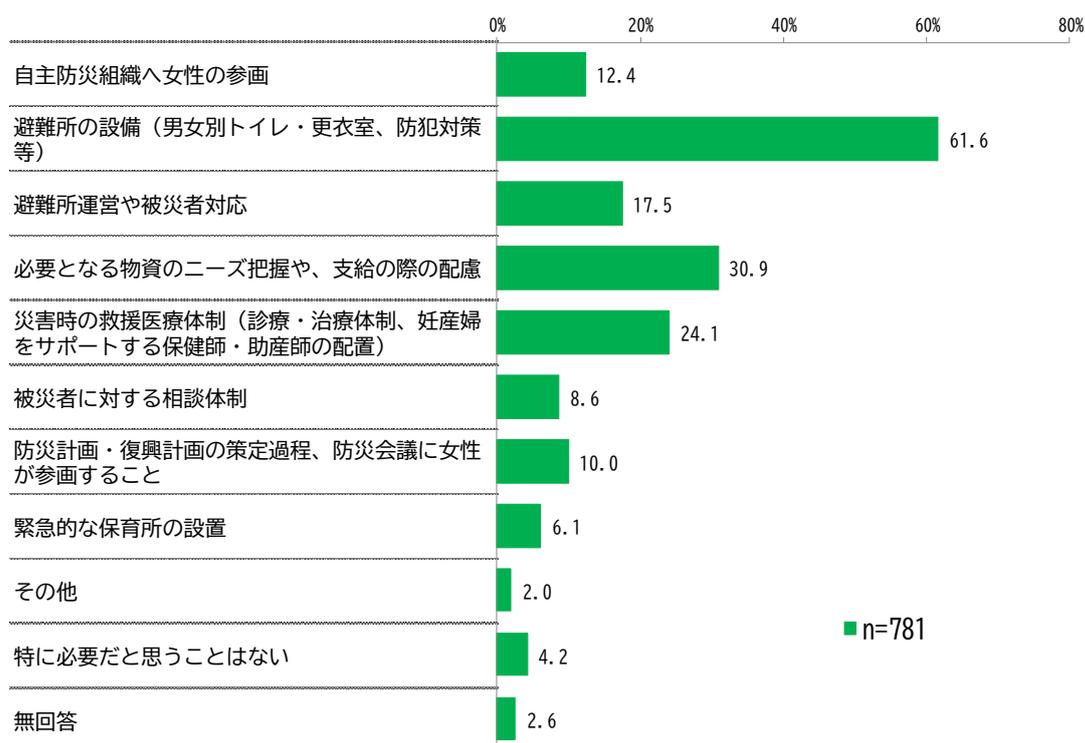
	全体	女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている	仕事をもつ男性の地域活動への参加が少ない	役職には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い	女性が役職に就きたがらない	女性が発言しづらい、表に出づらい雰囲気がある	その他	特に問題だと感じることはない	わからない	無回答	
全体	622	18.0	47.4	25.4	19.1	12.5	3.2	18.8	13.2	1.9	
年代	20代以下	28	21.4	32.1	21.4	7.1	7.1	0.0	7.1	32.1	0.0
	30代	55	16.4	38.2	21.8	12.7	7.3	5.5	12.7	23.6	0.0
	40代	103	22.3	40.8	23.3	12.6	15.5	4.9	11.7	21.4	1.0
	50代	114	16.7	60.5	21.1	23.7	13.2	5.3	14.9	7.0	0.9
	60代	120	17.5	45.0	25.0	14.2	12.5	2.5	22.5	10.0	2.5
	70代以上	201	16.9	49.8	30.3	26.4	12.4	1.5	25.9	9.0	3.5

問 13 防災・災害復興対策で男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(〇は2つまで)

- ▶ 防災・災害復興対策で男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があることについては、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が 61.6%と最も多く、次いで「必要となる物資のニーズ把握や、支給の際の配慮」が 30.9%、「災害時の救援医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)」が 24.1%となっています。

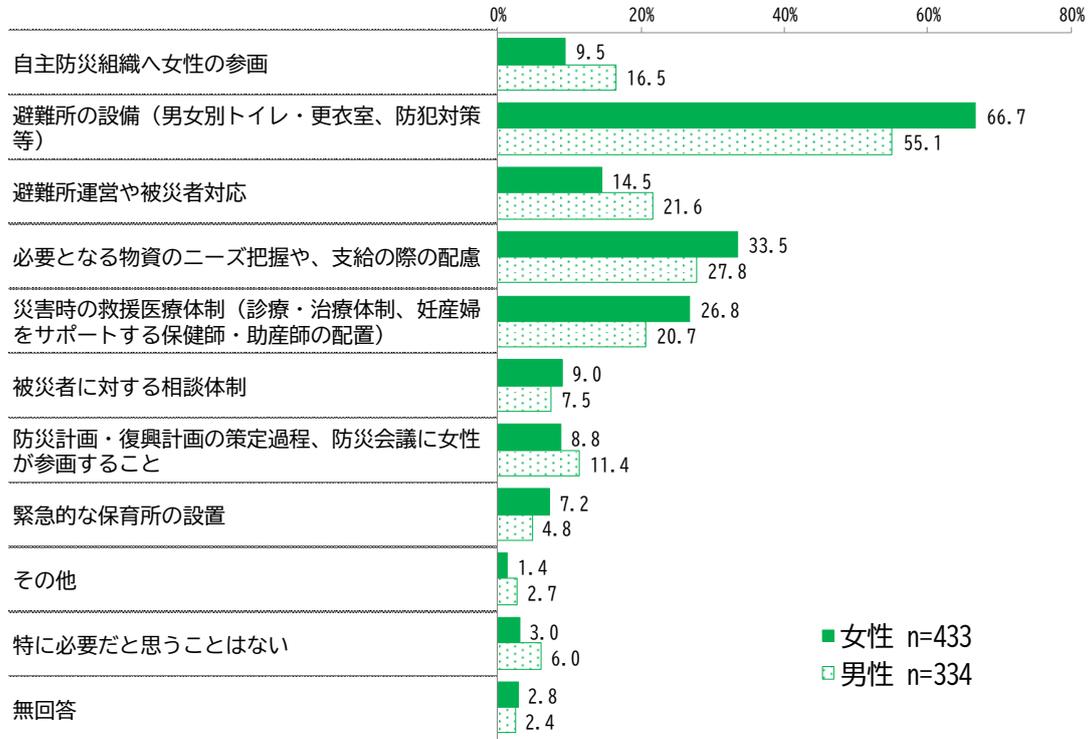
<全体>

図表 16 防災災害復興対策で取り組むべきことについて



▶ 性別でみると、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が男女ともに最も高くなっており、特に女性が男性を 11.6 ポイント上回っています。また、「避難所運営や被災者対応」「自主防災組織へ女性の参画」では、男性が女性を 7 ポイント程度上回っています。

<性別>



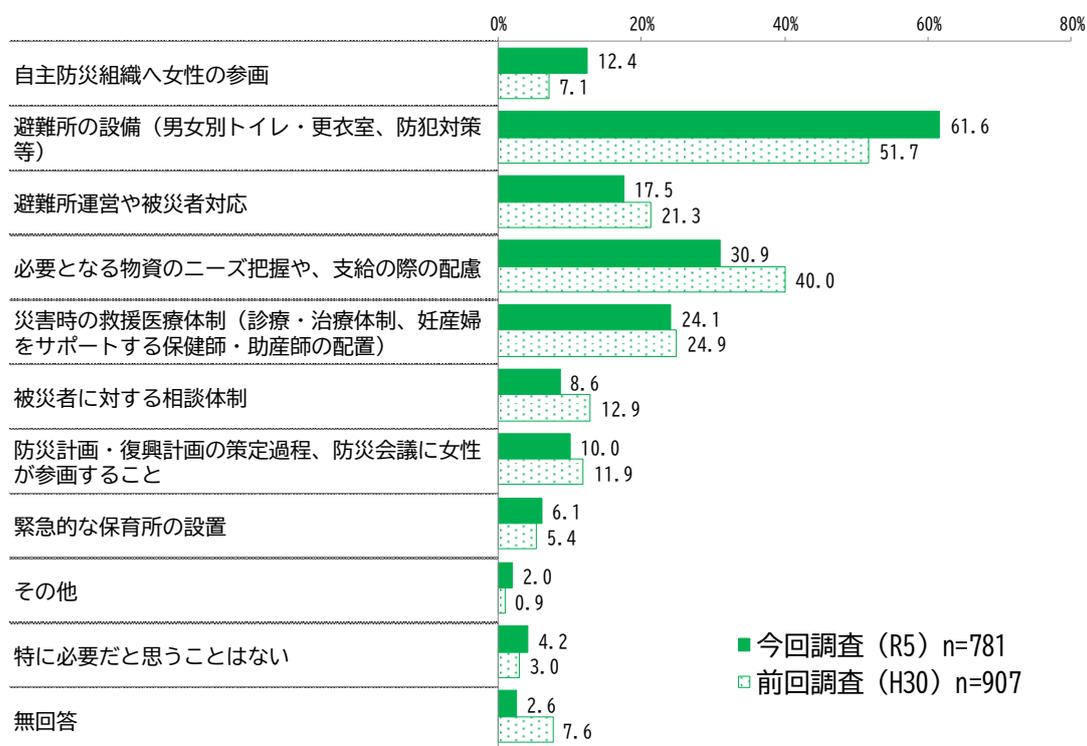
▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」の占める割合が最も高くなっています。次いで、20 代以下では「災害時の救援医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)」が、30 代以上では「必要となる物資のニーズ把握や、支給の際の配慮」があげられています。

<年代別>

	全体	自主防災組織へ女性の参画	避難所の設備 (男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)	避難所運営や被災者対応	必要となる物資のニーズ把握や、支給の際の配慮	災害時の救援医療体制 (診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)	被災者に対する相談体制	防災計画・復興計画の策定過程、防災会議に女性が参画すること	緊急的な保育所の設置	その他	特に必要だと思わない	無回答	
全体	781	12.4	61.6	17.5	30.9	24.1	8.6	10.0	6.1	2.0	4.2	2.6	
年代	20代以下	54	9.3	55.6	11.1	31.5	37.0	7.4	7.4	7.4	1.9	9.3	1.9
	30代	82	3.7	75.6	13.4	24.4	22.0	3.7	9.8	18.3	1.2	3.7	1.2
	40代	138	10.9	63.8	15.9	31.9	23.2	2.9	13.8	9.4	0.0	7.2	1.4
	50代	141	8.5	61.7	16.3	38.3	23.4	9.2	7.1	3.5	2.8	2.8	1.4
	60代	133	15.8	63.2	17.3	32.3	22.6	13.5	10.5	5.3	1.5	1.5	2.3
	70代以上	232	17.7	55.6	22.4	27.2	23.3	10.8	9.9	1.7	3.4	3.9	4.7

▶ 前回調査と比較すると、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」は 9.9 ポイント増加したのに対し、「必要となる物資のニーズ把握や、支給の際の配慮」は 9.1 ポイント減少しています。

<経年比較>



4 就業における男女共同参画について

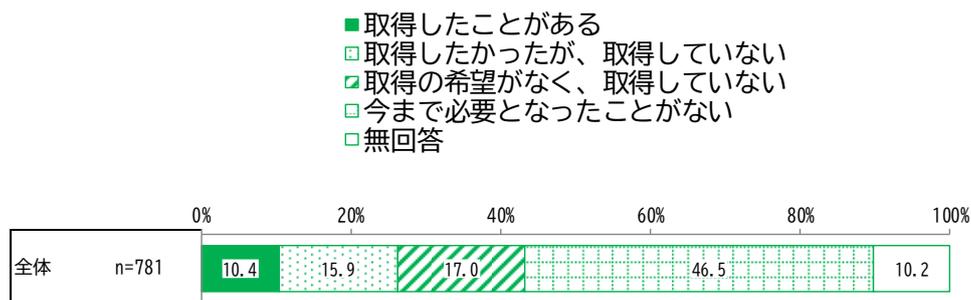
問 14 あなたは、職場で①育児休業、②介護休業の制度を利用したことがありますか。また、<制度の利用>において「2 取得したかったが、取得していない」と答えた方におたずねします。取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。

【育児休業】

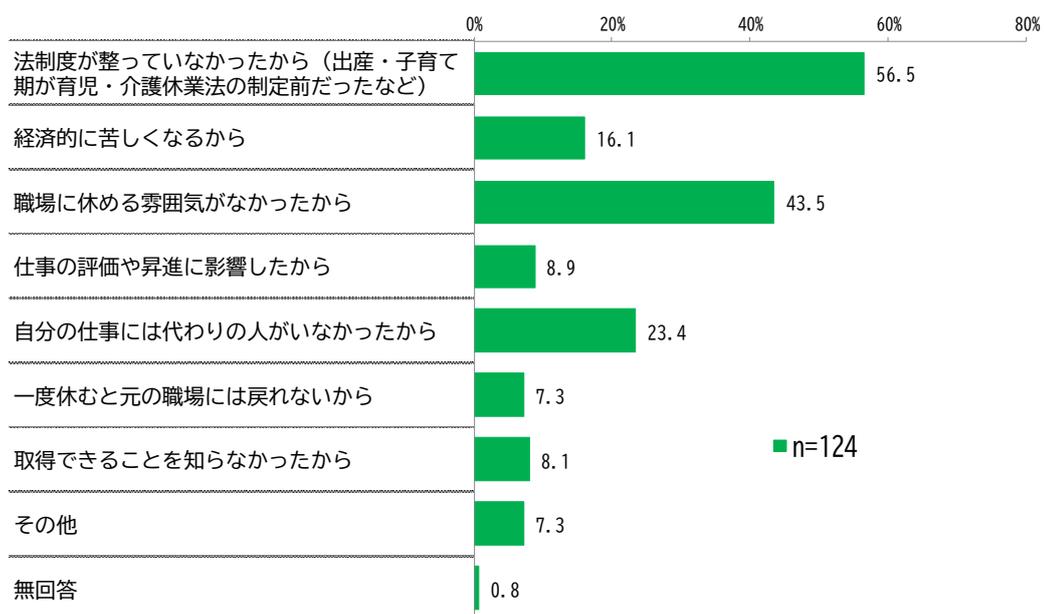
- ▶ 育児休業の取得状況については、「今まで必要とならなかったことがない」が 46.5%と最も多くなっています。一方で、「取得したことがある」は 10.4%、「取得したかったが、取得していない」は 15.9%となっており、取得できなかった人も含めると、取得希望者は 26.3%と約4人に1人の割合となっています。また、「取得の希望がなく、取得していない」は 17.0%となっています。
- ▶ 育児休業を取得できなかった理由については、「法制度が整っていなかったから（出産・子育て期が育児・介護休業法の制定前だったなど）」が 56.5%と最も多く、次いで「職場に休める雰囲気になかったから」が 43.5%、「自分の仕事には代わりの人がいなかったから」が 23.4%となっています。

<全体>

図表 17 制度の利用について

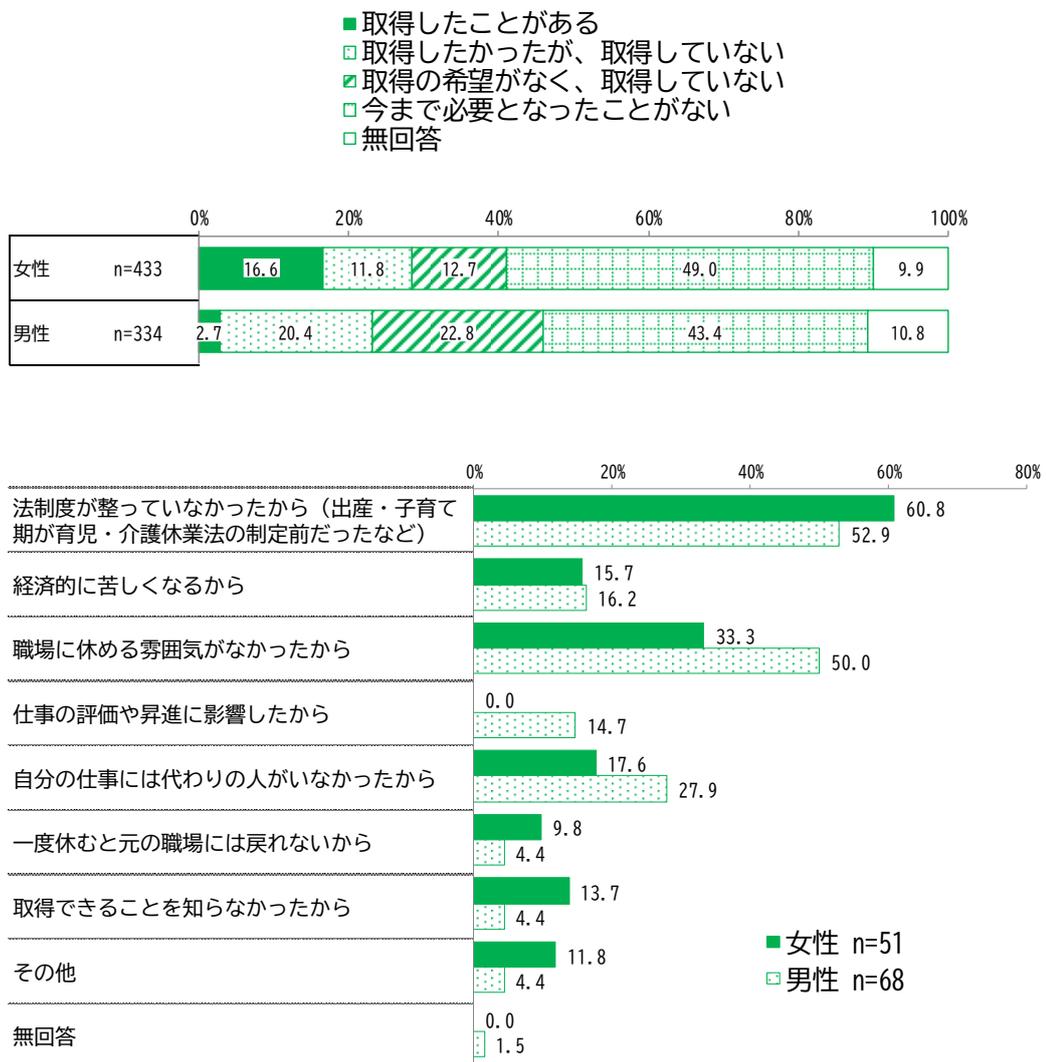


図表 18 取得することができなかった理由



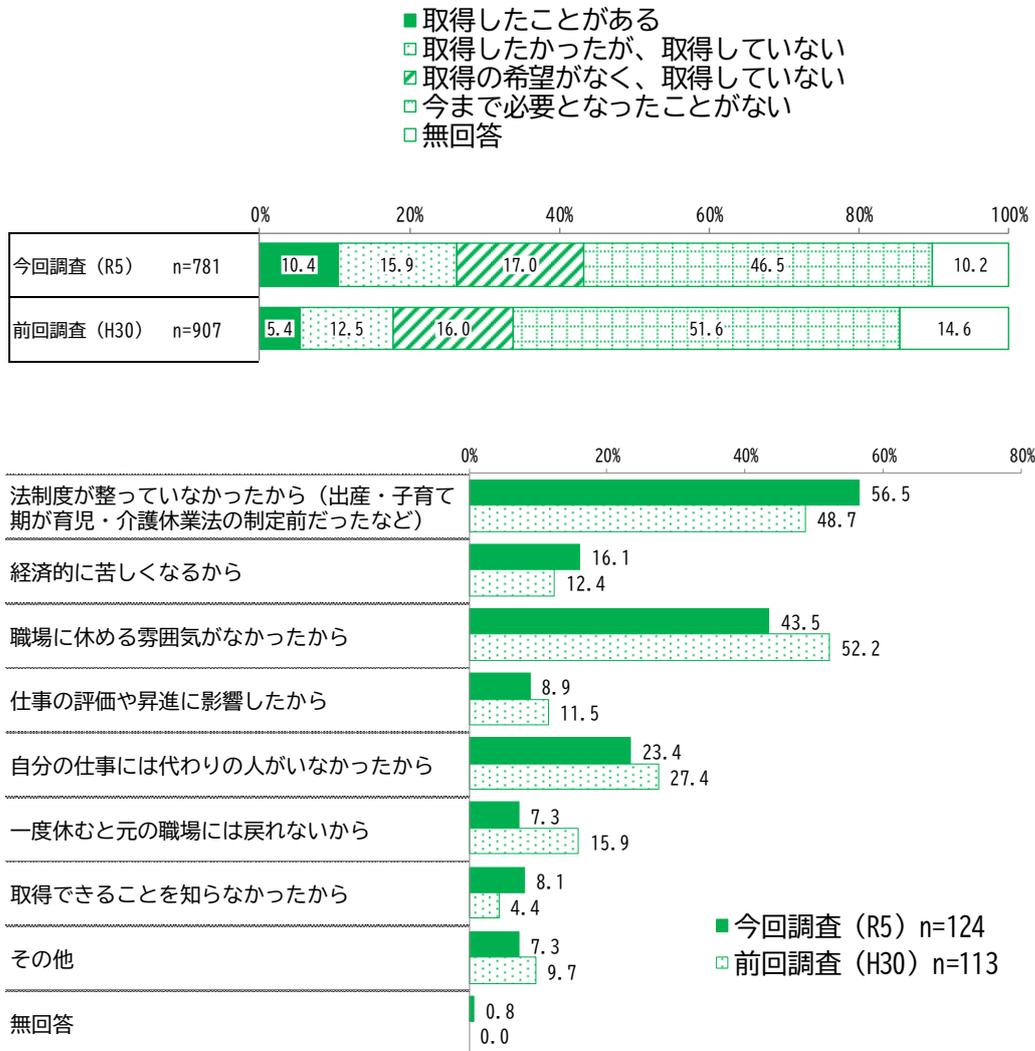
- ▶ 育児休業の取得状況を性別で見ると、「取得したことがある」と回答した人は、女性で 16.6%、男性で 2.7%と、女性が男性を 13.9 ポイント上回っています。また、「取得したかったが、取得していない」では、男性が女性を 8.6 ポイント上回っています。
- ▶ 育児休業を取得できなかった理由を性別で見ると、「法制度が整っていなかったから（出産・子育て期が育児・介護休業法の制定前だったなど）」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を 7.9 ポイント上回っています。「職場に休める雰囲気になかったから」「仕事の評価や昇進に影響したから」「自分の仕事には代わりの人がいなかったから」では、男性が女性を 10 ポイント以上上回っています。また、「取得できることを知らなかったから」は女性が男性を 9.3 ポイント上回っています。

<性別>



- ▶ 前回調査と比較すると、「取得したことがある」は 5.0 ポイント増加しています。
- ▶ 前回調査と比較すると、「法制度が整っていなかったから（出産・子育て期が育児・介護休業法の制定前だったなど）」は 7.8 ポイント増加したのに対し、「職場に休める雰囲気がなかったから」「一度休むと元の職場には戻れないから」は8ポイント程度減少しています。

<経年比較>

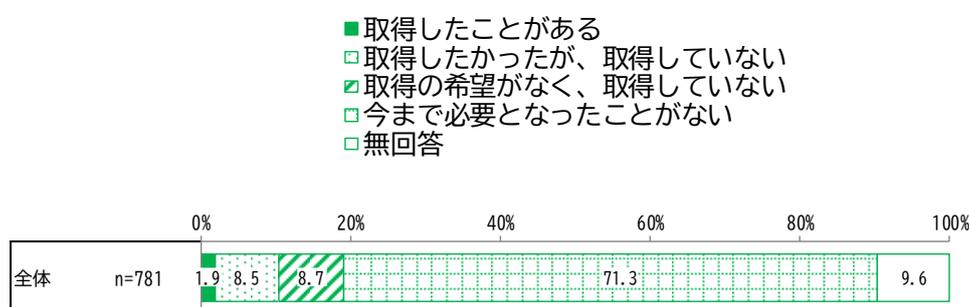


【介護休業】

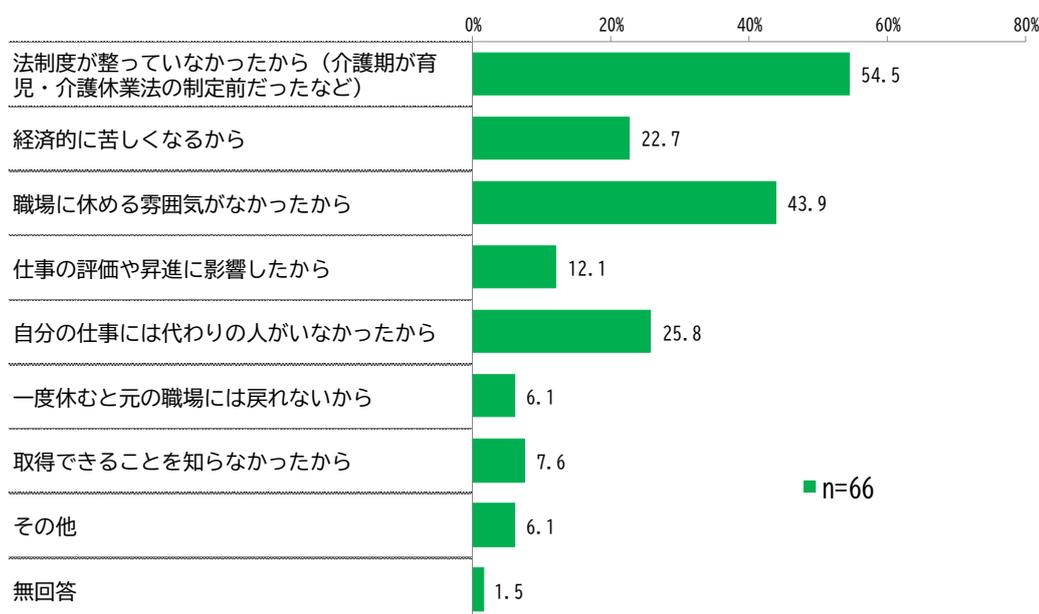
- ▶ 介護休業の取得状況については、「今まで必要とならなかったことがない」が71.3%と最も多くなっています。一方で、「取得したことがある」は1.9%、「取得したかったが、取得していない」は8.5%となっており、取得できなかった人も含めると、取得希望者は10.4%となっています。また、「取得の希望がなく、取得していない」は8.7%となっています。
- ▶ 介護休業を取得できなかった理由については、「法制度が整っていなかったから(介護期が育児・介護休業法の制定前だったなど)」が54.5%と最も多く、次いで「職場に休める雰囲気になかったから」が43.9%、「自分の仕事には代わりの人がいなかったから」が25.8%、「経済的に苦しくなるから」が22.7%となっています。

<全体>

図表 19 制度の利用について

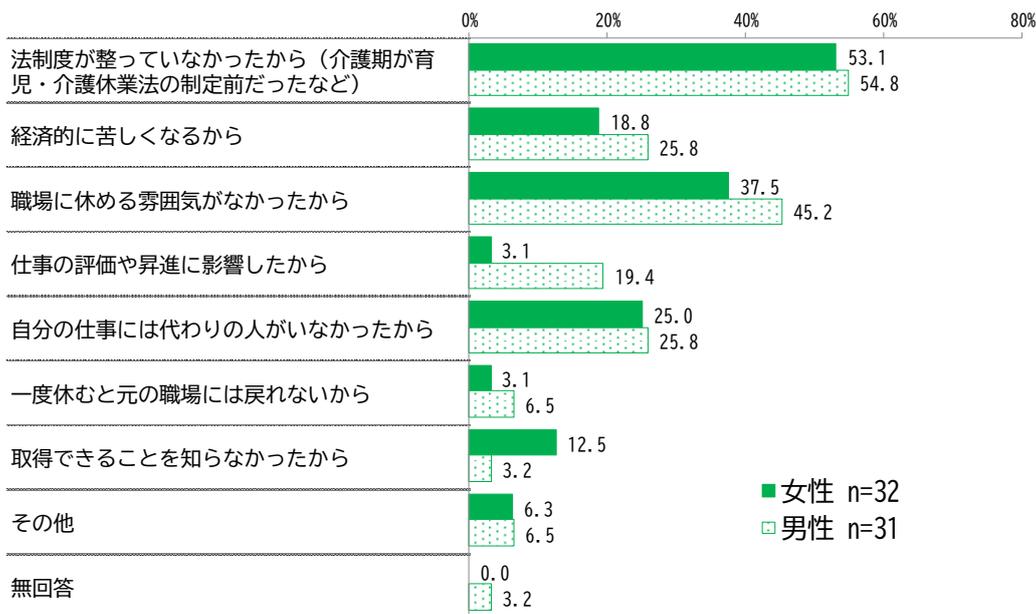
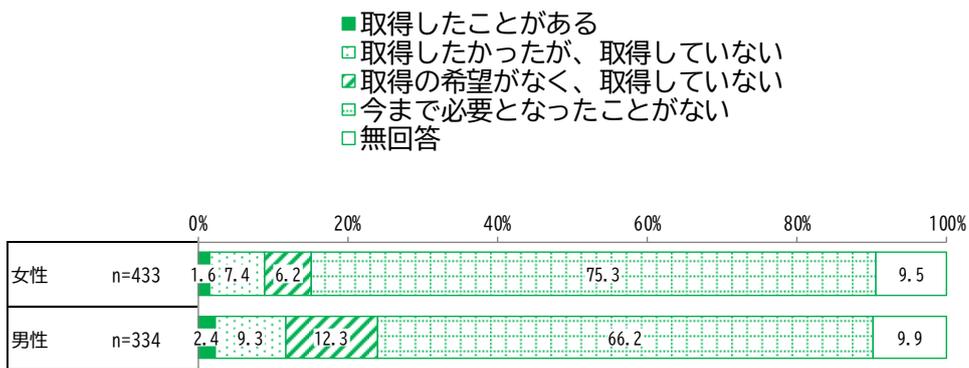


図表 20 取得することができなかった理由



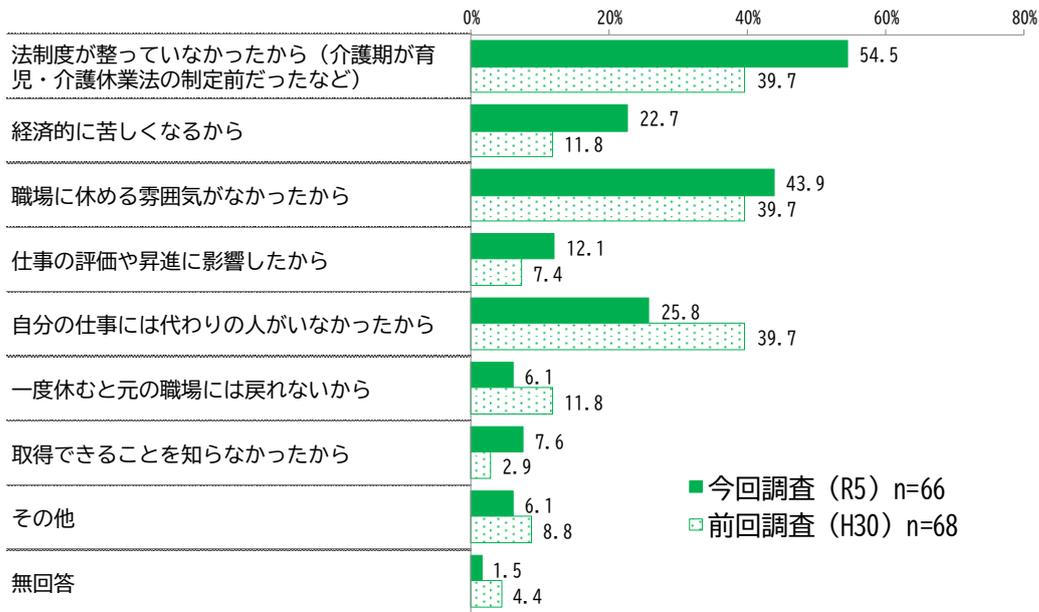
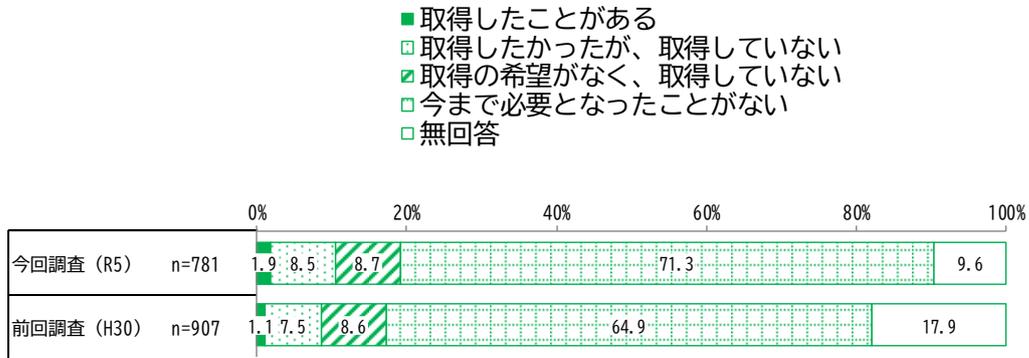
- ▶ 介護休業の取得状況を性別でみると、「取得したことがある」と回答した人は、女性で 1.6%、男性で 2.4%となっており、特に大きな違いはみられません。
- ▶ 介護休業を取得できなかった理由を性別でみると、「法制度が整っていなかったから（介護期が育児・介護休業法の制定前だったなど）」が男女ともに最も高くなっています。また、「仕事の評価や昇進に影響したから」では、男性が女性を 16.3 ポイント上回っているのに対し、「取得できることを知らなかったから」では、女性が男性を 9.3 ポイント上回っています。

<性別>



- ▶ 前回調査と比較すると、「取得したことがある」は1%台となっており、大きな違いはみられません。
- ▶ 前回調査と比較すると、「法制度が整っていなかったから(介護期が育児・介護休業法の制定前だったなど)」「経済的に苦しくなるから」は、それぞれ 14.8 ポイント、10.9 ポイント増加したのに対し、「自分の仕事には代わりの人がいなかったから」は 13.9 ポイント減少しています。

<経年比較>

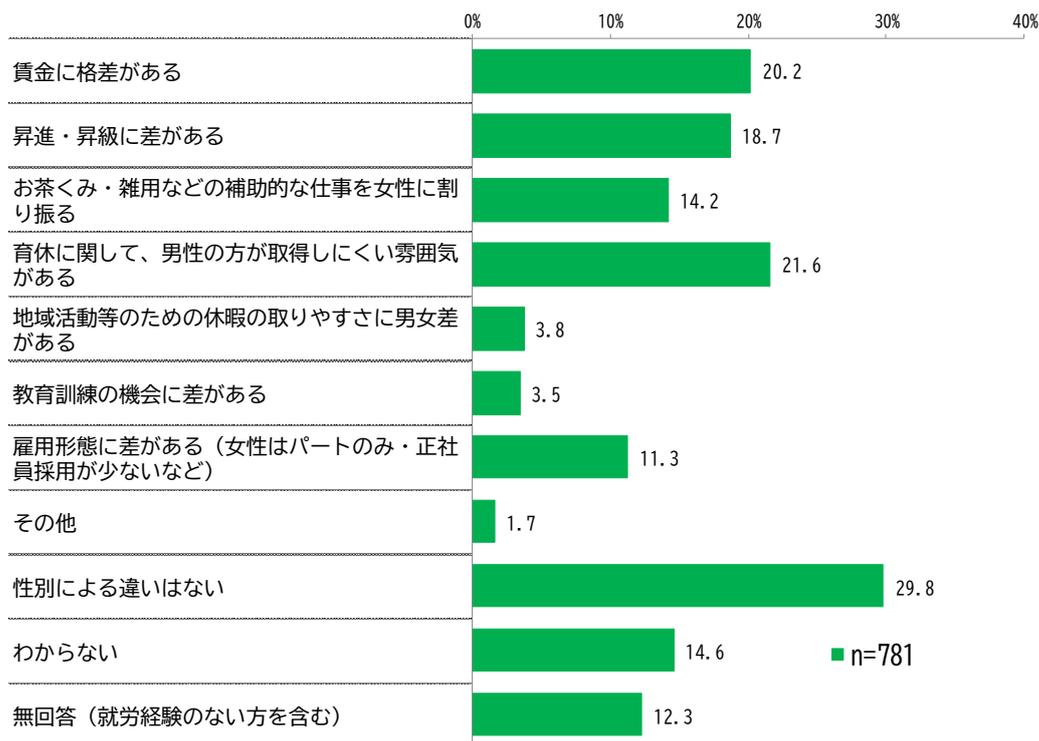


問 15 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(〇はいくつでも)

▶ 職場における性別による違いがある面については、「性別による違いはない」が 29.8%で最も多くなっています。一方で、職場において性別による違いがあると感じている人では、「育休に関して、男性の方が取得しにくい雰囲気がある」(21.6%)、「賃金に格差がある」(20.2%)、「昇進・昇給に差がある」(18.7%)などの占める割合が高くなっています。

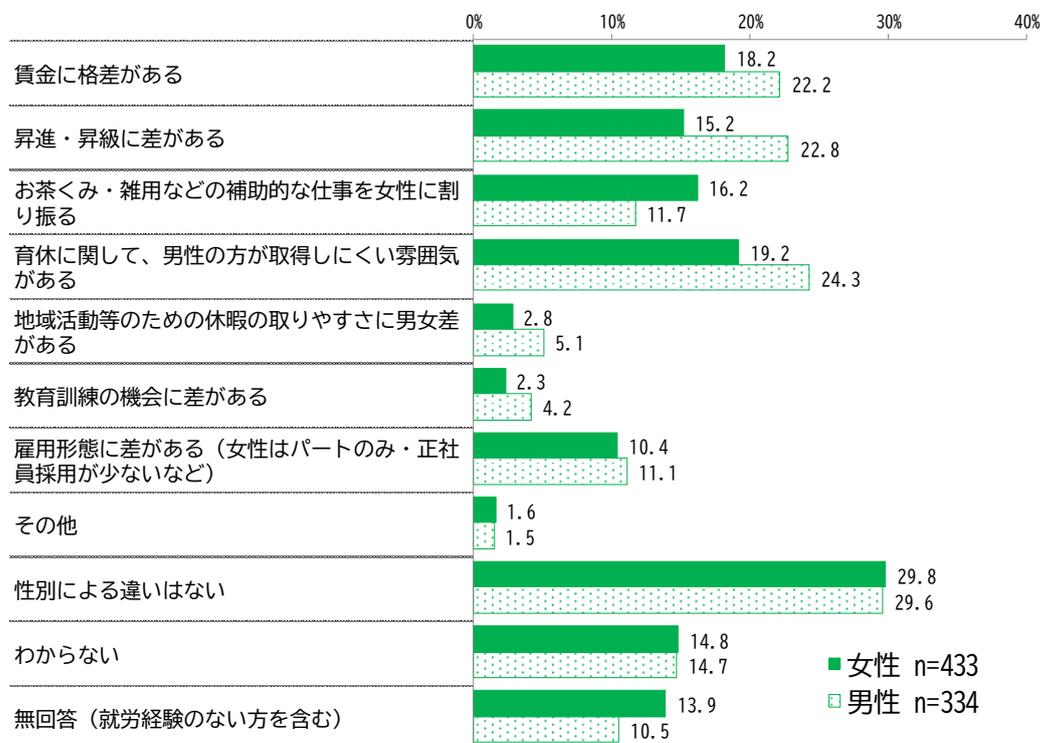
<全体>

図表 21 職場での性別による違い



- ▶ 性別でみると、「性別による違いはない」が男女ともに最も高くなっています。また、「昇進・昇級に差がある」「育休に関して、男性の方が取得しにくい雰囲気がある」では、男性が女性をそれぞれ 7.6 ポイント、5.1 ポイント上回っています。

<性別>



- ▶ 職業別でみると、いずれの職業においても「性別による違いはない」が最も高くなっています。また、会社員・公務員(会社役員等を含む)では、「育休に関して、男性の方が取得しにくい雰囲気がある」が約3割と、他の職業に比べて高くなっています。

<職業別>

		全体	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	育休に関して、男性の方が取得しにくい雰囲気がある	地域活動等のための休暇の取りやすさに男女差がある	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある（女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど）	その他	性別による違いはない	わからない	無回答
職業	会社員・公務員（会社役員等を含む）	260	15.0	15.4	12.3	31.2	5.4	2.3	7.3	1.5	40.4	11.5	1.5
	派遣・契約社員	26	23.1	23.1	15.4	23.1	3.8	11.5	19.2	0.0	23.1	15.4	3.8
	パート・アルバイト	137	17.5	13.1	8.8	14.6	4.4	3.6	15.3	2.9	43.8	13.1	5.8
	自営業・農漁業（家族従業者を含む）	29	20.7	13.8	6.9	17.2	3.4	3.4	3.4	3.4	34.5	24.1	17.2
	自由業（医師・弁護士・会計士・作家・芸術家など）	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0

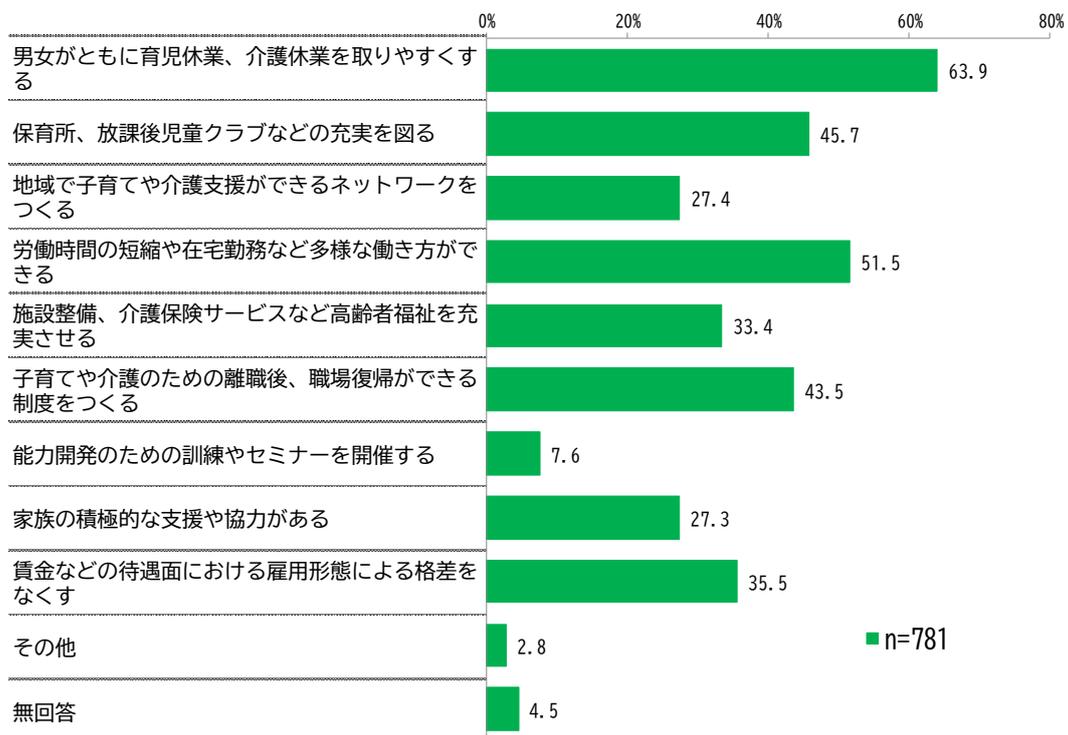
※就労している方のみを分析軸(n=456)にしています。

問 16 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ▶ 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なことについては、「男女がともに育児休業、介護休業を取りやすくする」が 63.9%と最も多く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務など多様な働き方ができる」が 51.5%、「保育所、放課後児童クラブなどの充実を図る」が 45.7%、「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる」が 43.5%となっています。

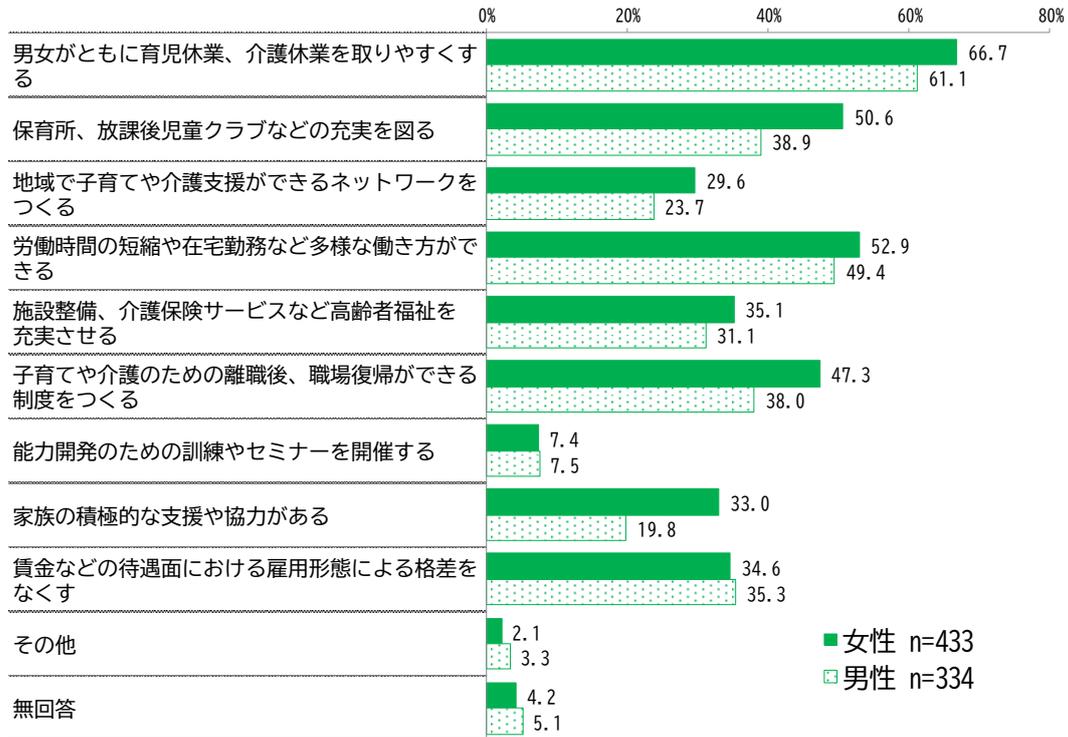
<全体>

図表 22 男女がともに働きやすい環境をつくるためには



▶ 性別でみると、「男女がともに育児休業、介護休業を取りやすくする」が男女ともに最も高くなっています。また、全体的に男性に比べ女性の方が高い割合を示す項目多くっており、特に「家族の積極的な支援や協力がある」「保育所、放課後児童クラブなどの充実を図る」「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる」などは、男女差が大きい項目となっています。

<性別>



▶ 年代別でみると、40代を除いたその他の年代で「男女がともに育児休業、介護休業を取りやすくする」の占める割合が最も高くなっており、40代では「労働時間の短縮や在宅勤務など多様な働き方ができる」の占める割合が最も高くなっています。また、「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる」は30代以下の比較的若年層で、「施設整備、介護保険サービスなど高齢者福祉を充実させる」は70代以上で高くなっています。

<年代別>

	全体	男女がともに育児休業、介護休業を取りやすくする	保育所、放課後児童クラブなどの充実を図る	地域で子育てや介護支援ができるネットワークをつくる	労働時間の短縮や在宅勤務など多様な働き方ができる	施設整備、介護保険サービスなど高齢者福祉を充実させる	子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度をつくる	能力開発のための訓練やセミナーを開催する	家族の積極的な支援や協力がある	賃金などの待遇面における雇用形態による格差をなくす	その他	無回答	
全体	781	63.9	45.7	27.4	51.5	33.4	43.5	7.6	27.3	35.5	2.8	4.5	
年代	20代以下	54	63.0	48.1	25.9	55.6	25.9	50.0	7.4	44.4	42.6	3.7	0.0
	30代	82	68.3	64.6	34.1	59.8	19.5	56.1	9.8	32.9	36.6	2.4	0.0
	40代	138	60.9	50.7	19.6	68.1	26.8	47.8	7.2	34.8	38.4	4.3	0.0
	50代	141	64.5	36.2	30.5	60.3	36.9	42.6	6.4	28.4	38.3	2.8	0.7
	60代	133	65.4	51.9	25.6	45.9	35.3	37.6	7.5	19.5	38.3	1.5	4.5
	70代以上	232	63.4	37.5	28.9	35.8	40.5	39.2	7.8	20.7	28.0	2.6	12.1

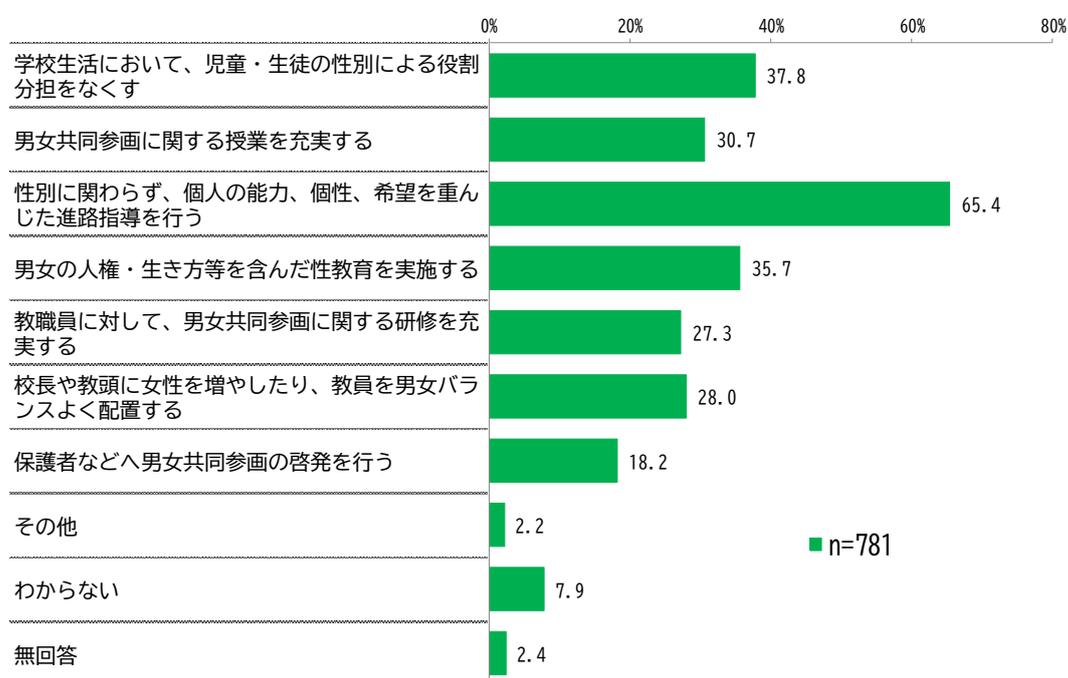
5 教育における男女共同参画について

問 17 あなたは、学校教育の場において男女共同参画を推進するために、どのような取組をすればよいと思いますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

- 学校教育の場において男女共同参画を推進するために必要な取組については、「性別に関わらず、個人の能力、個性、希望を重んじた進路指導を行う」が 65.4%と最も多く、次いで「学校生活において、児童・生徒の性別による役割分担をなくす」が 37.8%、「男女の人権・生き方等を含んだ性教育を実施する」が 35.7%、「男女共同参画に関する授業を充実する」が 30.7%となっています。

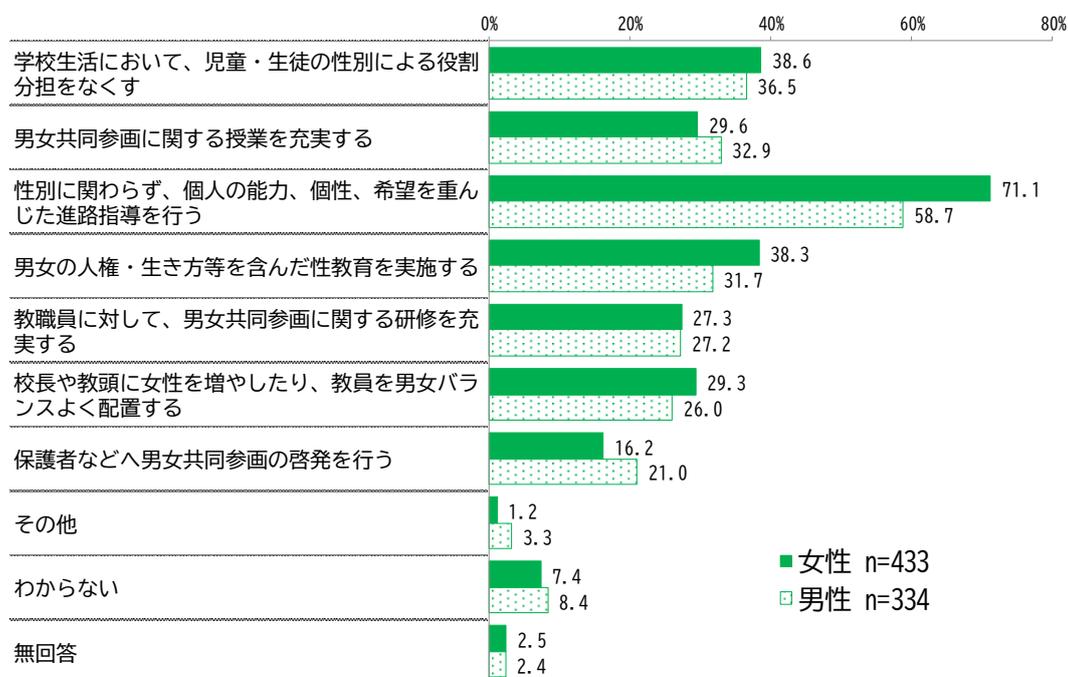
<全体>

図表 23 学校教育の場において男女共同参画を推進するためには



- ▶ 性別で見ると、「性別に関わらず、個人の能力、個性、希望を重んじた進路指導を行う」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を12.4ポイント上回っています。また、女性では「男女の人権・生き方等を含んだ性教育を実施する」が38.3%と、男性より6.6ポイント高くなっています。

<性別>



- ▶ 年代別で見ると、いずれの年代においても「性別に関わらず、個人の能力、個性、希望を重んじた進路指導を行う」の占める割合が最も高くなっています。

<年代別>

	全体	学校生活において、児童・生徒の性別による役割分担をなくす	男女共同参画に関する授業を充実する	性別に関わらず、個人の能力、個性、希望を重んじた進路指導を行う	男女の人権・生き方等を含んだ性教育を実施する	教職員に対して、男女共同参画に関する研修を充実する	校長や教頭に女性を増やしたり、教員を男女バランスよく配置する	保護者などへ男女共同参画の啓発を行う	その他	わからない	無回答	
全体	781	37.8	30.7	65.4	35.7	27.3	28.0	18.2	2.2	7.9	2.4	
年代	20代以下	54	33.3	33.3	64.8	33.3	13.0	33.3	7.4	1.9	7.4	0.0
	30代	82	39.0	31.7	67.1	51.2	30.5	36.6	12.2	2.4	4.9	0.0
	40代	138	38.4	26.8	68.1	37.7	27.5	26.8	20.3	2.2	8.7	0.7
	50代	141	34.8	29.8	65.2	38.3	26.2	28.4	17.0	2.1	6.4	0.0
	60代	133	45.1	38.3	71.4	36.1	25.6	29.3	19.5	1.5	4.5	1.5
70代以上	232	35.8	28.4	60.3	28.0	31.0	23.7	21.6	2.6	11.2	6.9	

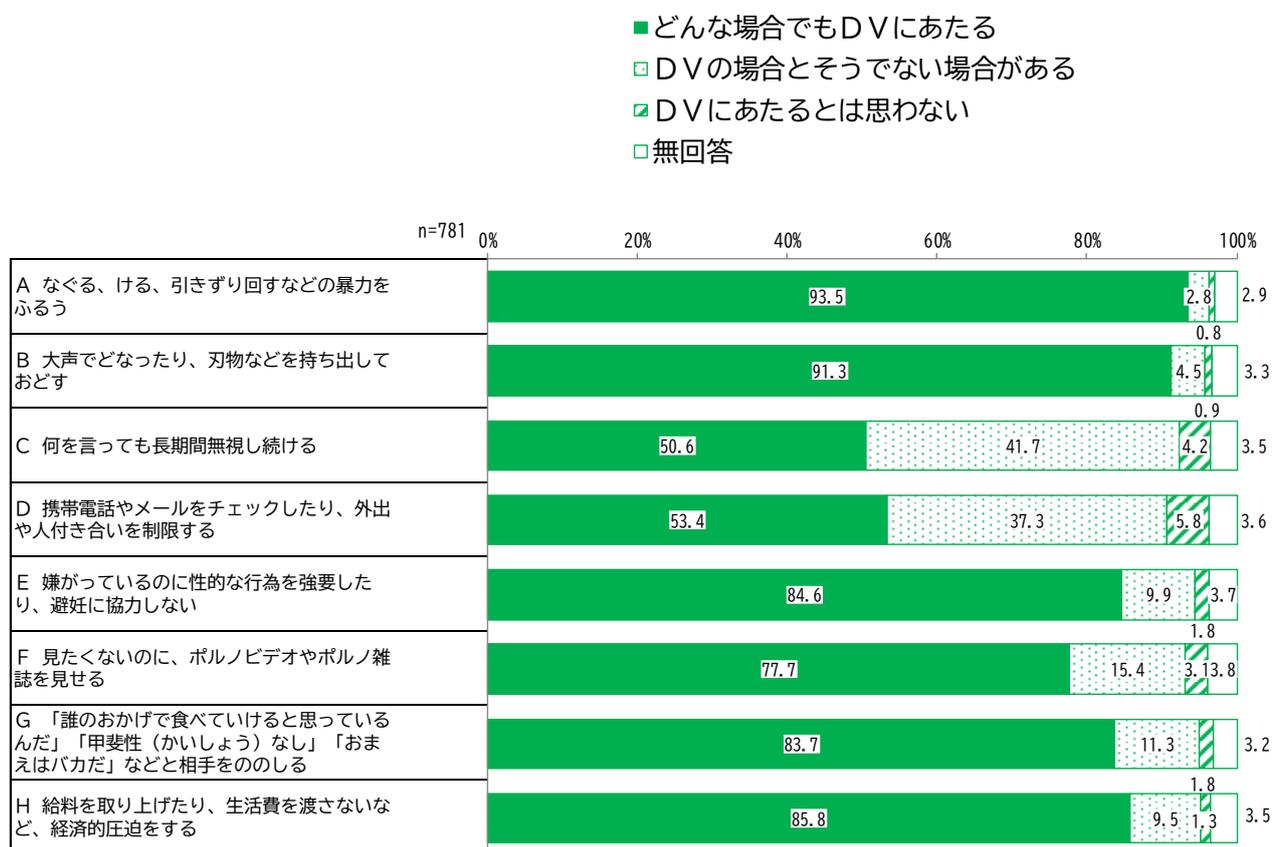
6 DV（配偶者や恋人からの暴力）について

問 18 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）、交際相手の間で行われた場合、それをDVであると思いますか。

▶ DVとして、知っているものについては、「A なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう」「B 大声でどなったり、刃物などを持ち出しておどす」「E 嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない」「F 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「G 「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性（かいしょう）なし」「おまえはバカだ」などと相手をののしる」「H 給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど、経済的圧迫をする」は、「どんな場合でもDVにあたる」が7割を超えています。また、「C 何を言っても長期間無視し続ける」「D 携帯電話やメールをチェックしたり、外出や人付き合いを制限する」は5割台となっています。

<全体>

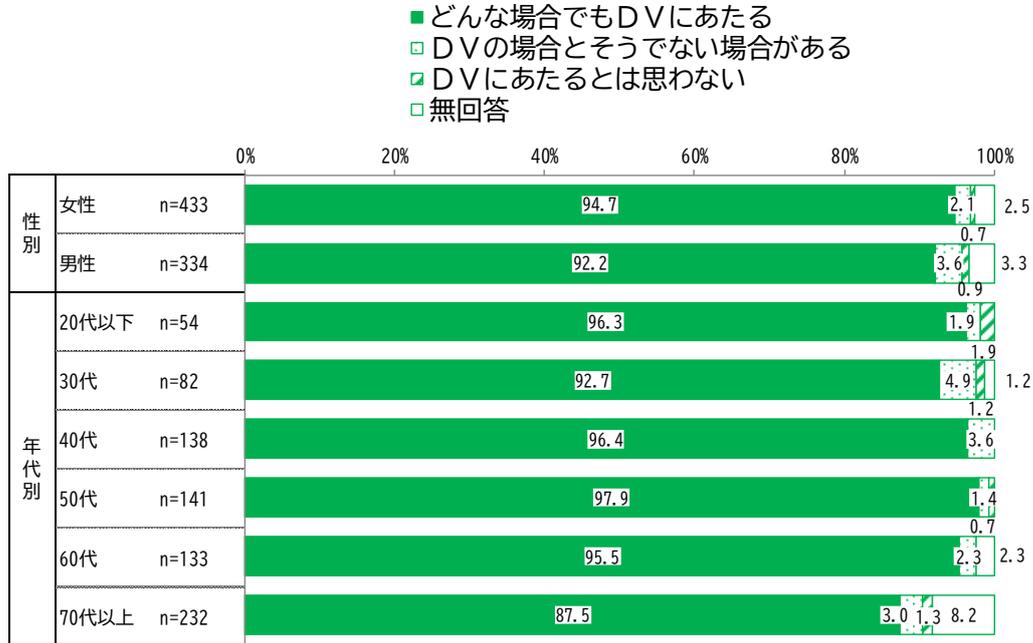
図表 24 DVにあたる行為の認識



【なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう】

- ▶ 性別で見ると、特に大きな差はみられません。
- ▶ 年代別で見ると、70代以上を除いては、「どんな場合でもDVにあたる」が9割を超えています。

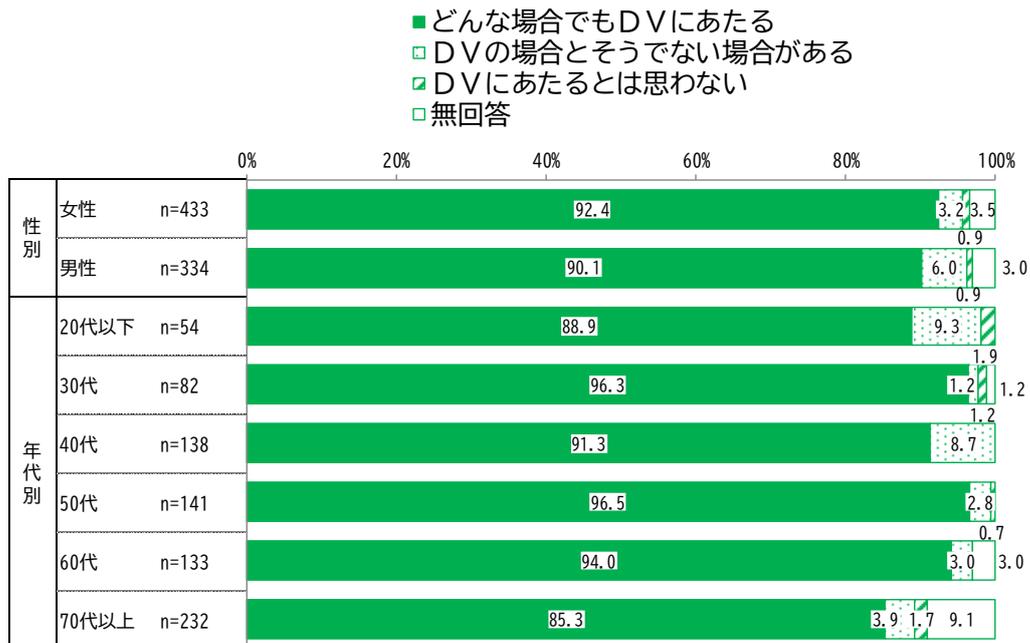
<性・年代別>



【大声でどなったり、刃物などを持ち出しておどす】

- ▶ 性別で見ると、特に大きな差はみられません。
- ▶ 年代別で見ると、20代以下や70代以上を除いては、「どんな場合でもDVにあたる」が9割を超えています。

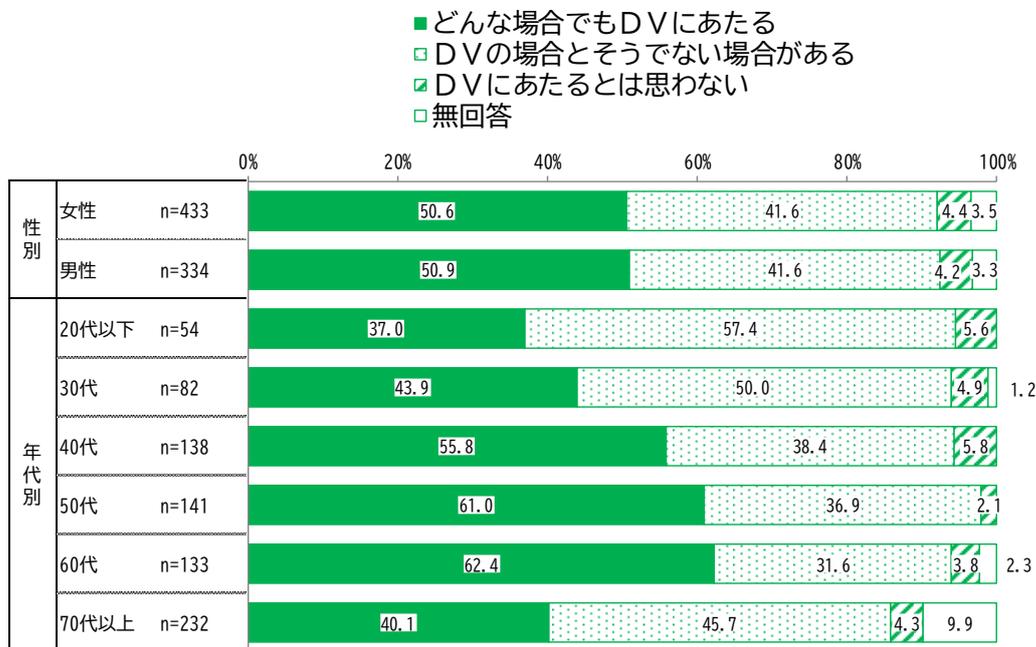
<性・年代別>



【何を言っても長期間無視し続ける】

- ▶ 性別で見ると、特に大きな差はみられません。
- ▶ 年代別で見ると、60代までは年齢が上がるにつれて、「どんな場合でもDVにあたる」の占める割合が高くなっています。

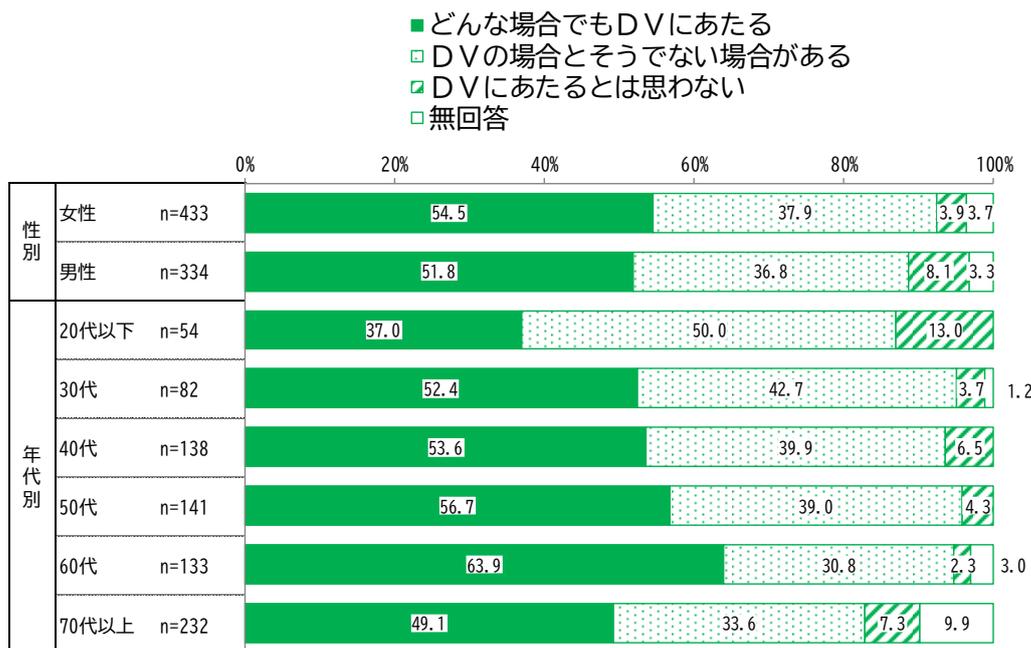
<性・年代別>



【携帯電話やメールをチェックしたり、外出や人付き合いを制限する】

- ▶ 性別で見ると、「DVにあたるとは思わない」は4.2ポイント、男性が女性を上回っています。
- ▶ 年代別で見ると、60代までは年齢が上がるにつれて、「どんな場合でもDVにあたる」の占める割合が高くなっています。

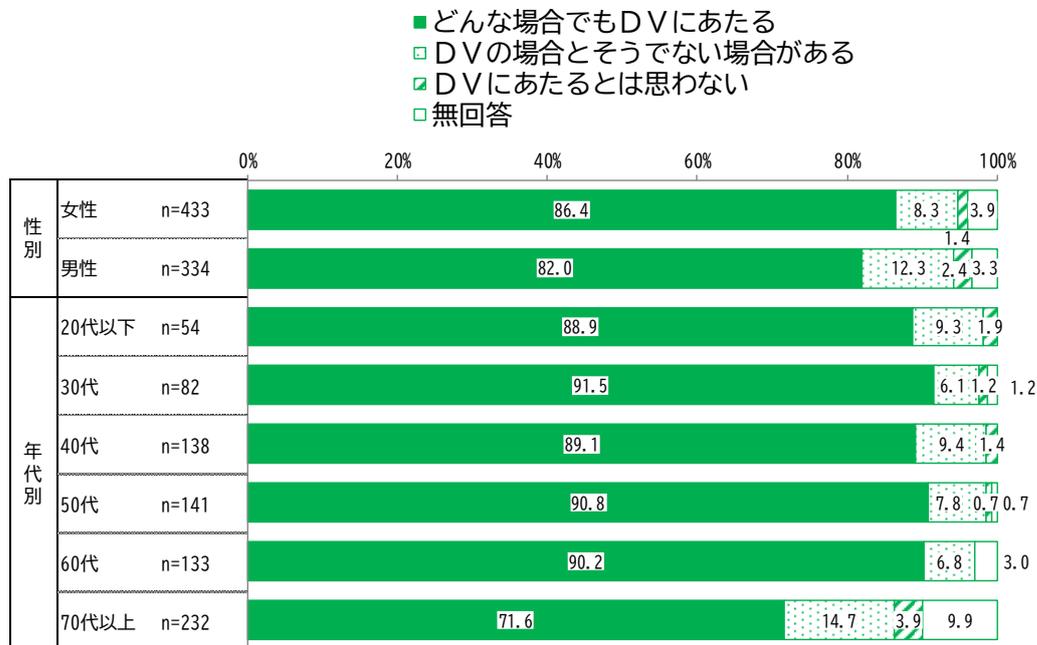
<性・年代別>



【嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない】

- ▶ 性別で見ると、「どんな場合でもDVにあたる」は4.4ポイント、女性が男性を上回っています。
- ▶ 年代別で見ると、70代以上を除いては、「どんな場合でもDVにあたる」が約9割を占めています。

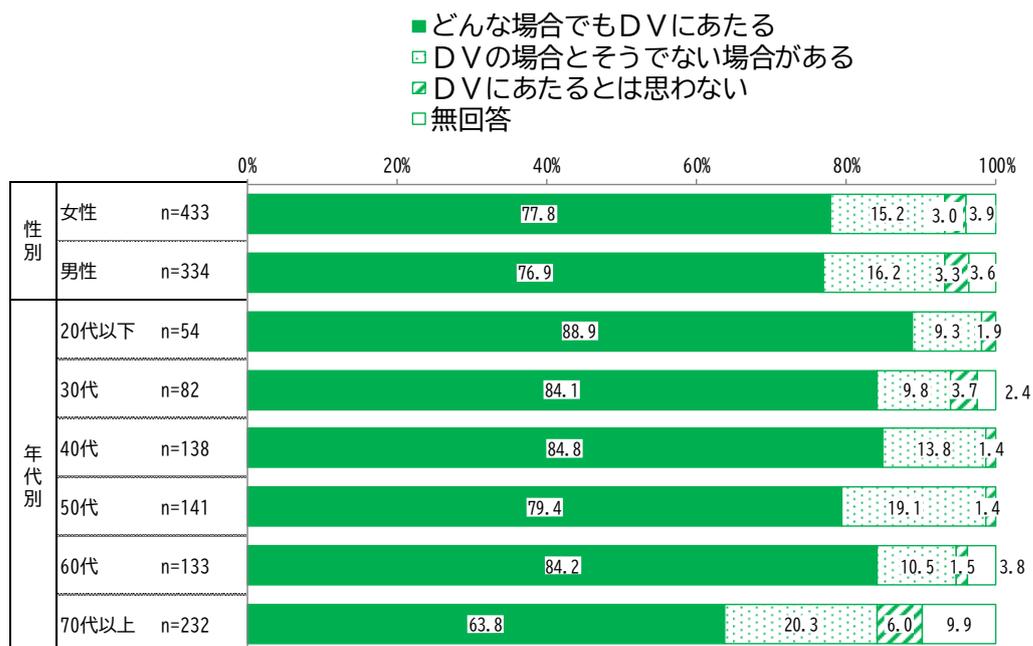
<性・年代別>



【見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる】

- ▶ 性別で見ると、特に大きな差はみられません。
- ▶ 年代別で見ると、40代以下や60代では、「どんな場合でもDVにあたる」が8割を超えています。

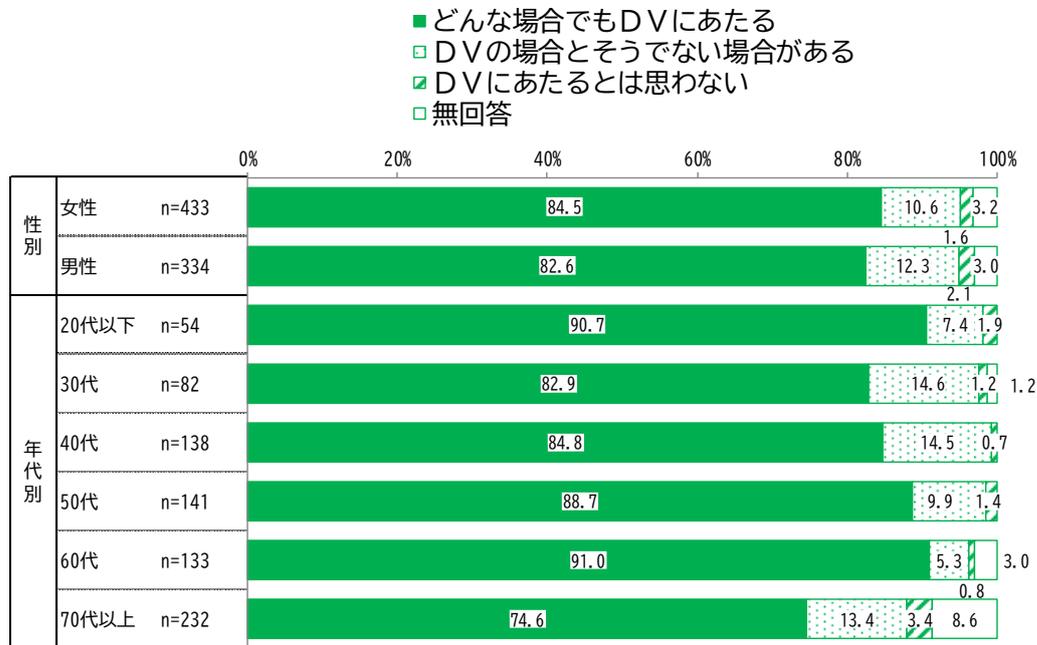
<性・年代別>



【「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性（かいしょう）なし」「おまえはバカだ」などと相手をののしる】

- ▶ 性別で見ると、特に大きな差はみられません。
- ▶ 年代別で見ると、70代以上を除いては、「どんな場合でもDVにあたる」が8割を超えています。

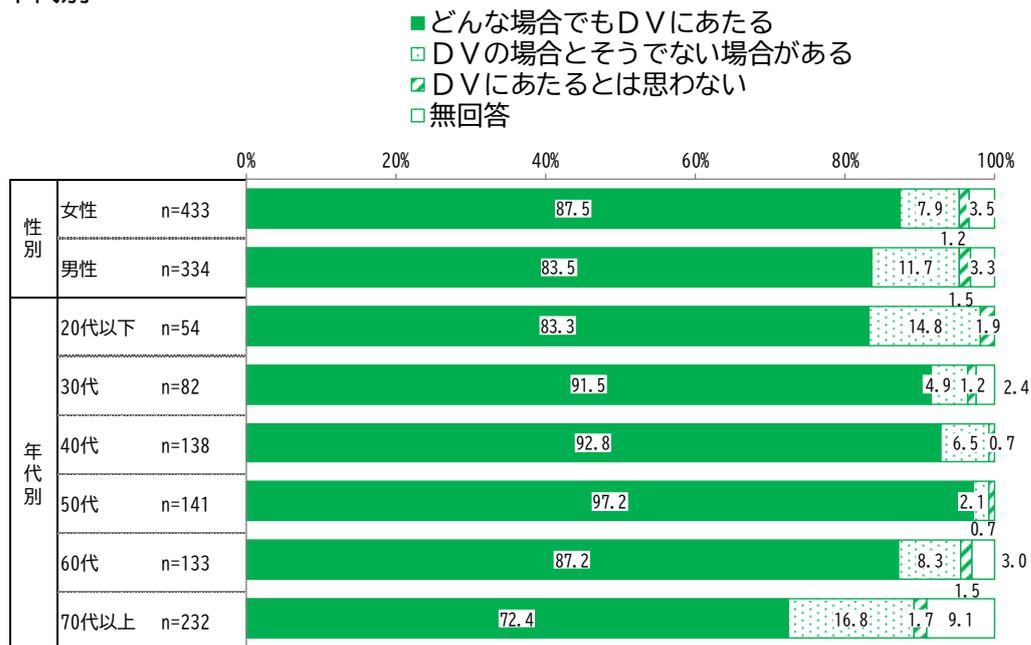
<性・年代別>



【給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど、経済的圧迫をする】

- ▶ 性別で見ると、「どんな場合でもDVにあたる」は4.0ポイント、女性が男性を上回っています。
- ▶ 年代別で見ると、50代までは年齢が上がるにつれて、「どんな場合でもDVにあたる」の占める割合が高くなっています。

<性・年代別>



問 19 あなたは、DVを受けたことがありますか。(○は1つ)

➤ 配偶者・パートナー・恋人からDVの被害経験については、「ある」が7.8%、「ない」が86.9%となっています。

<全体>

図表 25 DV 経験

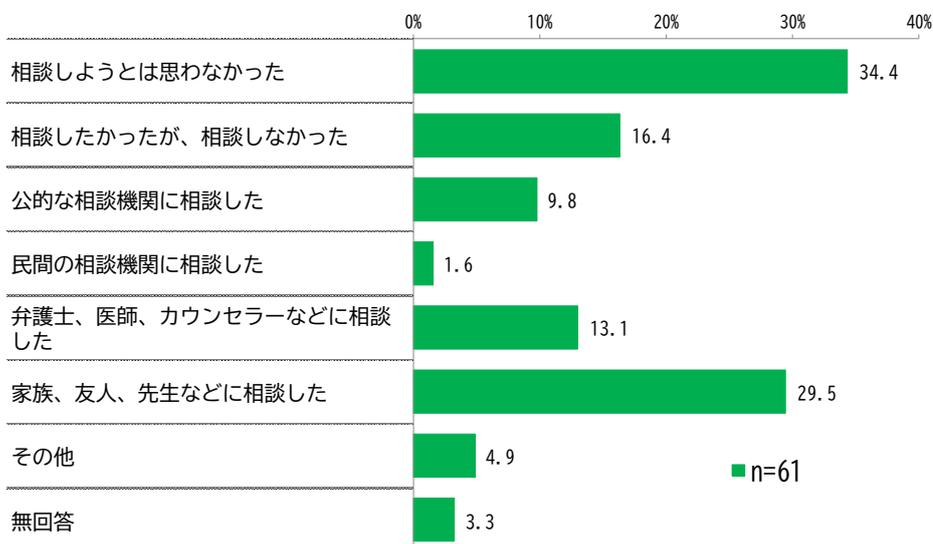


問 19-1 DVを受けたときに、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

➤ DVを受けたときの相談については、「相談しようとは思わなかった」が34.4%と最も多く、これに「相談したかったが、相談しなかった」を合わせると、全体の約5割(50.8%)が相談していない現状があります。一方で、相談している人では「家族、友人、先生などに相談した」が29.5%となっています。

<全体>

図表 26 DV 相談の有無

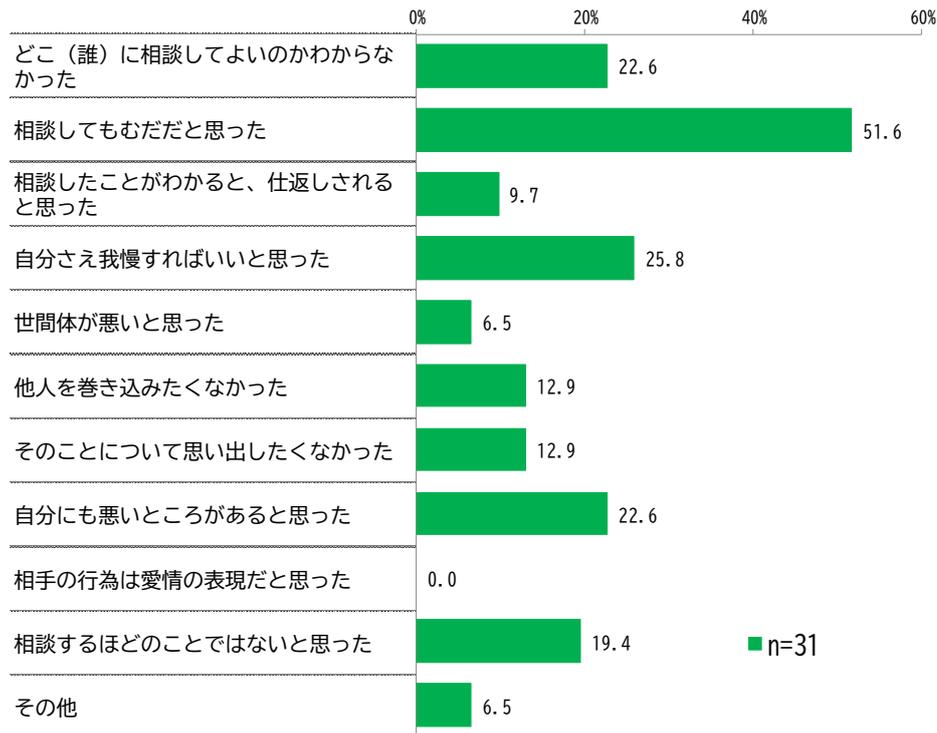


問 19-2 それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- 相談しなかった理由については、「相談してもむだだと思った」が 51.6%と最も多く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が 25.8%、「どこ(誰)に相談してよいかわからなかった」「自分にも悪いところがあると思った」が 22.6%、「相談するほどのことではないと思った」が 19.4%となっています。

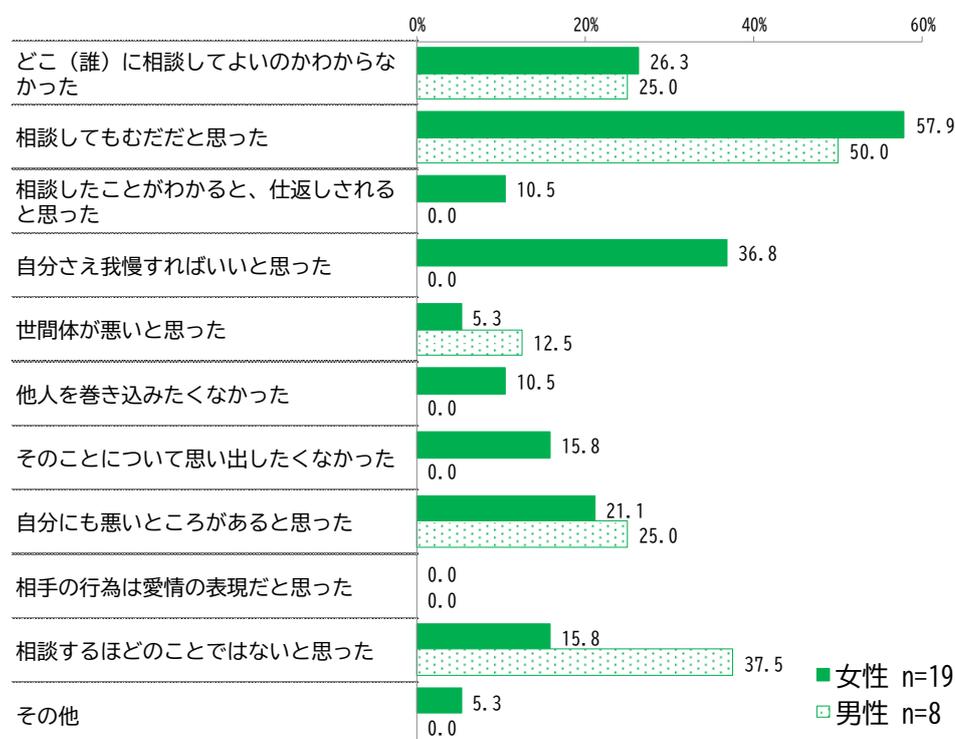
<全体>

図表 27 DV を相談しなかった理由



▶ 性別でみると、全体的に男性に比べ女性の割合が高い項目が多くなっており、特に「自分さえ我慢すればいいと思った」「そのことについて思い出したくなかった」「相談したことがわかると、仕返しされると思った」「他人を巻き込みたくなかった」では、女性が男性を 10 ポイント以上上回っています。一方で、「相談するほどのことではないと思った」は、男性が女性より 21.7 ポイント高くなっています。

<性別>



問 20 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(〇は1つ)

➤ DVについて相談できる窓口の認知については、「知っている」が47.2%、「知らない」が46.6%となっています。

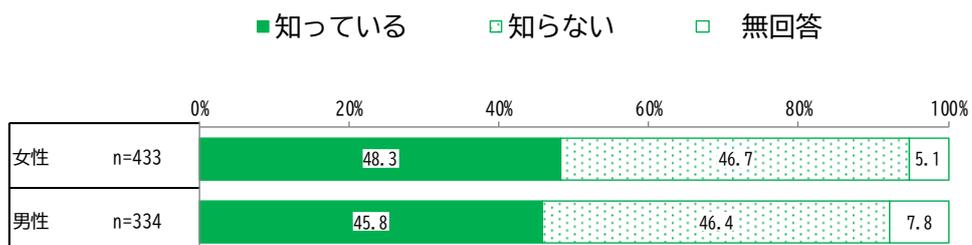
<全体>

図表 28 DV 相談窓口の認知



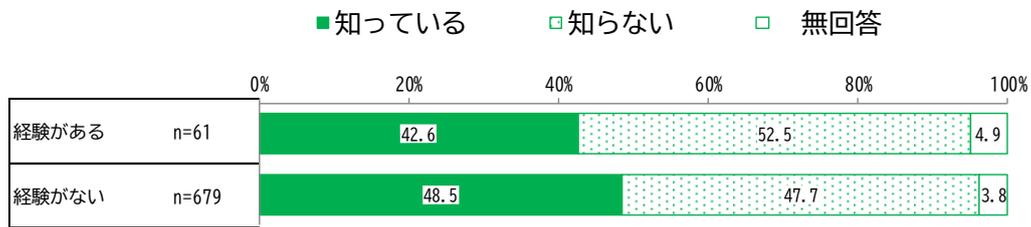
➤ 性別でみると、「知っている」と回答した人は、女性では48.3%、男性では45.8%となっており、女性が男性を2.5ポイント上回っています。

<性別>



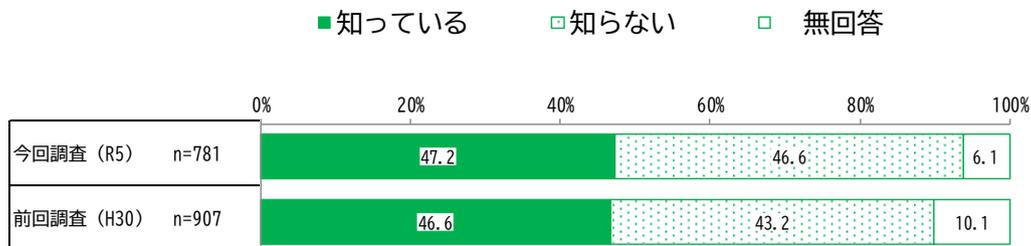
➤ DVの経験別で見ると、DVの被害経験に関係なく「知っている」人は4割台となっています。

<DVの経験別>



➤ 前回調査と比較すると、「知っている」と回答した人は、0.6ポイント増加しています。

<経年比較>

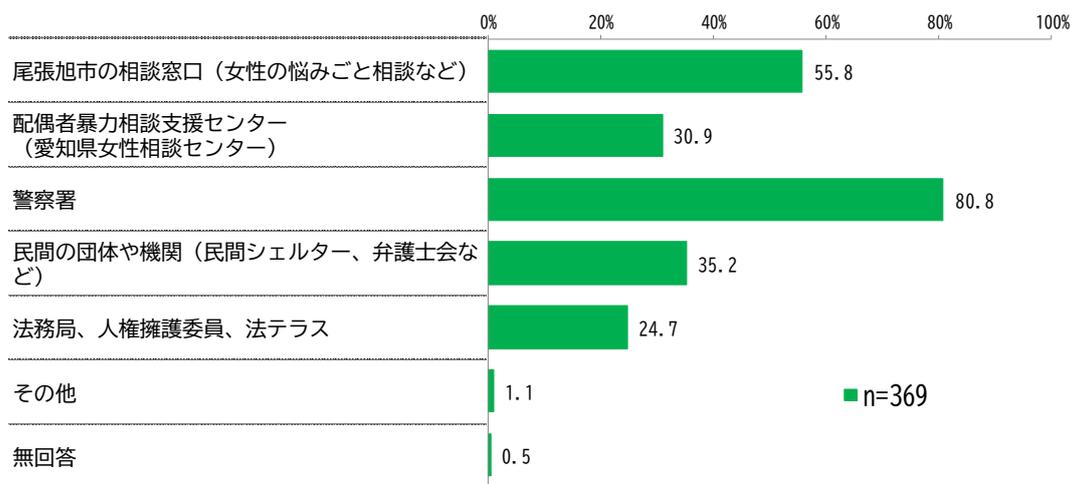


問 20-1 相談できる窓口について、どのようなところを知っていますか。(〇はいくつでも)

▶ 知っているDVについての相談窓口については、「警察署」が 80.8%と最も多く、次いで「尾張旭市の相談窓口(女性の悩みごと相談など)」が 55.8%と、DV の相談窓口としてはこの両者が双璧であり、「民間の団体や機関(民間シェルター、弁護士会など)」(35.2%)、「配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談センター)」(30.9%)、「法務局、人権擁護委員、法テラス」(24.7%)など、後に続くものを大きく引き離しています。

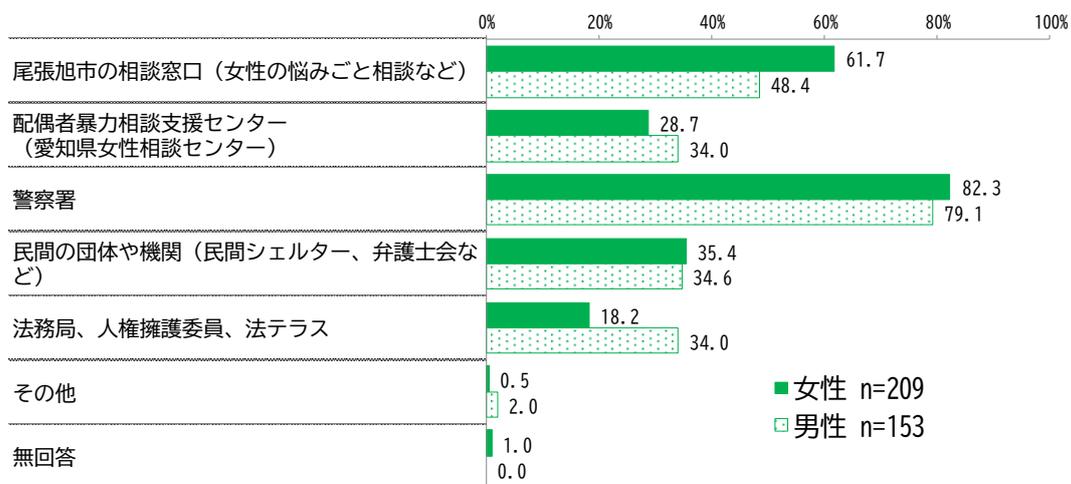
<全体>

図表 29 知っている DV 相談窓口



▶ 性別で見ると、「警察署」が男女ともに最も高くなっています。また、女性では「尾張旭市の相談窓口(女性の悩みごと相談など)」が 61.7%と、男性より 13.3 ポイント高くなっています。一方で、「法務局、人権擁護委員、法テラス」では、男性が女性を 15.8 ポイント上回っています。

<性別>



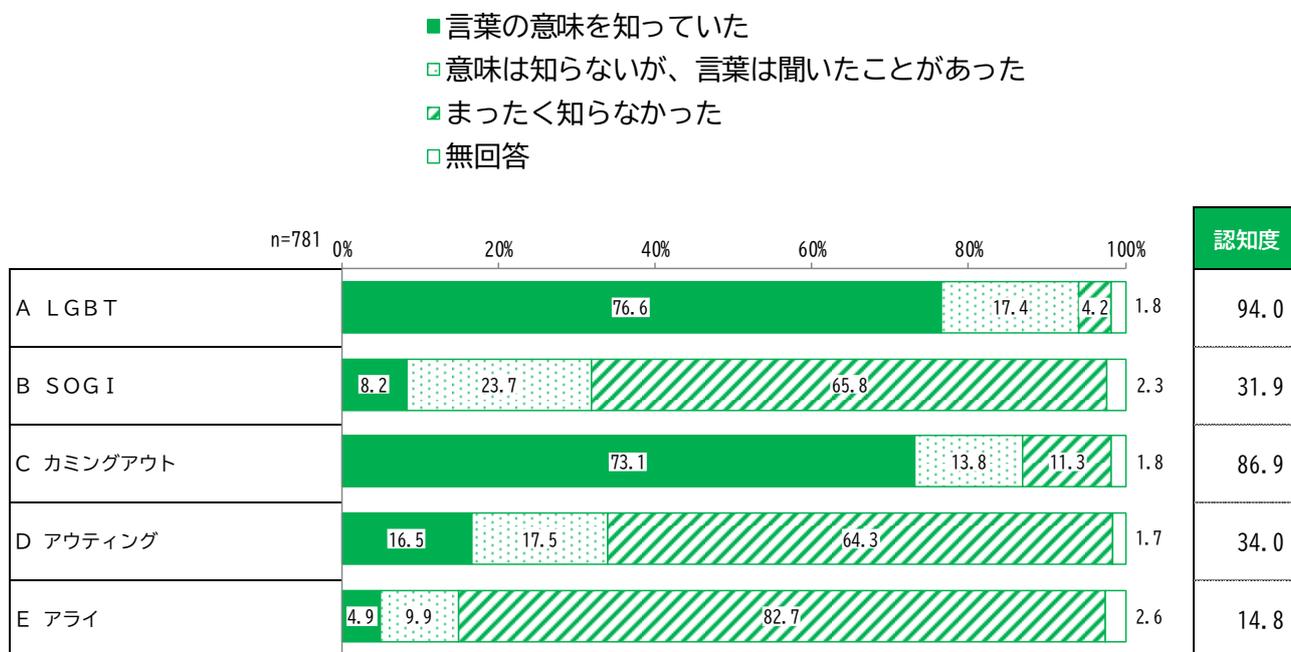
7 性の多様性（性的マイノリティ）について

問 21 次の言葉について、あなたが見たり聞いたりしたことはありますか。

- 「A LGBT」については、「言葉の意味を知っていた」が 76.6%と最も多く、これに「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(17.4%)を合わせた、言葉の認知度は 94.0%となっています。一方で、「まったく知らなかった」は 4.2%となっています。
- 「B SOGI」については、「まったく知らなかった」が 65.8%と最も多くなっています。一方で、「言葉の意味を知っていた」(8.2%)と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(23.7%)を合わせた、言葉の認知度は 31.9%となっています。
- 「C カミングアウト」については、「言葉の意味を知っていた」が 73.1%と最も多く、これに「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(13.8%)を合わせた、言葉の認知度は 86.9%となっています。一方で、「まったく知らなかった」は 11.3%となっています。
- 「D アウティング」については、「まったく知らなかった」が 64.3%と最も多くなっています。一方で、「言葉の意味を知っていた」(16.5%)と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(17.5%)を合わせた、言葉の認知度は 34.0%となっています。
- 「E アライ」については、「まったく知らなかった」が 82.7%と最も多くなっています。一方で、「言葉の意味を知っていた」(4.9%)と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(9.9%)を合わせた、言葉の認知度は 14.8%となっています。

<全体>

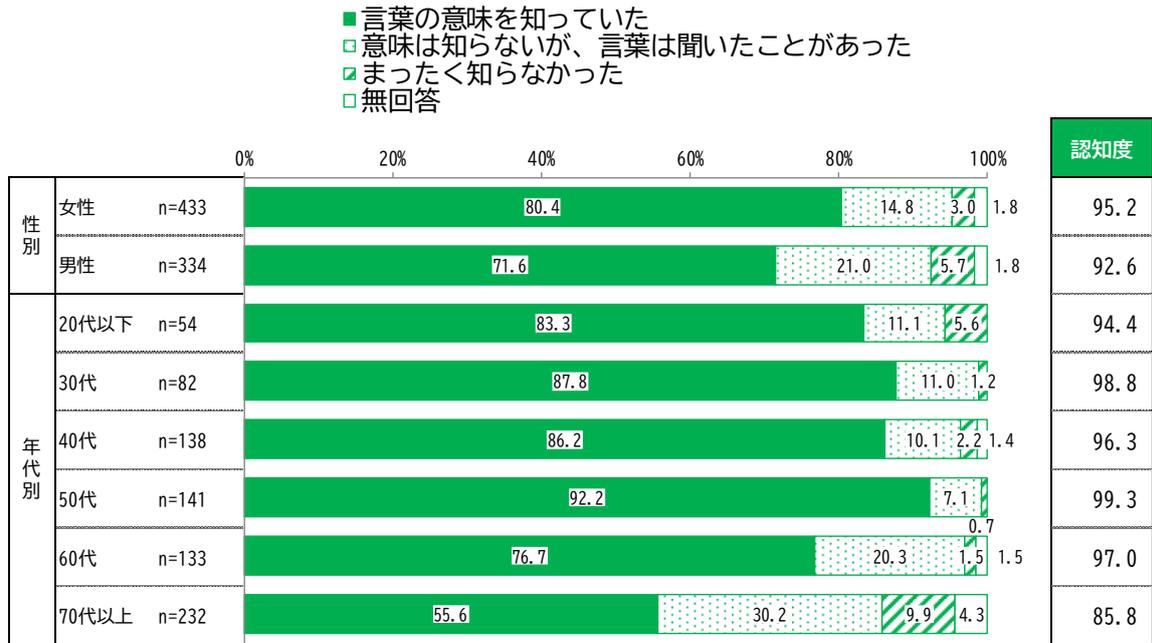
図表 30 言葉の認知



【LGBT】

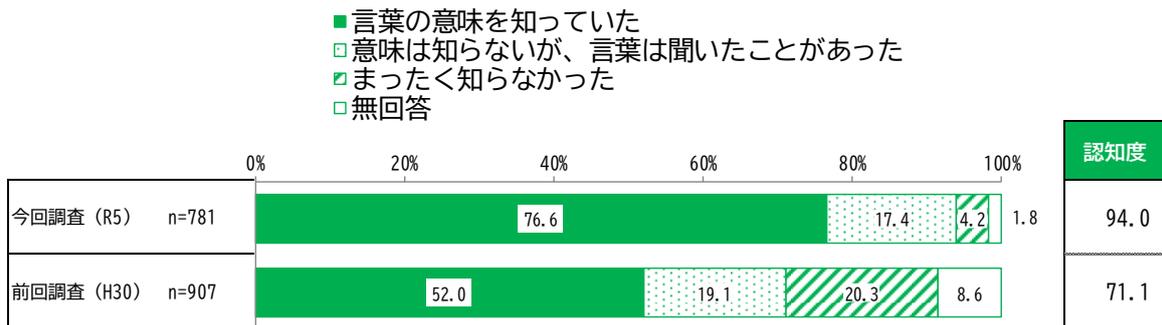
- ▶ 性別でみると、認知度（「言葉の意味を知っていた」+「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」）は男女とも9割を超えており、「言葉の意味を知っていた」の割合は、女性が男性を 8.8 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別でみると、60 代以下で認知度が高く、9割を超えています。

<性・年代別>



- ▶ 前回調査と比較すると、言葉の認知度は 22.9 ポイント増加しています。

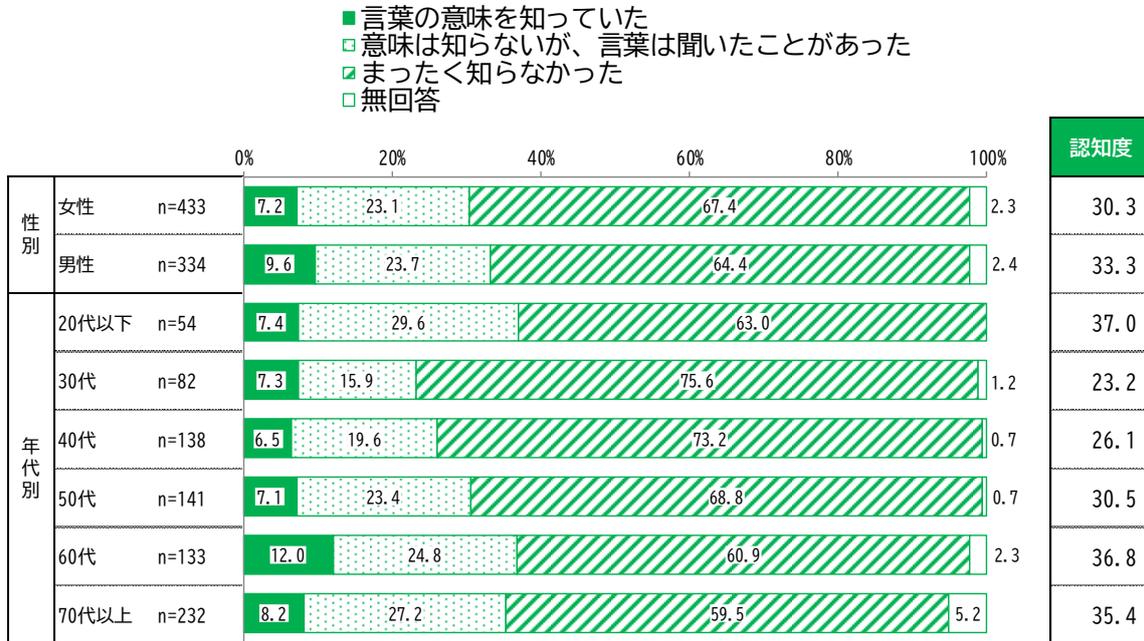
<経年比較>



【SOGI】

- ▶ 性別でみると、認知度（「言葉の意味を知っていた」+「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」）は、男性が女性を 3.0 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別でみると、いずれの年代においても2～3割程度と認知度は低くなっています。

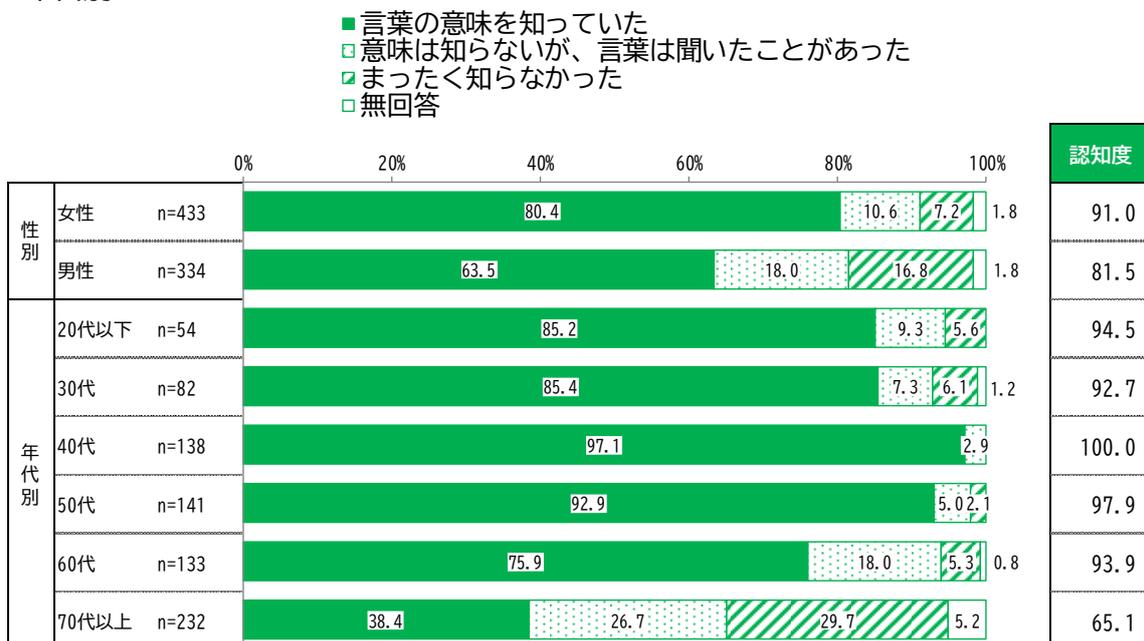
<性・年代別>



【カミングアウト】

- ▶ 性別でみると、認知度（「言葉の意味を知っていた」+「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」）は女性で 91.0%、男性で 81.5%となっており、女性が男性を 9.5 ポイント上回っています。また、「言葉の意味を知っていた」の割合は、女性が男性を 16.9 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別でみると、70 代以上では認知度は6割半ばとなっているものの、その他の年代では認知度が高く、9割を超えています。

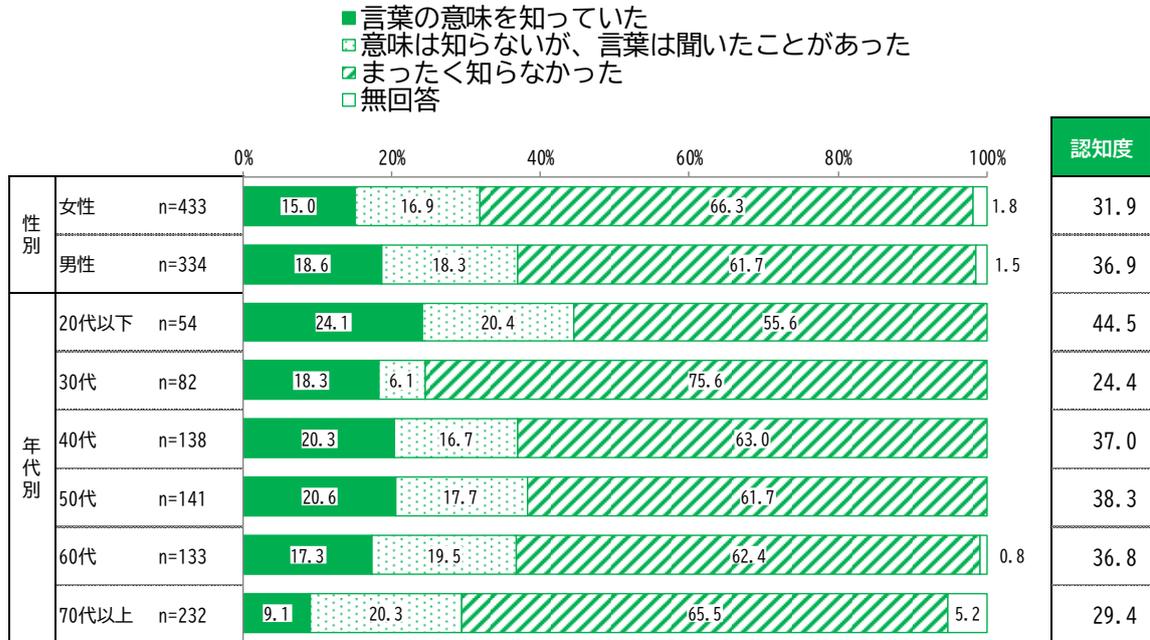
<性・年代別>



【アウトティング】

- ▶ 性別で見ると、認知度（「言葉の意味を知っていた」+「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」）は、男性が女性を 5.0 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別にみると、20 代以下で4割台となっているほかは、いずれの年代においても2～3割程度と認知度は低くなっています。

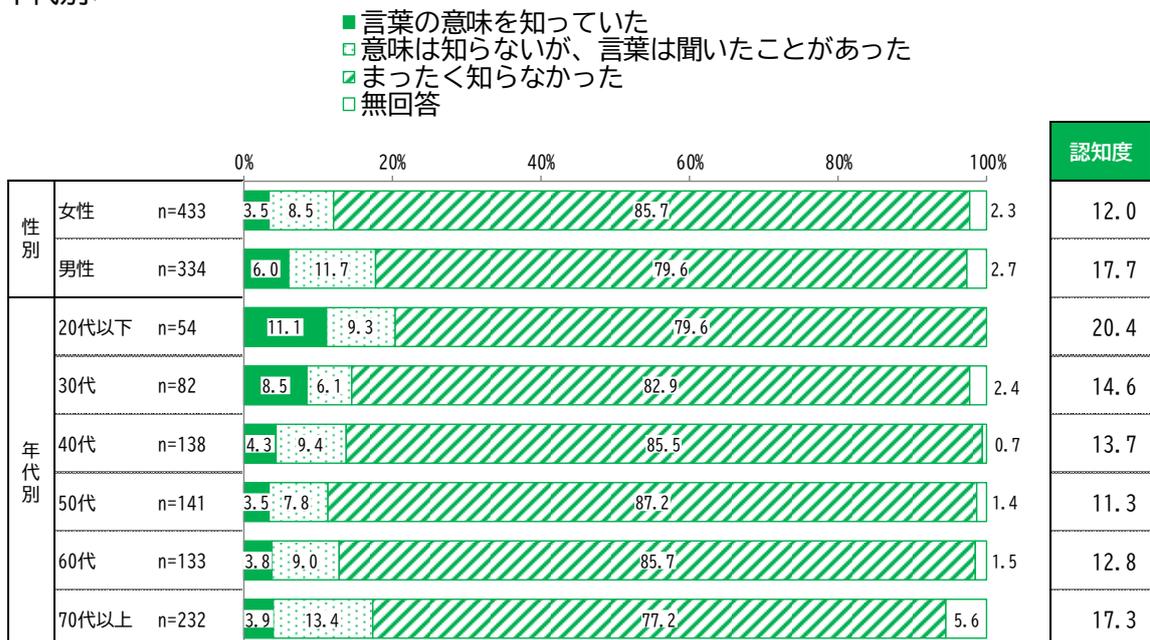
<性・年代別>



【アライ】

- ▶ 性別で見ると、認知度（「言葉の意味を知っていた」+「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」）は、男性が女性を 5.7 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別にみると、いずれの年代においても1～2割程度と認知度は低くなっています。

<性・年代別>



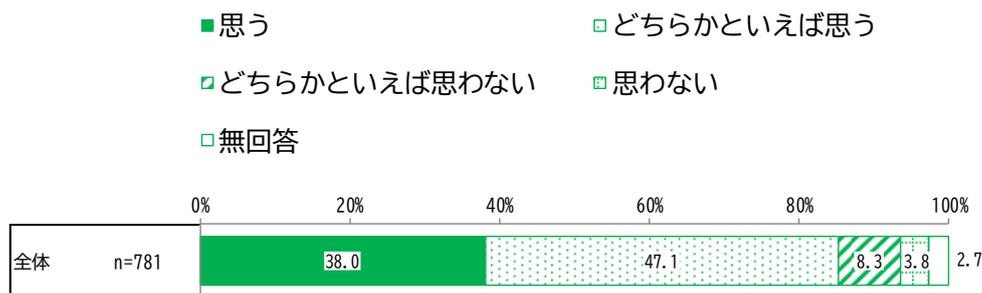
問 22 一般的に、性的少数者（LGBT等）の方々に対して、偏見や差別などがあると思いますか。

（○は1つだけ）

- ▶ 性的少数者(LGBT等)の方々に対しての偏見や差別の有無については、「どちらかといえば思う」が47.1%と最も多く、次いで「思う」が38.0%となっており、これらを合わせた、“偏見や差別があると感じている人”が8割半ばとなっています。

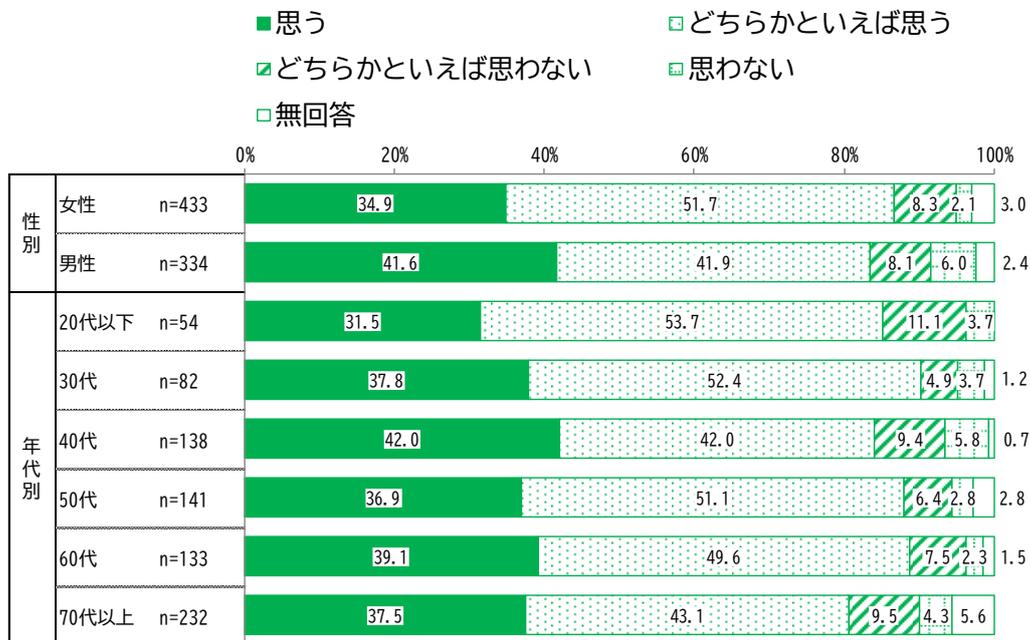
<全体>

図表 31 性的少数者（LGBT等）の偏見や差別があると思うか



- ▶ 性別でみると、“偏見や差別があると感じている人”は男女とも8割を超えています。
- ▶ 年代別でみると、“偏見や差別があると感じている人”は、いずれの年代においても8割を超えています。

<性・年代別>



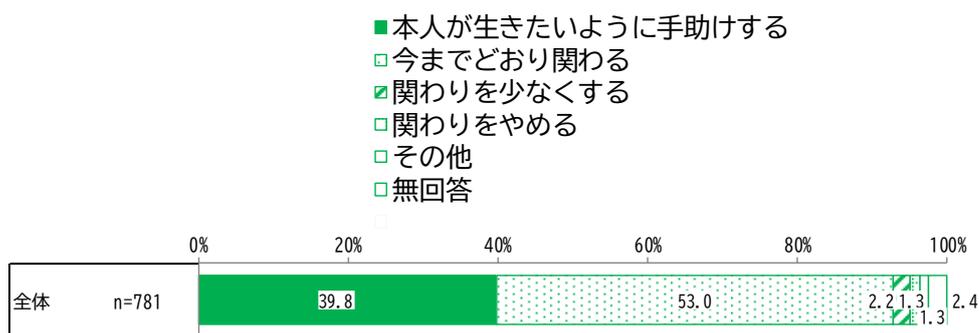
問 23 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBT等）であることを打ち明けられたらどうしますか。（○はそれぞれ1つ）

【家族の場合】

▶ 家族から性的少数者(LGBT等)であることを打ち明けられたときには、「今までどおり関わる」が53.0%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が39.8%となっています。

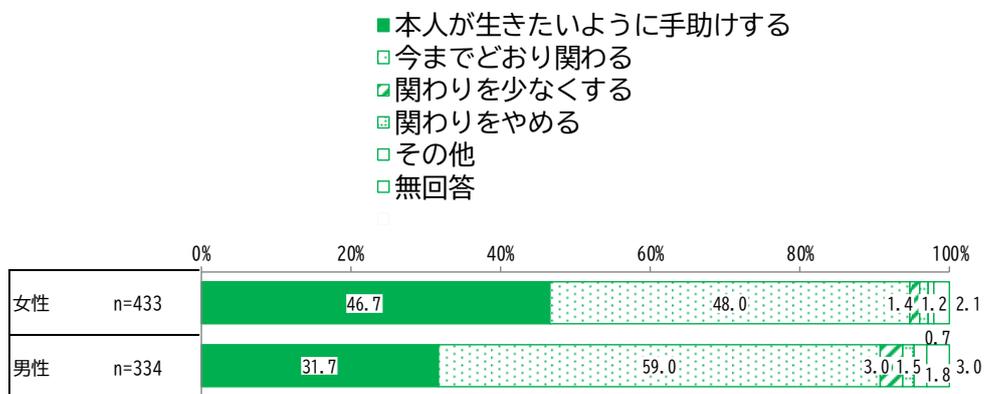
<全体>

図表 32 性的少数者であることを打ち明けられたら



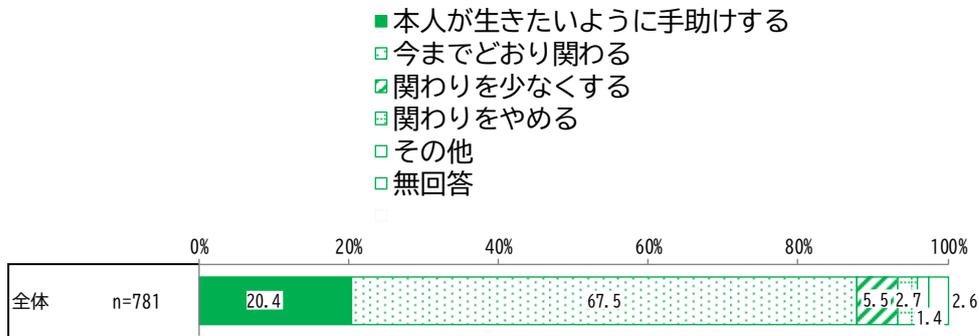
▶ 性別でみると、「本人が生きたいように手助けする」では15.0ポイント、女性が男性を上回っているのに対し、「今までどおり関わる」では11.0ポイント、男性が女性を上回っています。

<性別>



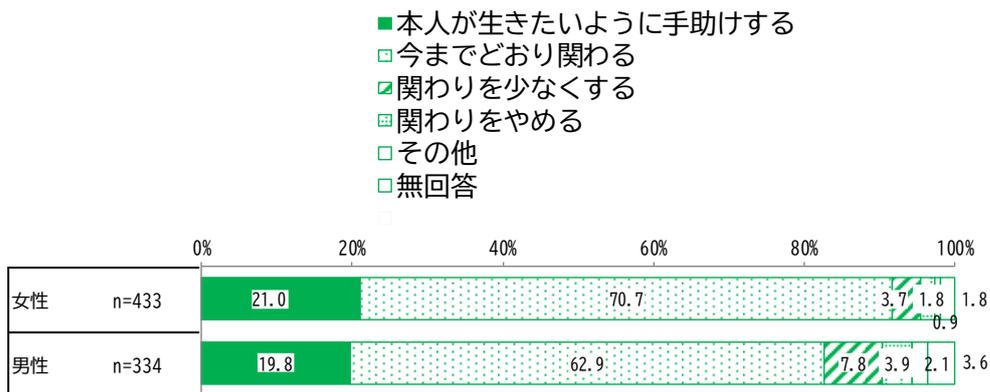
【友人の場合】

- 友人から性的少数者(LGBT等)であることを打ち明けられたときについては、「今までどおり関わる」が67.5%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が20.4%となっています。



- 性別で見ると、「今までどおり関わる」では、女性が男性を7.8ポイント上回っています。

<性別>

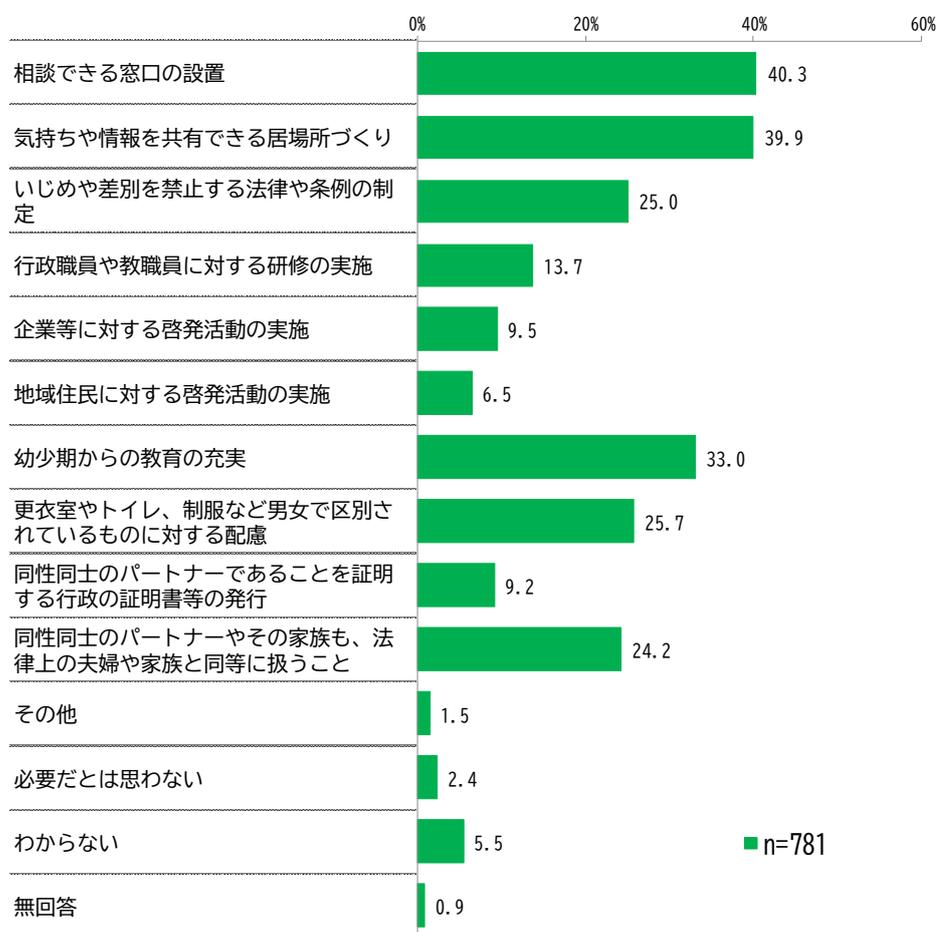


問 24 あなたは、性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ▶ 性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくなるために必要な取組については、「相談できる窓口の設置」が40.3%と最も多く、次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が39.9%、「幼少期からの教育の充実」が33.0%、「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮」が25.7%、「いじめや差別を禁止する法律や条例の制定」が25.0%、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと」が24.2%となっています。

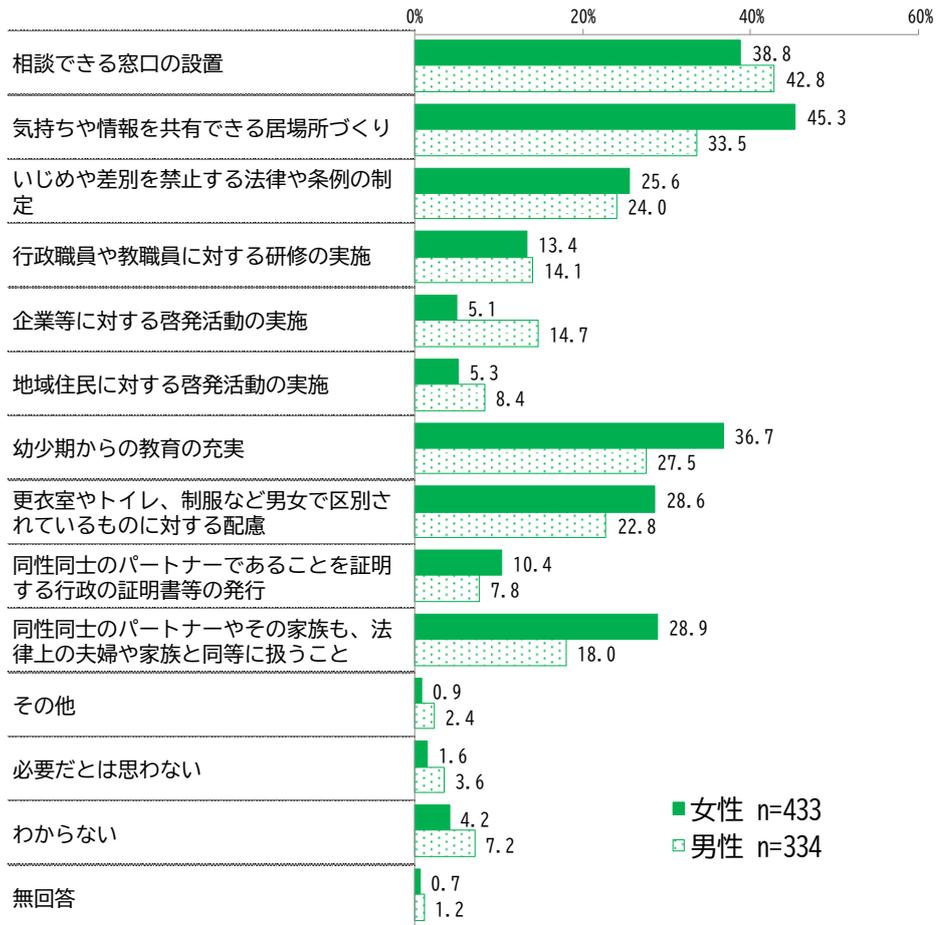
<全体>

図表 33 性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには



- ▶ 性別で見ると、女性では「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」、男性では「相談できる窓口の設置」が最も高くなっています。また、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと」「幼少期からの教育の充実」などは、女性が男性を 10 ポイント程度上回っているのに対し、「企業等に対する啓発活動の実施」は男性が女性を 9.6 ポイント上回っています。

<性別>



- ▶ 年代別では、30 代以下や 50 代から 60 代にかけて「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」、40 代で「幼少期からの教育の充実」、70 代以上で「相談できる窓口の設置」が、それぞれ最も高くなっています。
- ▶ 「同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行」は 30 代以下の若年層で、「相談できる窓口の設置」は 60 代以上で高くなっています。

<年代別>

	全体	相談できる窓口の設置	気持ちや情報を共有できる居場所づくり	いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	行政職員や教職員に対する研修の実施	企業等に対する啓発活動の実施	地域住民に対する啓発活動の実施	幼少期からの教育の充実	更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと	その他	必要だとは思わない	わからない	無回答	
全体	781	40.3	39.9	25.0	13.7	9.5	6.5	33.0	25.7	9.2	24.2	1.5	2.4	5.5	0.9	
年代	20代以下	54	25.9	44.4	16.7	7.4	3.7	35.2	35.2	20.4	24.1	3.7	0.0	5.6	0.0	
	30代	82	29.3	41.5	29.3	13.4	7.3	3.7	40.2	23.2	15.9	26.8	4.9	2.4	3.7	0.0
	40代	138	34.1	41.3	27.5	7.2	7.2	2.2	42.8	24.6	8.0	34.1	1.4	4.3	5.8	0.0
	50代	141	30.5	42.6	24.8	16.3	8.5	7.1	35.5	28.4	9.9	29.1	2.1	1.4	5.0	0.0
	60代	133	44.4	45.9	23.3	18.0	15.8	8.3	31.6	28.6	6.8	21.1	0.8	1.5	2.3	1.5
	70代以上	232	54.7	32.8	25.0	15.1	9.5	9.5	23.3	22.0	6.0	16.4	0.0	3.0	8.2	2.2

8 男女の意識について

問 25 あなたは、次にあげるようなA～Hの分野で、男女平等になっていると思いますか。(A～Hのそれぞれについて○は1つずつ)

- ▶ 家庭生活の中については、「男性優遇」が51.0%、「平等である」が31.0%、「女性優遇」が7.4%となっています。
- ▶ 職場の中については、「男性優遇」が62.3%、「平等である」が21.8%、「女性優遇」が4.4%となっています。
- ▶ 学校教育の場については、「男性優遇」が22.2%、「平等である」が52.9%、「女性優遇」が2.1%となっています。
- ▶ 地域活動の場については、「男性優遇」が34.7%、「平等である」が36.7%、「女性優遇」が4.4%となっています。
- ▶ 政治の場については、「男性優遇」が82.2%、「平等である」が6.5%、「女性優遇」が0.9%となっています。
- ▶ 法律や制度の上については、「男性優遇」が51.9%、「平等である」が23.8%、「女性優遇」が3.6%となっています。
- ▶ 社会通念・慣習・しきたりなどについては、「男性優遇」が78.1%、「平等である」が9.3%、「女性優遇」が1.8%となっています。
- ▶ 社会全体の中については、「男性優遇」が73.8%、「平等である」が10.6%、「女性優遇」が3.1%となっています。

<全体>

図表 34 男女の平等感について

■ 男性優遇 □ 平等である ■ 女性優遇 ■ わからない □ 無回答



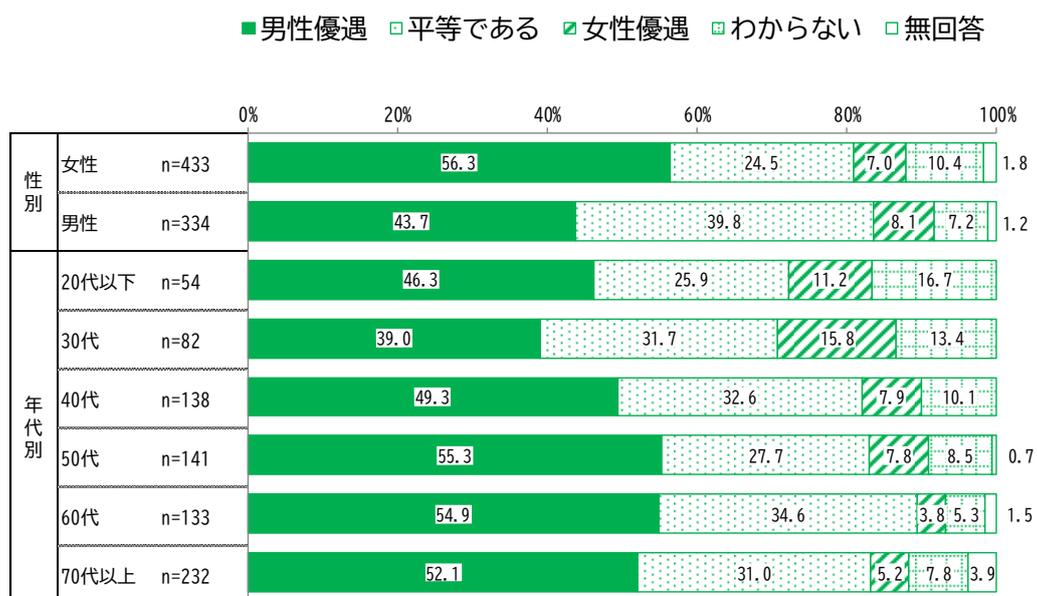
※「男性優遇」:(「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)

※「女性優遇」:(「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)

【家庭生活】

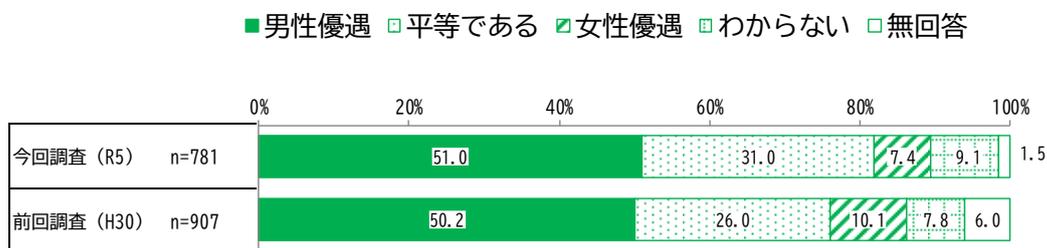
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 56.3%、男性で 43.7%と、女性が 12.6 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、50 代までは年代が上がるにつれて「男性優遇」の割合が増加するという傾向がみられます。

<性・年代別>



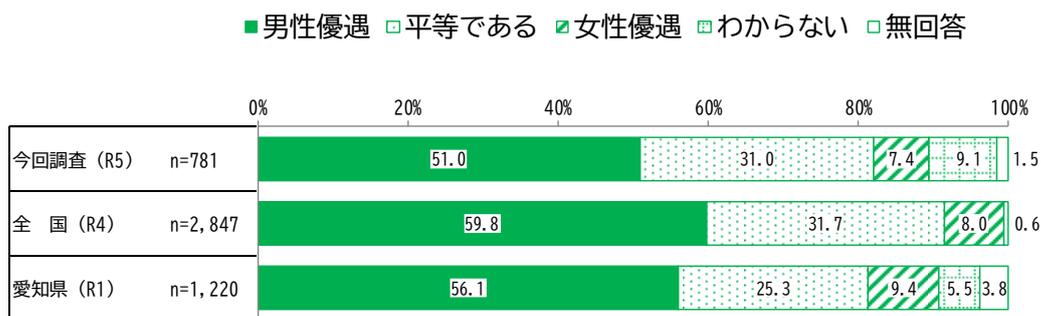
- ▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合に変化はみられず、「平等である」が 5.0 ポイント増加しています。

<経年比較>



- ▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて 8.8 ポイント、県に比べて 5.1 ポイント低くなっています。
- ▶ 「平等である」と回答した人は、県に比べて 5.7 ポイント高くなっています。

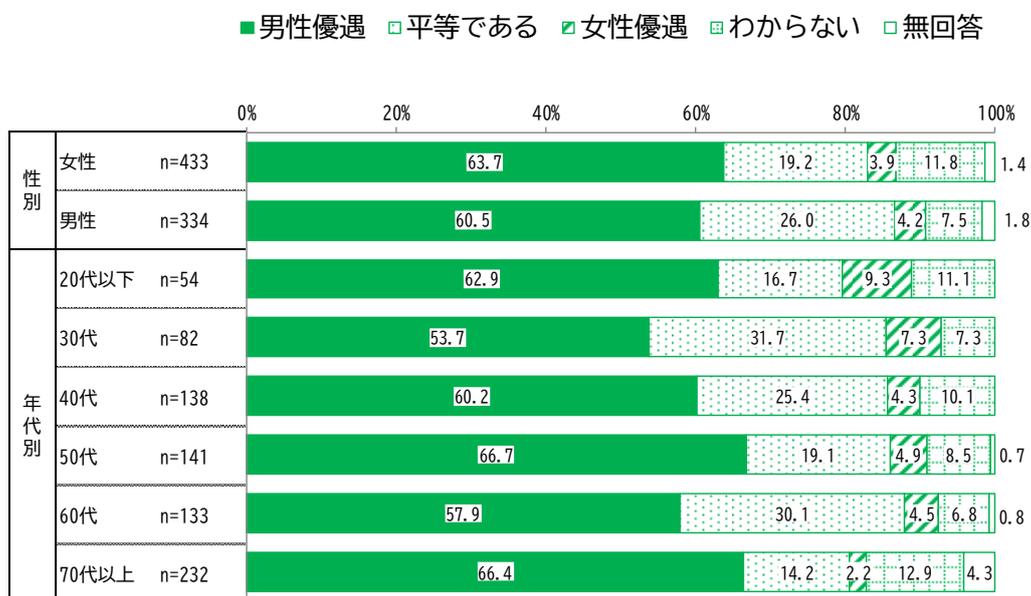
<国・県との比較>



【職場】

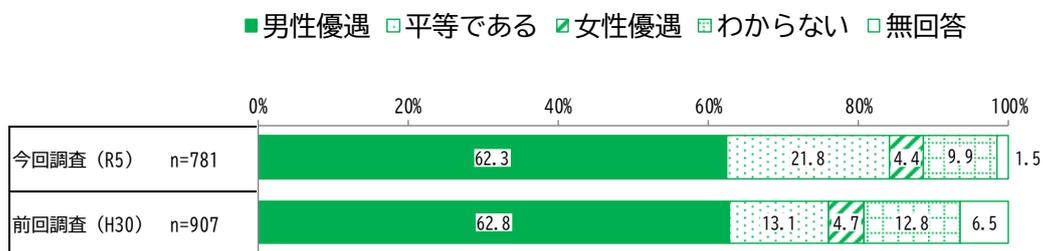
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で63.7%、男性で60.5%と、女性が3.2ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、いずれの年代においても「男性優遇」の割合は5～6割を占めています。

<性・年代別>



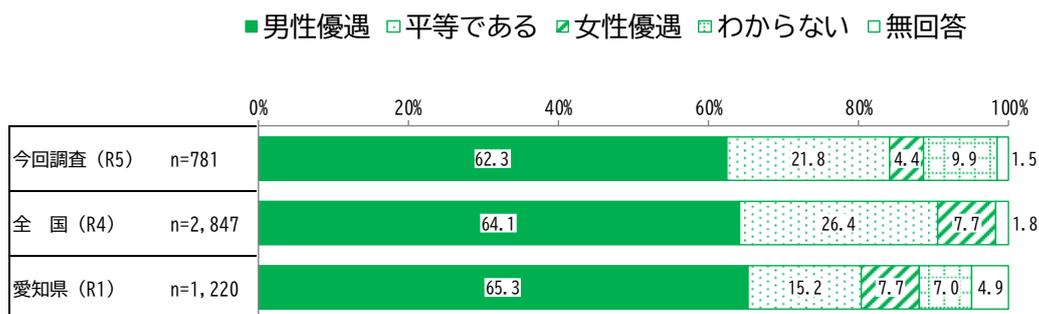
- ▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合に変化はみられず、「平等である」が 8.7 ポイント増加しています。

<経年比較>



- ▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて 1.8 ポイント、県に比べて 3.0 ポイント低くなっています。
- ▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 4.6 ポイント低く、県に比べて 6.6 ポイント高くなっています。

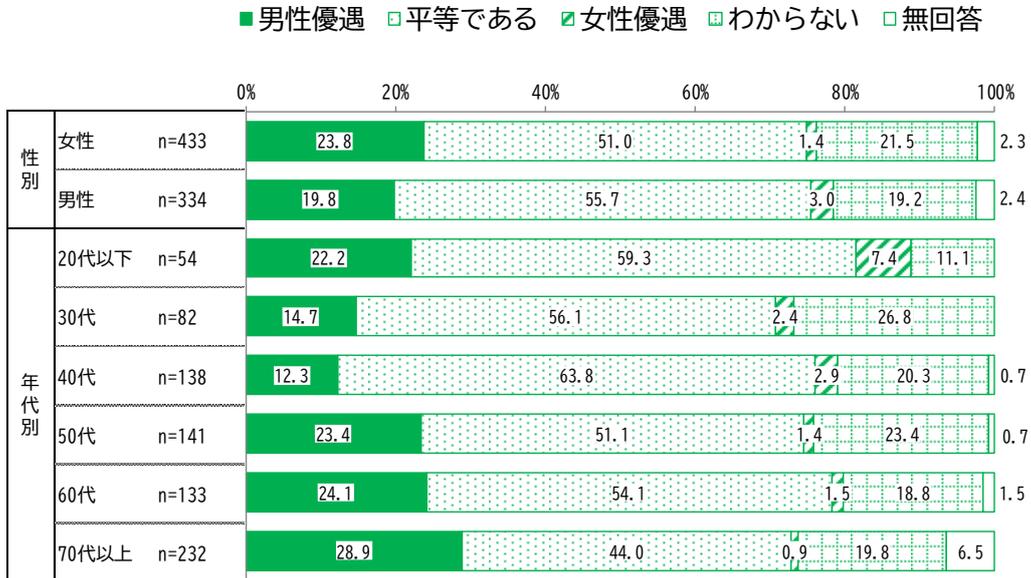
<国・県との比較>



【学校教育の場】

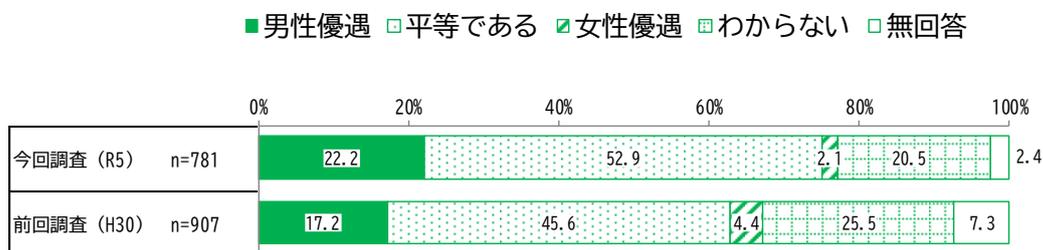
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 23.8%、男性で 19.8%と、女性が 4.0 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、50 代以上は年代が上がるにつれて「男性優遇」の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



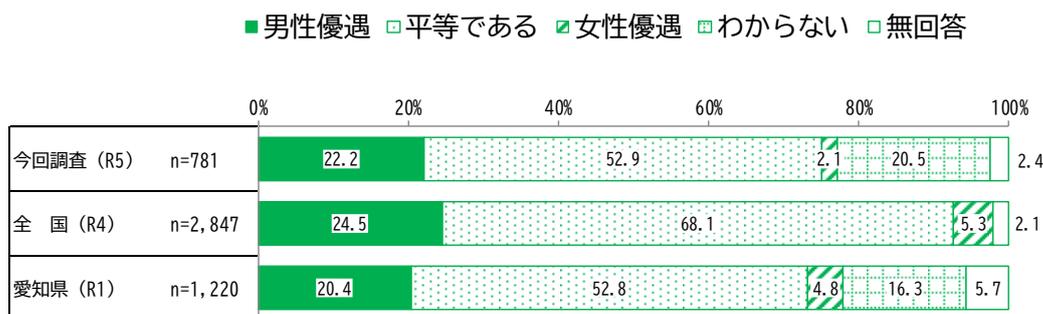
- ▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合が 5.0 ポイント増加し、「平等である」も 7.3 ポイント増加しています。

<経年比較>



- ▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて 2.3 ポイント低く、県に比べて 1.8 ポイント高くなっています。
- ▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 15.2 ポイント低くなっています。

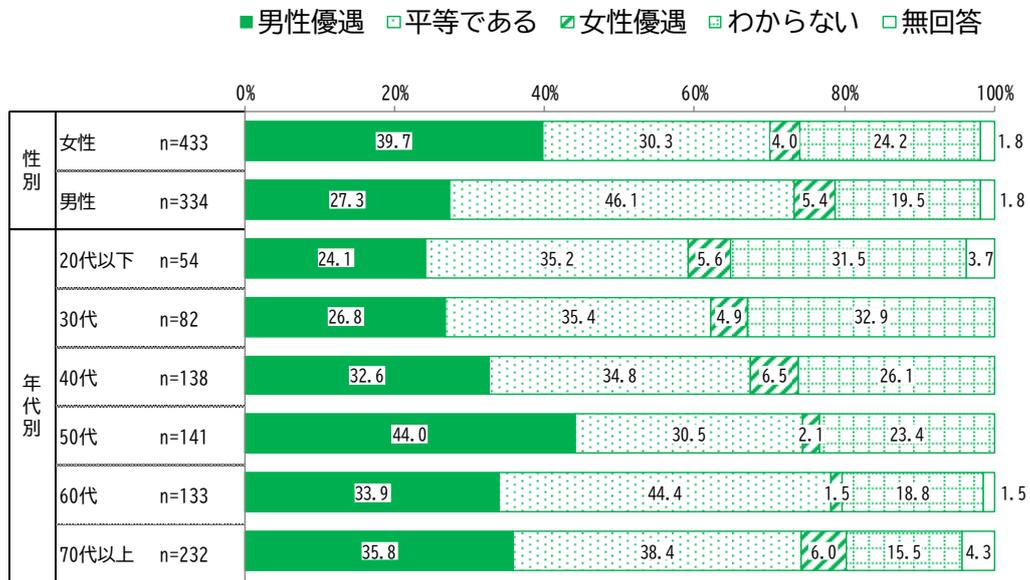
<国・県との比較>



【地域活動の場】

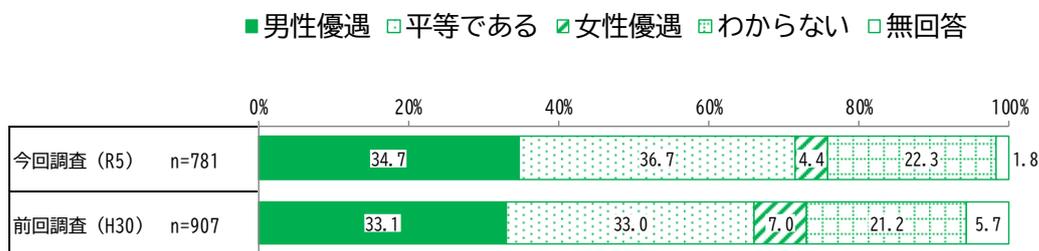
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 39.7%、男性で 27.3%と、女性が 12.4 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、50 代では「男性優遇」の割合が最も高くなっています。

<性・年代別>



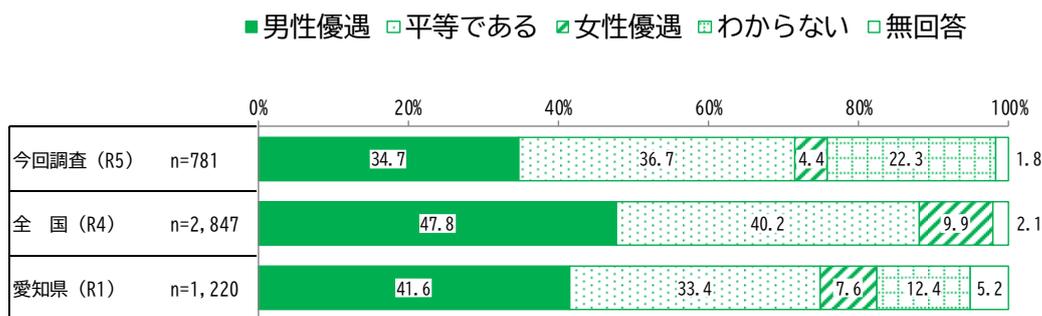
- ▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合に大きな変化はみられず、「平等である」が 3.7 ポイント増加しています。

<経年比較>



- ▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて 13.1 ポイント、県に比べて 6.9 ポイント低くなっています。
- ▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 3.5 ポイント低く、県に比べて 3.3 ポイント高くなっています。

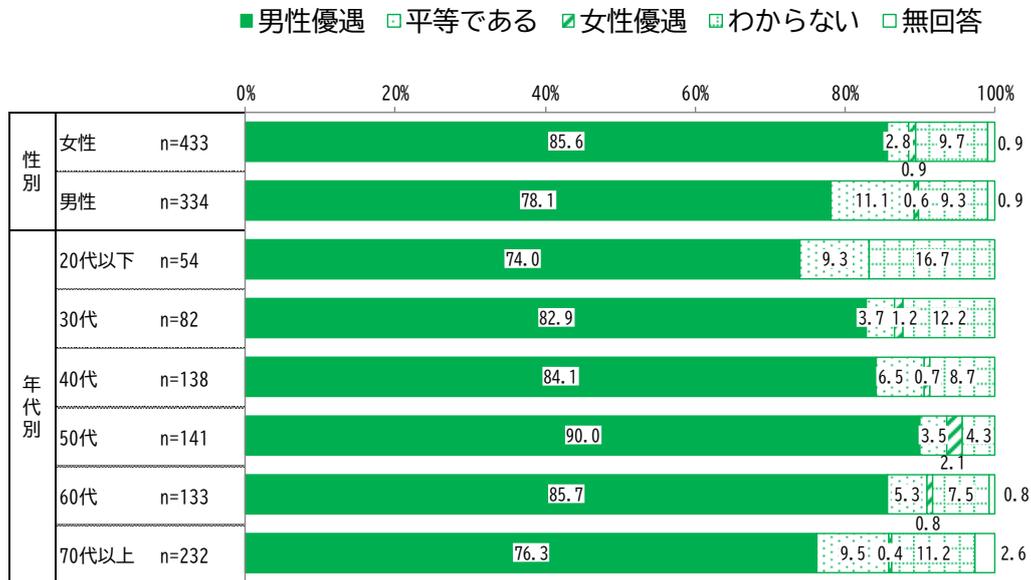
<国・県との比較>



【政治の場】

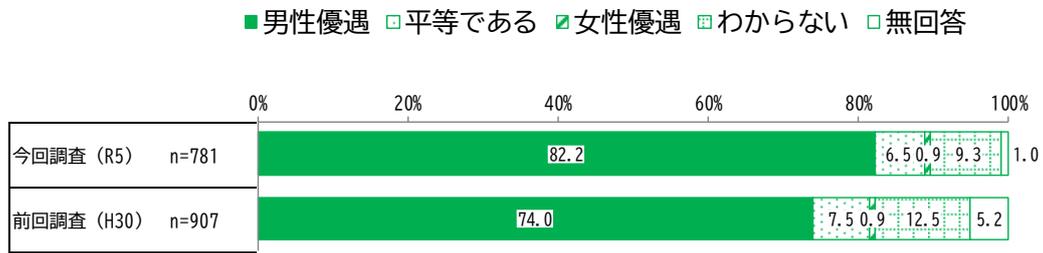
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 85.6%、男性で 78.1%と、女性が 7.5 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、30～60 代までは「男性優遇」の割合が8割を超えています。

<性・年代別>



▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合が8.2ポイント増加しています。

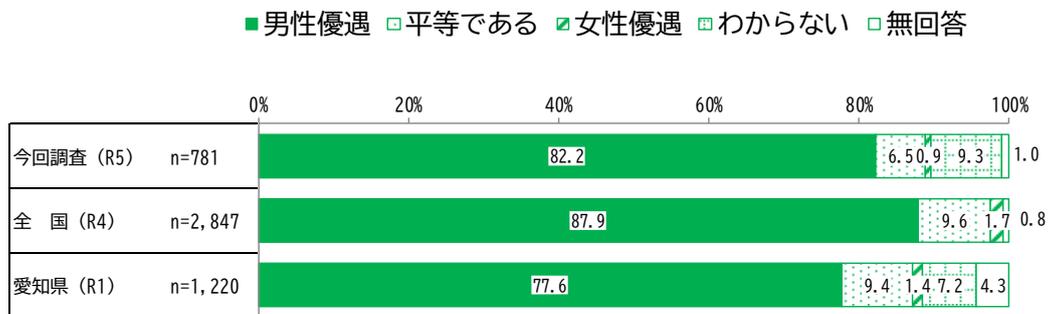
<経年比較>



▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて5.7ポイント低く、県に比べて4.6ポイント高くなっています。

▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて3.1ポイント低くなっています。

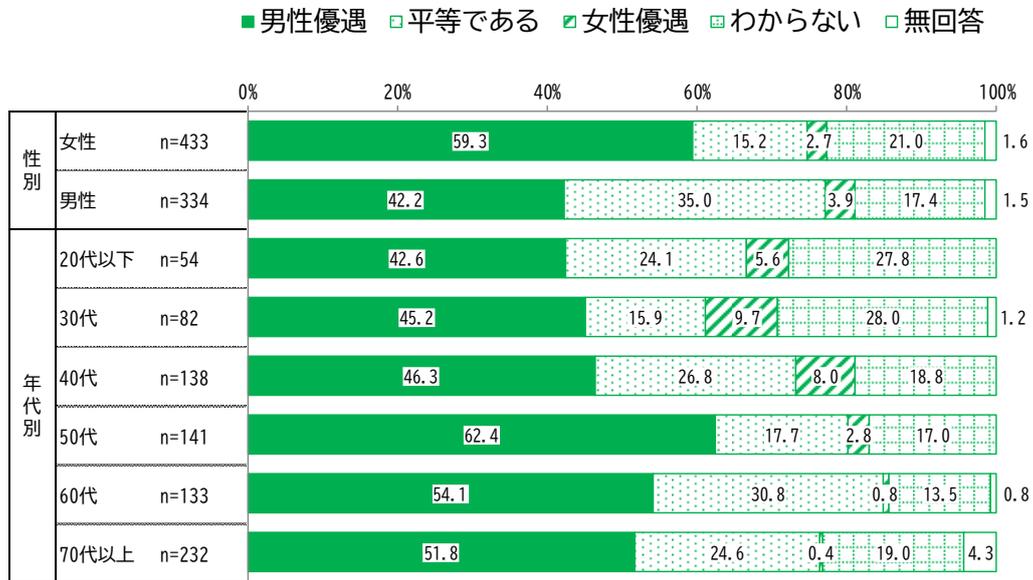
<国・県との比較>



【法律や制度の上】

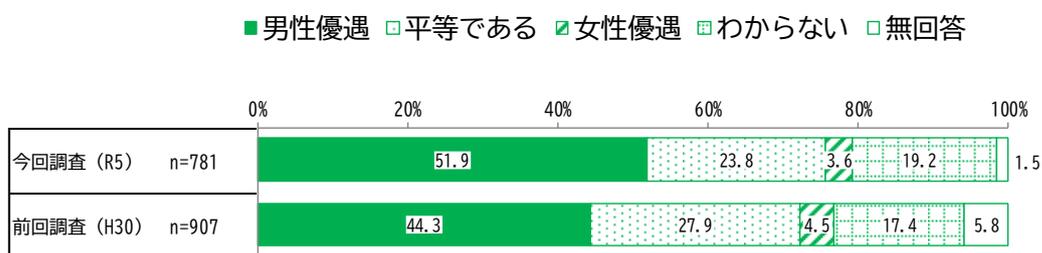
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 59.3%、男性で 42.2%と、女性が 17.1 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、50 代以上で「男性優遇」の割合が5割を超えています。

<性・年代別>



▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合が7.6ポイント増加しています。

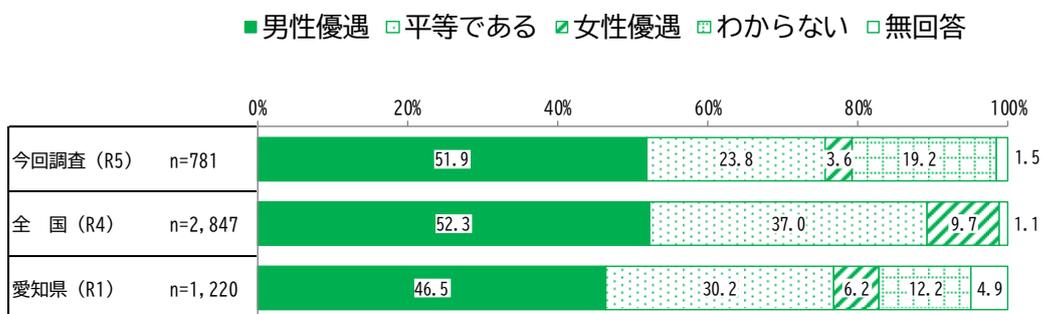
<経年比較>



▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて0.4ポイント低く、県に比べて5.4ポイント高くなっています。

▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて13.2ポイント、県に比べて6.4ポイント低くなっています。

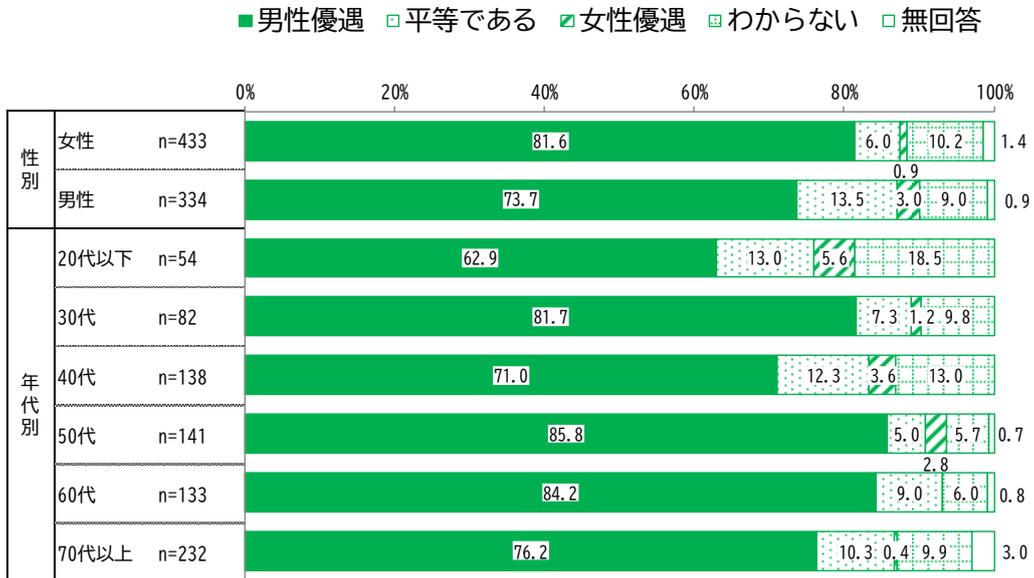
<国・県との比較>



【社会通念・慣習・しきたりなど】

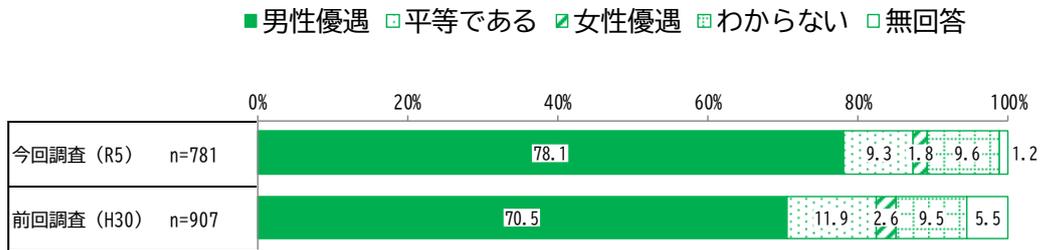
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 81.6%、男性で 73.7%と、女性が 7.9 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、30 代、50～60 代で「男性優遇」の割合が8割を超えています。

<性・年代別>



➤ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合が7.6ポイント増加しています。

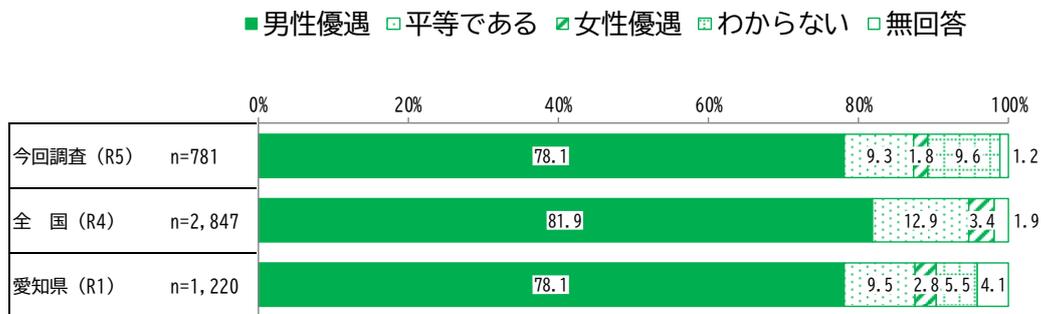
<経年比較>



➤ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて3.8ポイント低くなっています。

➤ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて3.6ポイント低くなっています。

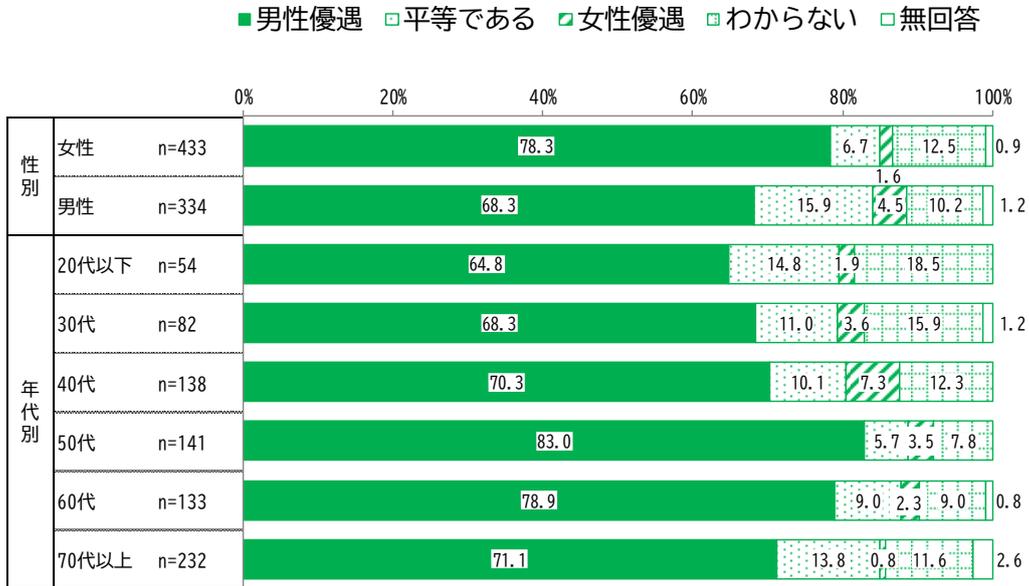
<国・県との比較>



【社会全体として】

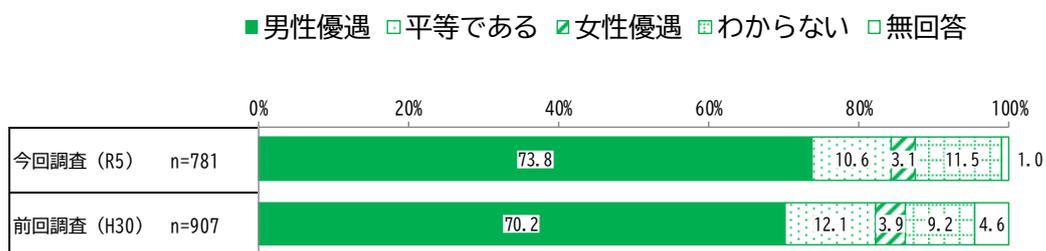
- ▶ 性別では、「男性優遇」の割合が女性で 78.3%、男性で 68.3%と、女性が 10.0 ポイント上回っています。
- ▶ 年代別では、50 代までは年代が上がるにつれて「男性優遇」の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



▶ 前回調査と比較すると、「男性優遇」の割合が3.6ポイント増加しています。

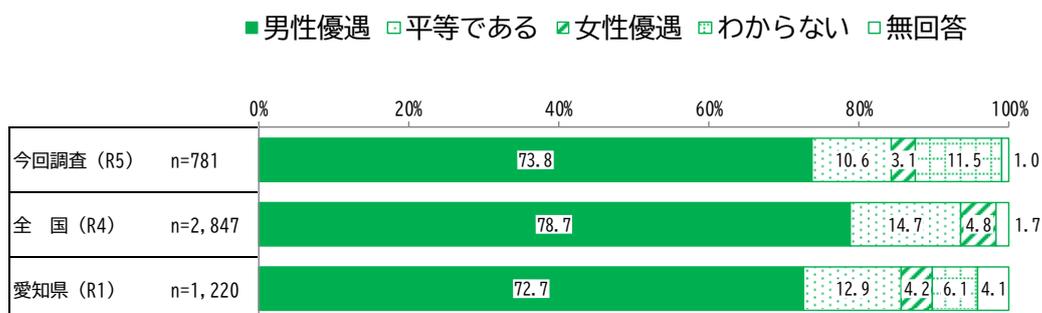
<経年比較>



▶ 「男性優遇」の割合が、全国に比べて4.9ポイント低く、県に比べて1.1ポイント高くなっています。

▶ 「平等である」と回答した人は、全国に比べて4.1ポイント、県に比べて2.3ポイント低くなっています。

<国・県との比較>



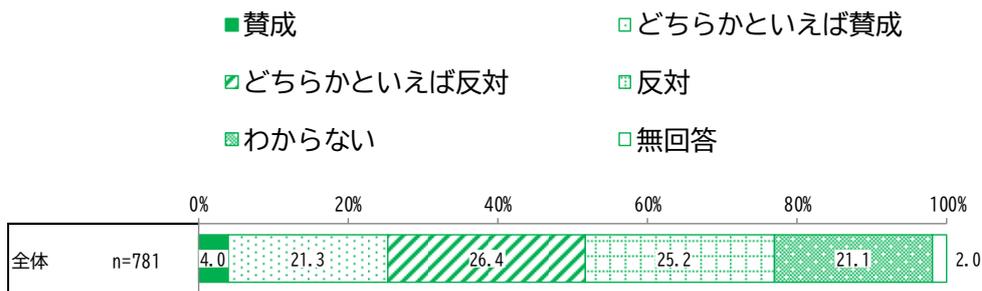
問 26 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。

(○は1つ)

▶ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「どちらかといえば反対」が 26.4%で最も多く、次いで「反対」が 25.2%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が 51.6%となっています。一方で、“賛成派”(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は 25.3%となっています。

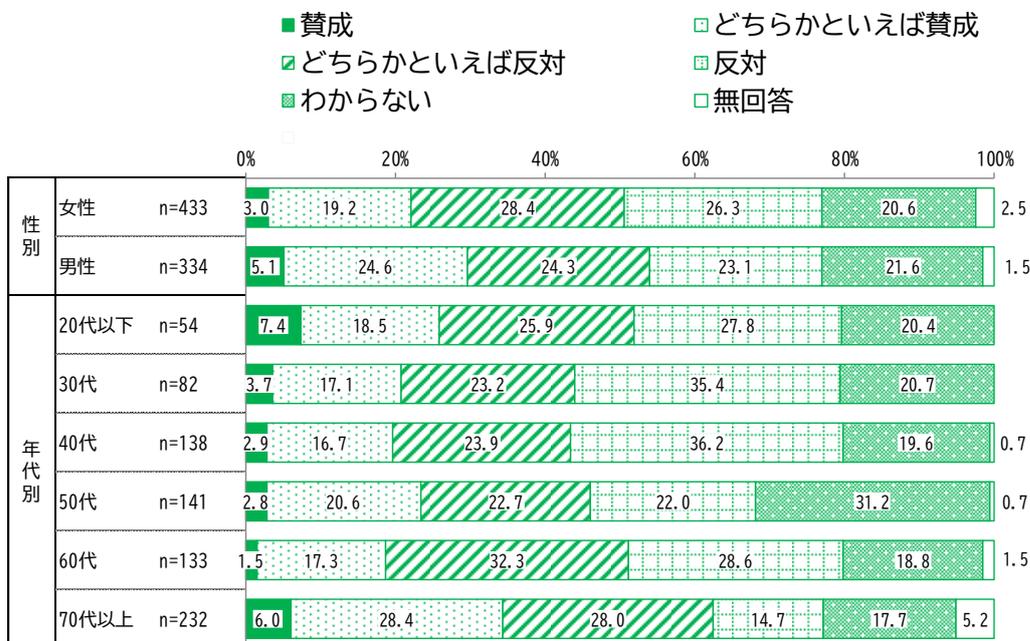
<全体>

図表 35 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について



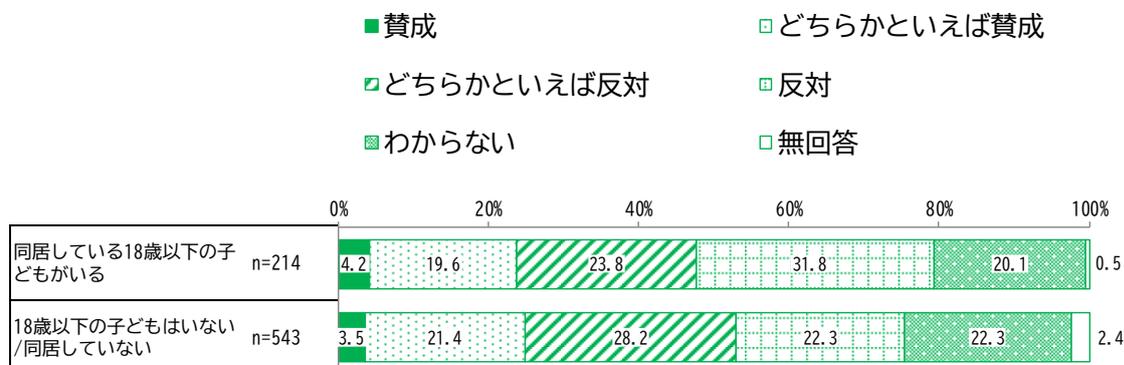
▶ 性別でみると“賛成派”の割合は女性で22.2%、男性で29.7%と、男性が7.5ポイント上回っています。
 ▶ 年代別でみると“賛成派”の割合は、60代以下では1~2割台となっているのに対し、70代以上では3割半ばとなっており、年代により意識に差がみられます。

<性・年代別>



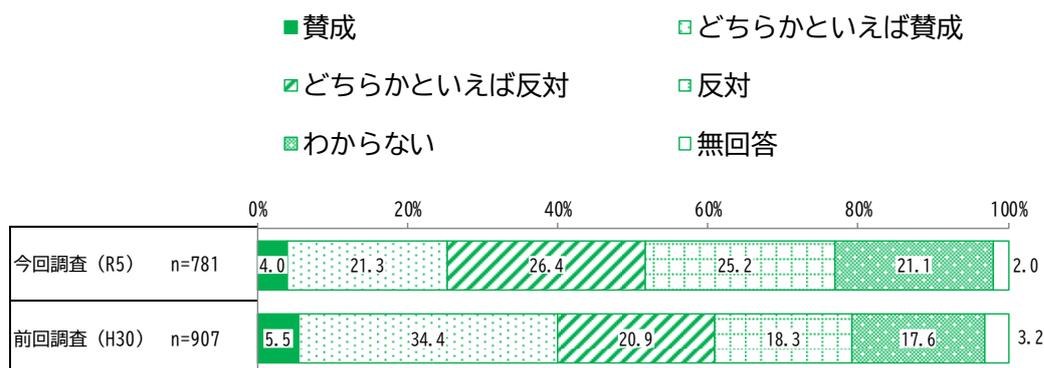
▶ 親世代別で見ると、“反対派”の割合は同居している18歳以下の子どもがいる家庭で55.6%、18歳以下の子どもはいる/同居していない家庭で50.5%と、18歳以下の子どもがいる家庭が5.1ポイント上回っています。

<親世代別>



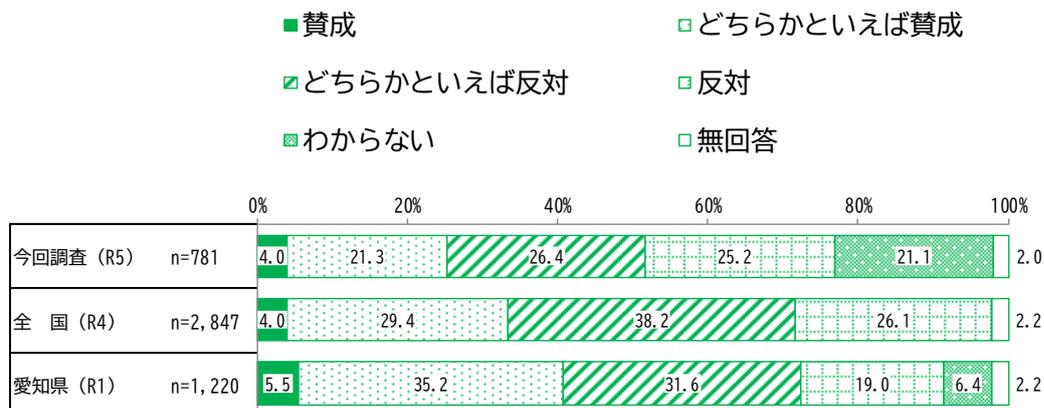
▶ 前回調査と比較すると、“賛成派”は14.6ポイント減少したのに対し、“反対派”は12.4ポイント増加しています。

<経年比較>



▶ 全国や県の調査と比較すると、“賛成派”は全国を8.1ポイント、県を15.4ポイント下回っています。

<国・県との比較>

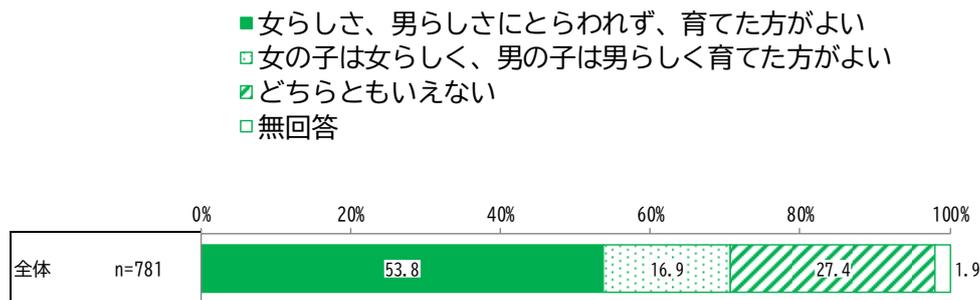


問 27 あなたは、「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という子どもの育て方について、どう思いますか。(〇は1つ)

- 「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という子どもの育て方については、「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」が53.8%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.4%、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」が16.9%となっています。

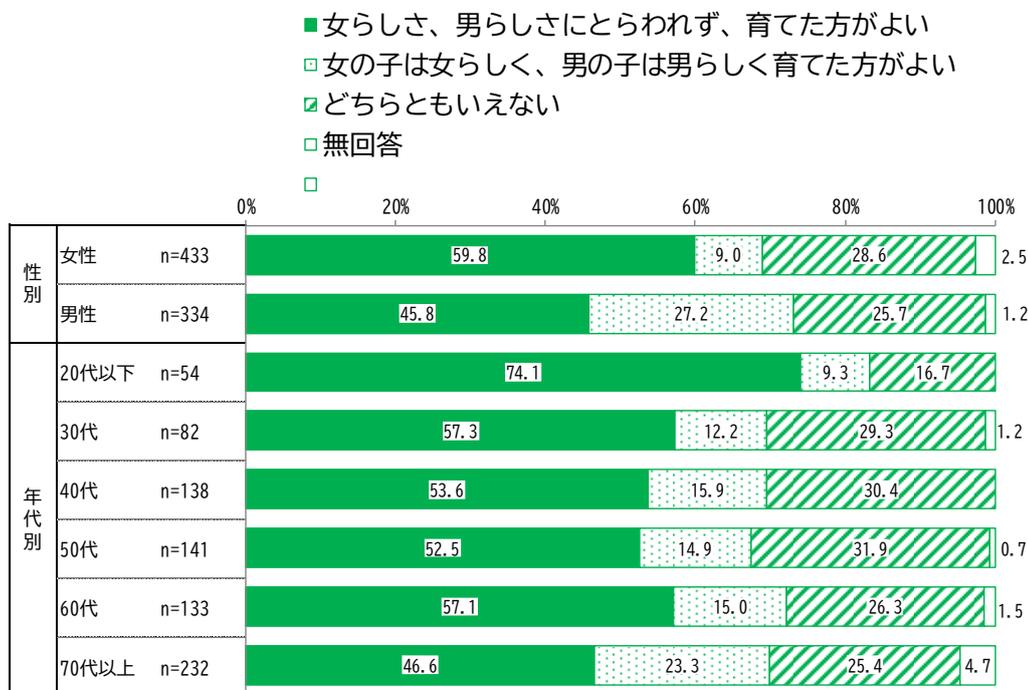
<全体>

図表 36 「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という育て方について



- 性別で見ると、「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した人は女性で 59.8%、男性で 45.8%と、女性が14.0ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した人は 20 代以下で 74.1%となっている、そのほかの年代では5割前後となっています。

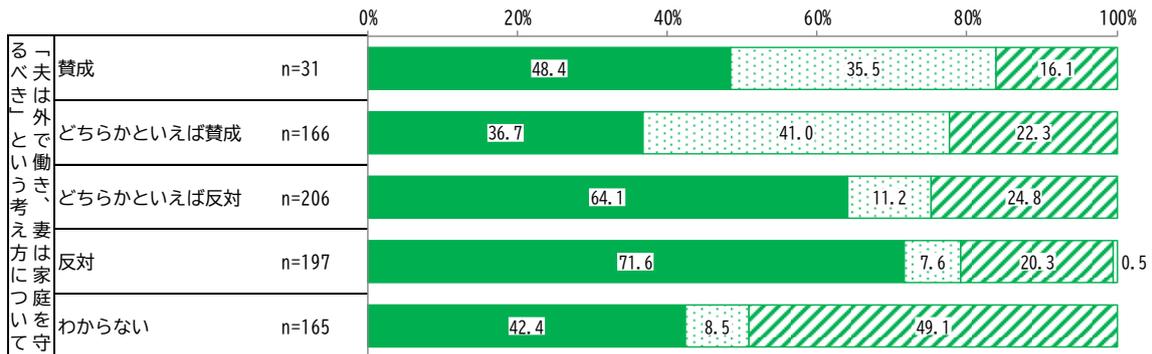
<性・年代別>



▶ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方でみると、「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した人は「どちらかといえば反対」「反対」で6割を超えています。

<問 26×問 27>

- 女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい
- 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい
- ▨ どちらともいえない
- 無回答



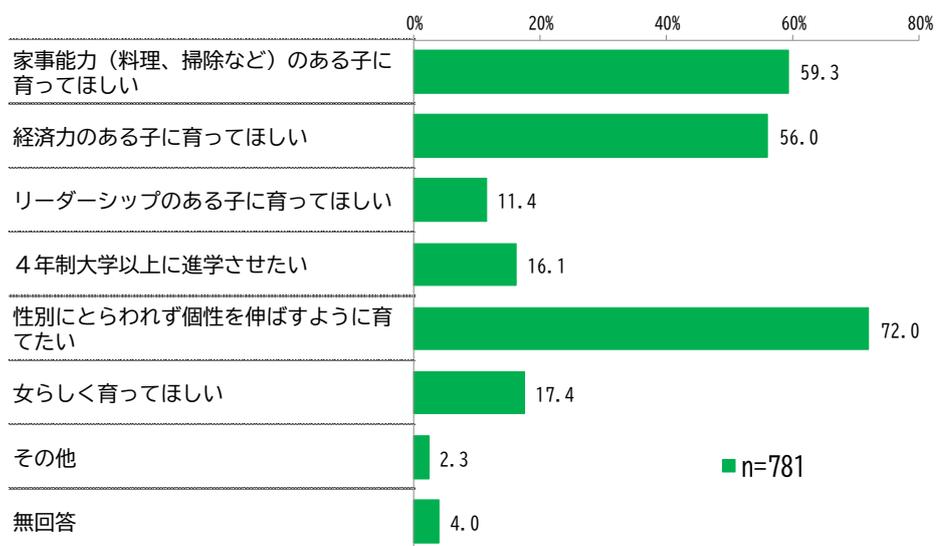
問 28 家庭における子どもの育て方についておたずねします。あなたは、子どもにどのように育ててほしいと思っていますか。女の子の場合、男の子の場合についてお答えください。

【女の子の場合】

- ▶ 家庭における女の子の育て方について、「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が72.0%と最も多く、次いで「家事能力(料理、掃除など)のある子に育ててほしい」が59.3%、「経済力のある子に育ててほしい」が56.0%となっています。

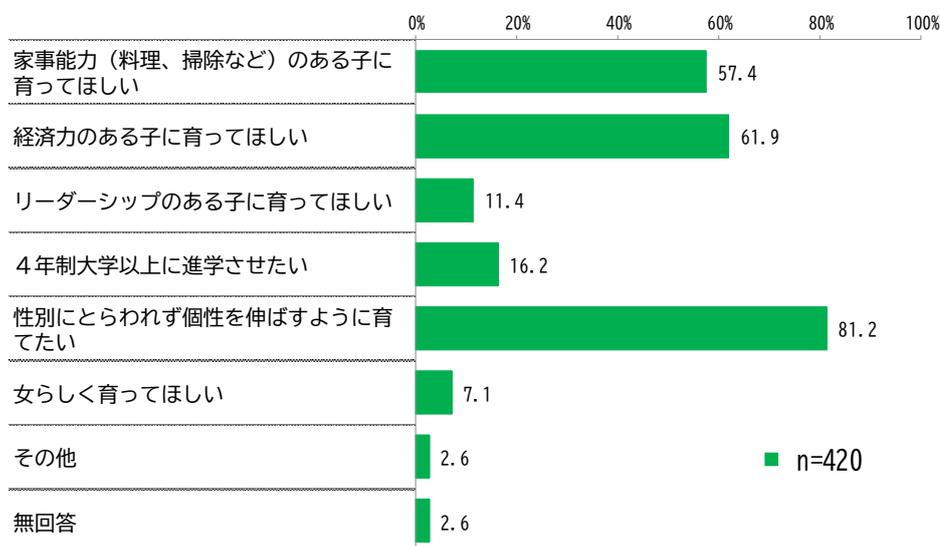
<全体>

図表 37 家庭における子どもの育て方について



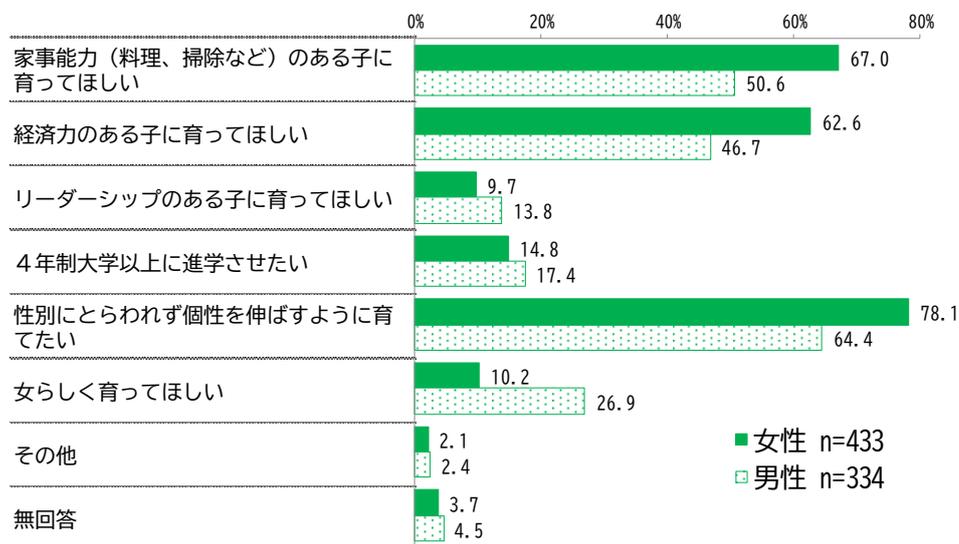
- ▶ 問 27 で「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した方に限定してみると、「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が81.2%と最も多く、次いで「経済力のある子に育ててほしい」が61.9%、「家事能力(料理、掃除など)のある子に育ててほしい」が57.4%となっています。

<問 27 で「1」と回答した人>



- ▶ 性別でみると、「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を 13.7 ポイント上回っています。また、女性では「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」「経済力のある子に育てほしい」が、男性より 10 ポイント以上高くなっているのに対し、「女らしく育てほしい」は男性が女性を 16.7 ポイント上回っています。

<性別>



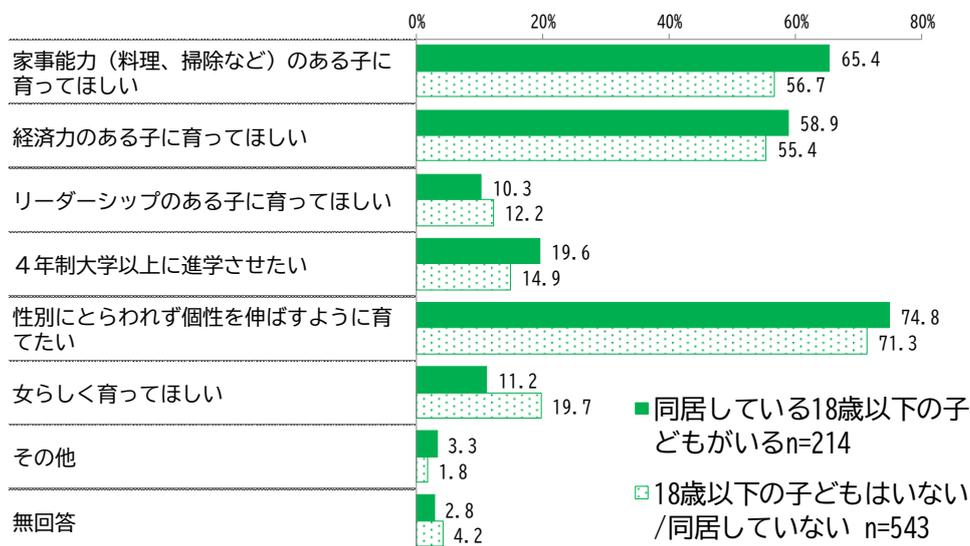
- ▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」と回答した人の割合が最も高くなっています。

<年代別>

	全体	家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい	経済力のある子に育てほしい	リーダーシップのある子に育てほしい	4年制大学以上に進学させたい	性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい	女らしく育てほしい	その他	無回答	
全体	781	59.3	56.0	11.4	16.1	72.0	17.4	2.3	4.0	
年代	20代以下	54	53.7	50.0	11.1	22.2	64.8	9.3	5.6	3.7
	30代	82	68.3	59.8	13.4	30.5	68.3	9.8	1.2	4.9
	40代	138	64.5	64.5	8.7	15.9	73.9	13.0	5.1	1.4
	50代	141	61.7	61.0	12.8	9.2	72.3	19.9	2.1	2.1
	60代	133	54.1	60.2	13.5	15.0	78.2	12.0	0.0	5.3
	70代以上	232	55.6	45.3	10.3	14.7	70.3	25.9	1.7	5.6

▶ 親世代別でみると、「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」が同居している18歳以下の子どもがいる家庭で65.4%、18歳以下の子どもはいない/同居していない家庭で56.7%と、18歳以下の子どもがいる家庭が8.7ポイント上回っています。一方で、「女らしく育てほしい」は、18歳以下の子どもはいない/同居していない家庭が、同居している18歳以下の子どもがいる家庭を8.5ポイント上回っています。

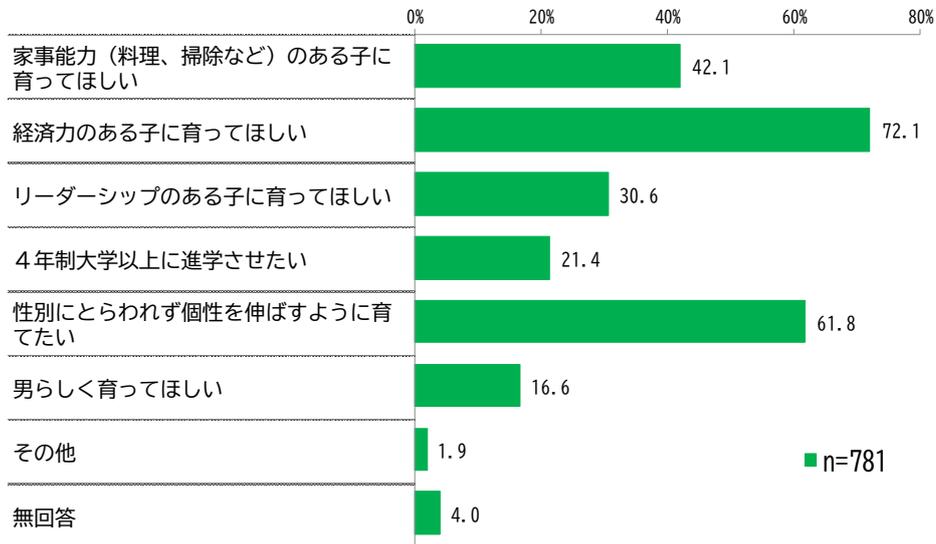
<親世代別>



【男の子の場合】

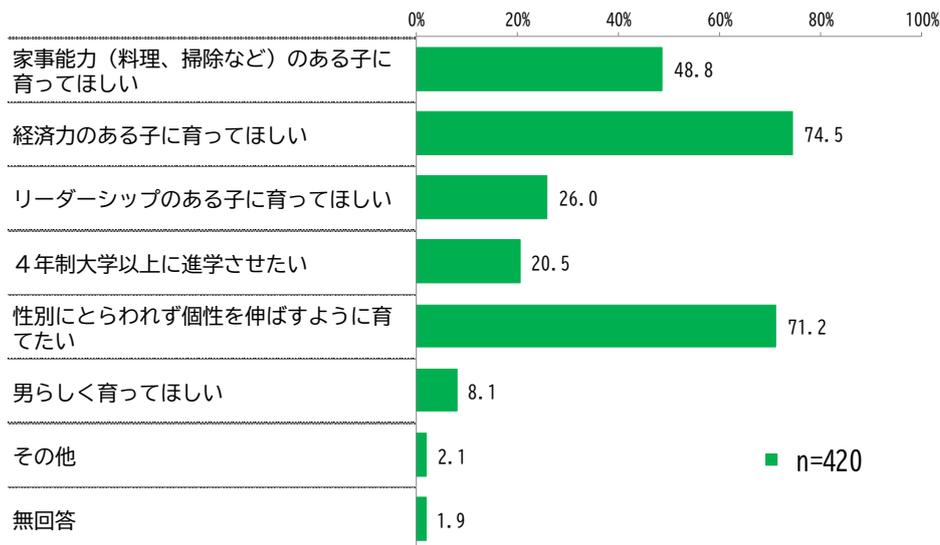
- ▶ 家庭における男の子の育て方について、「経済力のある子に育てほしい」が 72.1%と最も多く、次いで「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が 61.8%、「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」が 42.1%となっています。

<全体>



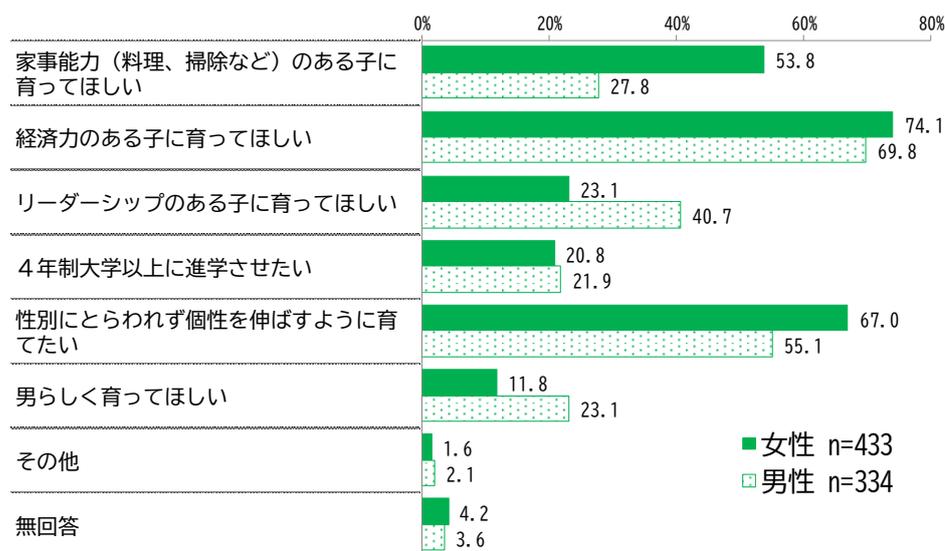
- ▶ 問 27 で「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した方に限定してみると、「経済力のある子に育てほしい」が 74.5%と最も多く、次いで「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が 71.2%、「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」が 48.8%となっています。

<問 27 で「1」と回答した人>



- ▶ 性別でみると、「経済力のある子に育てほしい」「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が男女ともに上位2項目となっています。また、女性では「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が、男性より 10 ポイント以上高くなっているのに対し、「リーダーシップのある子に育てほしい」「男らしく育てほしい」は男性が女性を 10 ポイント以上上回っています。

<性別>



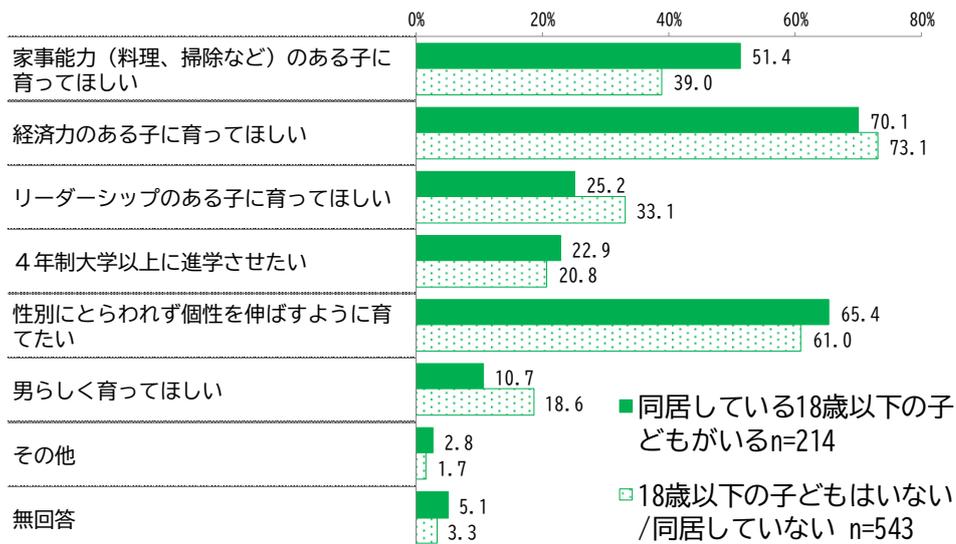
- ▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「経済力のある子に育てほしい」「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」が上位2項目としてあげられています。

<年代別>

	全体	家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい	経済力のある子に育てほしい	リーダーシップのある子に育てほしい	4年制大学以上に進学させたい	性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい	男らしく育てほしい	その他	無回答	
全体	781	42.1	72.1	30.6	21.4	61.8	16.6	1.9	4.0	
年代	20代以下	54	46.3	59.3	24.1	25.9	57.4	9.3	5.6	3.7
	30代	82	54.9	70.7	24.4	31.7	62.2	13.4	0.0	3.7
	40代	138	53.6	73.2	23.9	18.1	65.2	10.1	5.1	4.3
	50代	141	44.7	77.3	31.9	16.3	62.4	17.7	1.4	2.1
	60代	133	46.6	75.2	30.1	16.5	67.7	9.8	0.0	4.5
	70代以上	232	25.9	69.8	37.9	24.6	56.9	26.3	1.3	4.7

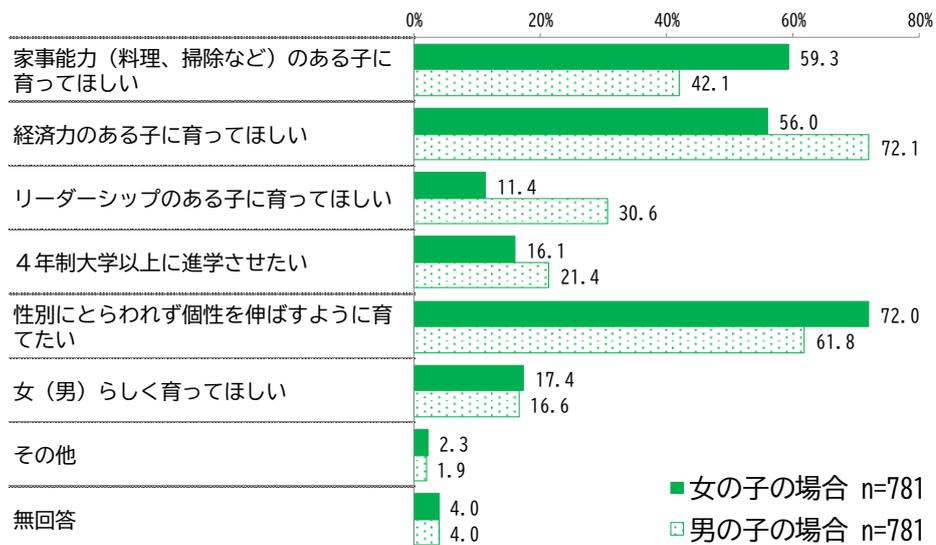
▶ 親世代別でみると、「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」が同居している18歳以下の子どもがいる家庭で51.4%、18歳以下の子どもはいない/同居していない家庭で39.0%と、18歳以下の子どもがいる家庭が12.4ポイント上回っています。一方で、「リーダーシップのある子に育てほしい」「男らしく育てほしい」は、18歳以下の子どもはいない/同居していない家庭が、同居している18歳以下の子どもがいる家庭を7.9ポイント上回っています。

<親世代別>



▶ 女の子、男の子それぞれの育て方でみると、女の子の場合は「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てたい」「家事能力(料理、掃除など)のある子に育てほしい」が男の子に比べて10ポイント以上上回っています。一方で、男の子の場合は「経済力のある子に育てほしい」「リーダーシップのある子に育てほしい」が女の子に比べて10ポイント以上上回っています。

<女の子、男の子別>

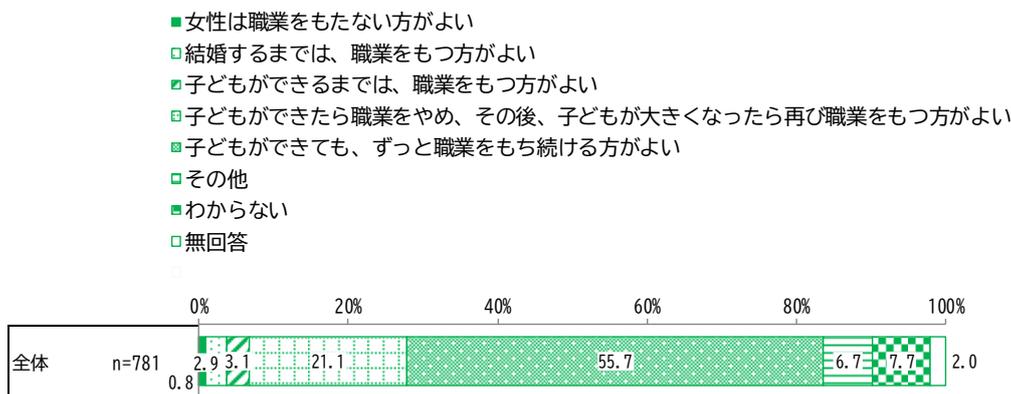


問 29 女性が職業をもつことについて、どう思いますか。(〇は1つ)

➤ 女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が55.7%と最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が21.1%となっています。

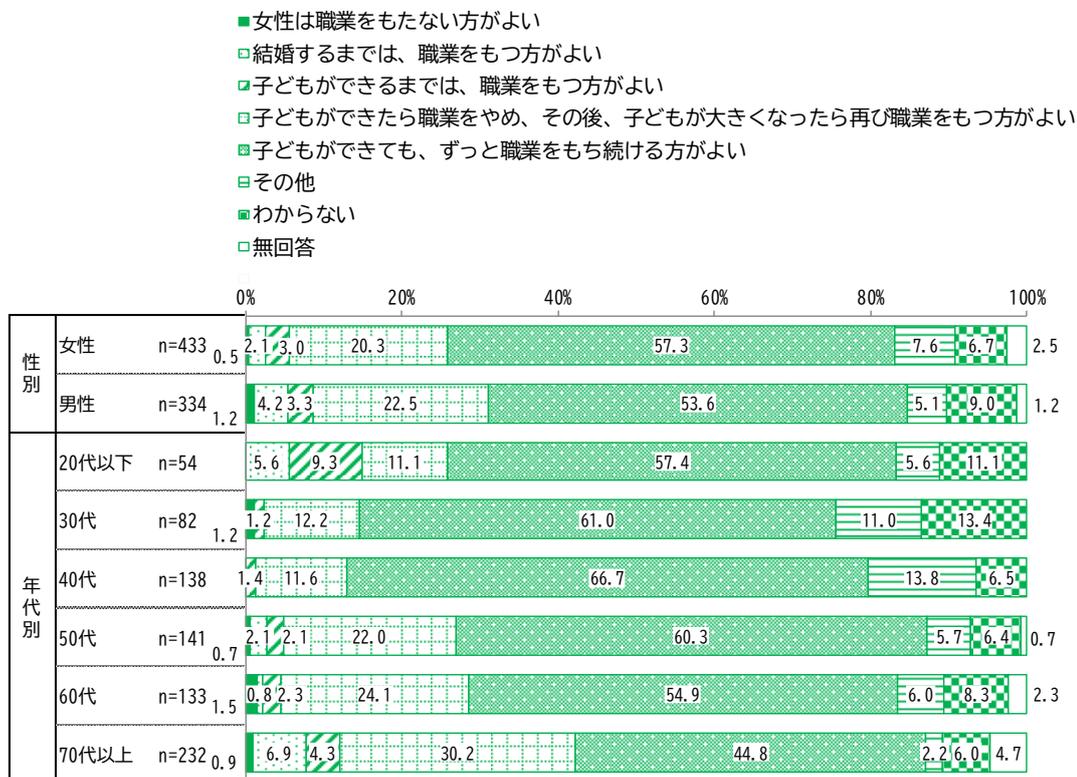
<全体>

図表 38 女性が職業をもつことについて



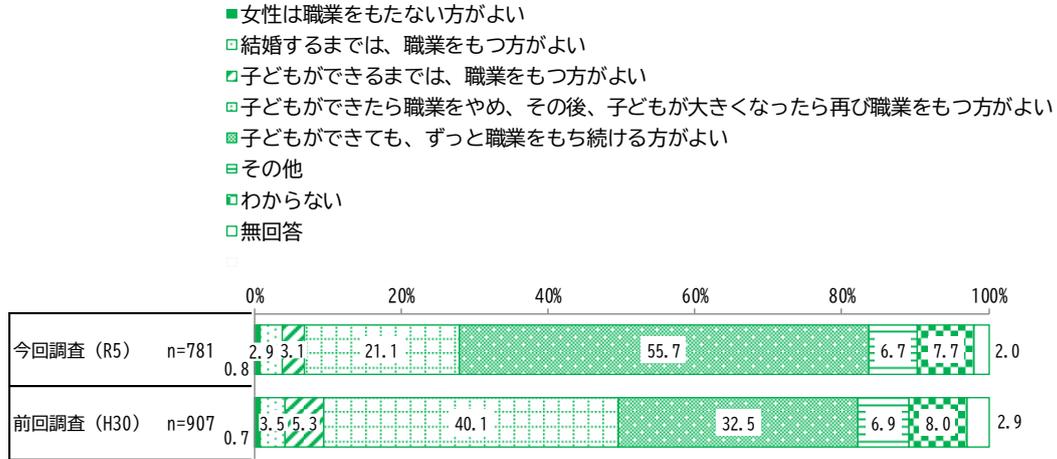
➤ 性別で見ると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が男女ともに最も高くなっています。
 ➤ 年代別で見ると、いずれの年代においても「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の占める割合が最も高くなっており、特に若い年齢層ではその傾向が強くみられます。

<性・年代別>



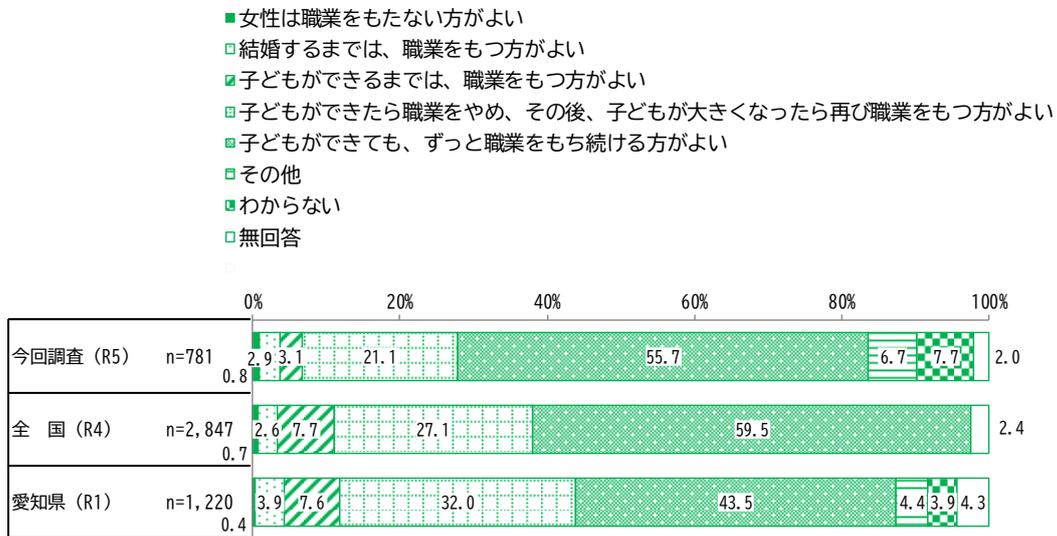
▶ 前回調査と比較してみると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」が 23.2 ポイント増加しているのに対し、「子どもができたなら職業をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は 19.0 ポイント減少しています。

<経年比較>



▶ 全国や県の調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人は、全国に比べて 3.8 ポイント低く、県に比べて 12.2 ポイント高くなっています。

<国・県との比較>



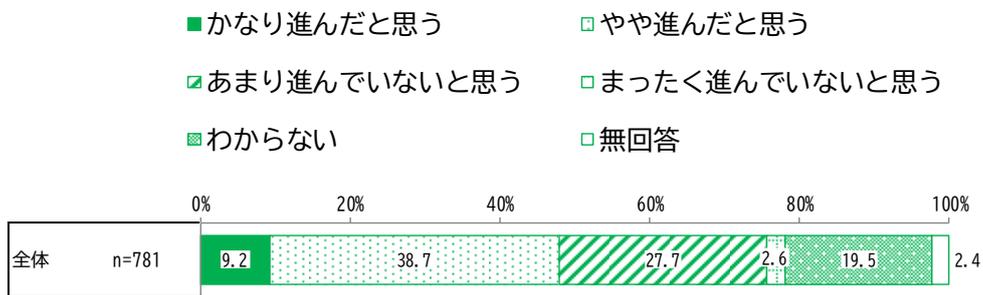
9 男女共同参画全般について

問 30 あなたはこの10年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思いますか。(〇は1つ)

- この10年くらいの間に男女共同参画は進んだと思うかについては、「やや進んだと思う」が38.7%と最も多く、これに「かなり進んだと思う」(9.2%)を合わせた“進んだと感じている人”の割合が47.9%となっています。一方で“進んでいないと感じている人”(「まったく進んでいないと思う」+「あまり進んでいないと思う」)の割合は30.3%となっています。

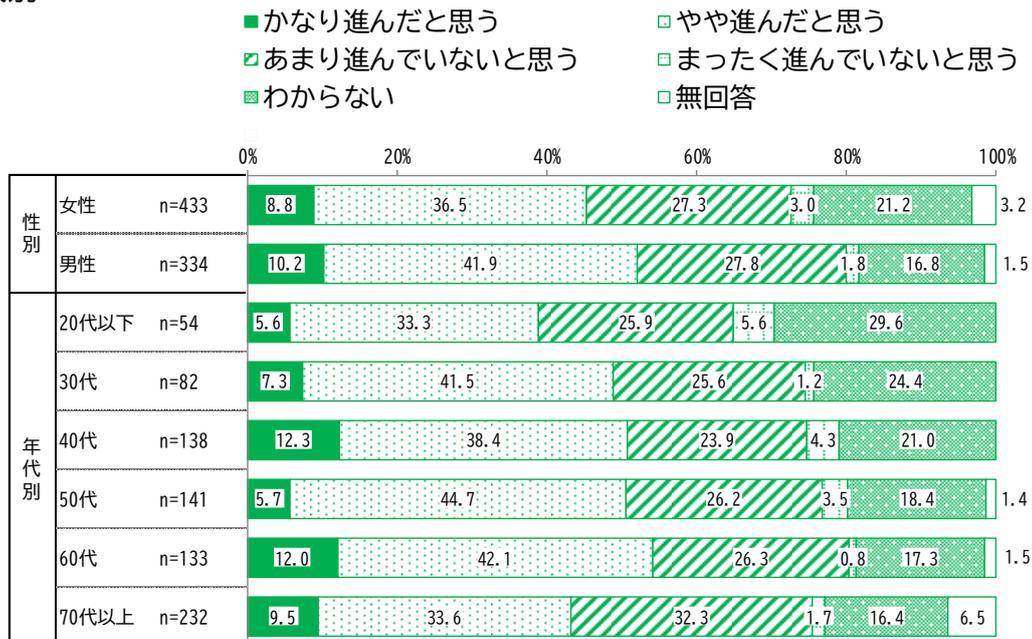
<全体>

図表 39 男女共同参画は進んだと思うか



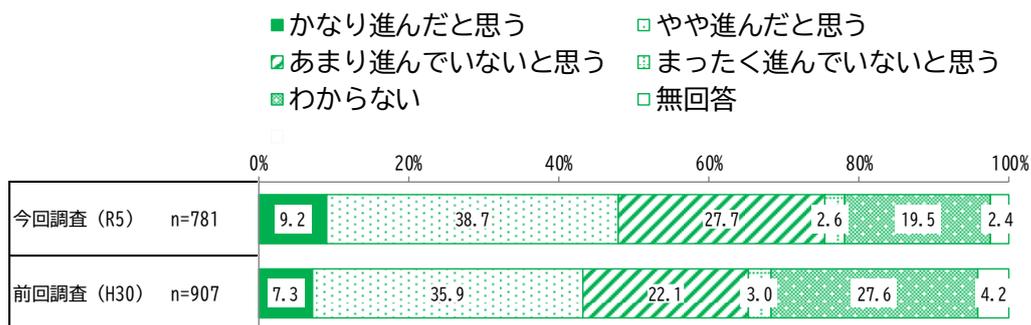
- 性別でみると“進んだと感じている人”の割合は女性で45.3%、男性で52.1%と、男性が6.8ポイント上回っています。
- 年代別でみると、60代までは年代が上がるにつれて“進んだと感じている人”の割合が増加するという傾向がみられます。

<性・年代別>



▶ 前回調査と比較してみると、“進んだと感じている人”の割合は4.7ポイント増加しています。

<経年比較>

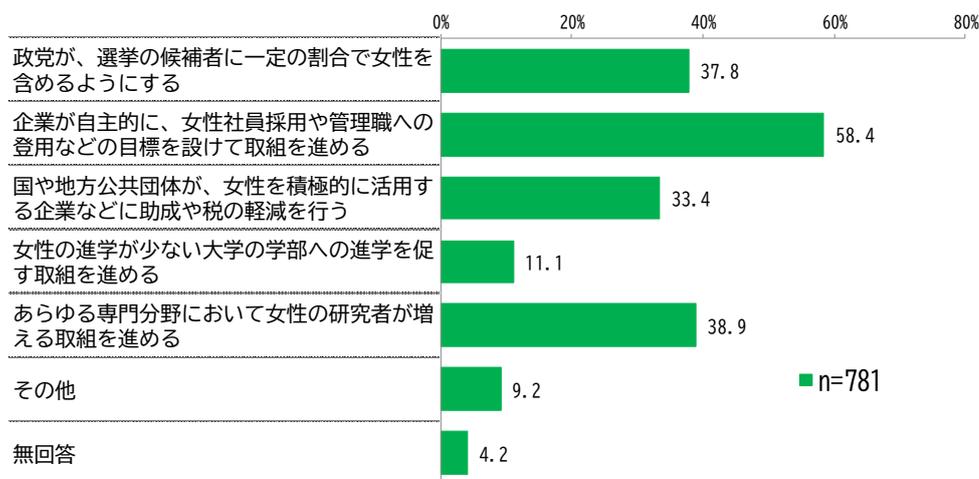


問31 女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ▶ 女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が自主的に、女性社員採用や管理職への登用などの目標を設けて取組を進める」が58.4%で最も多く、次いで「あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める」が38.9%、「政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」が37.8%、「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成や税の軽減を行う」が33.4%となっています。

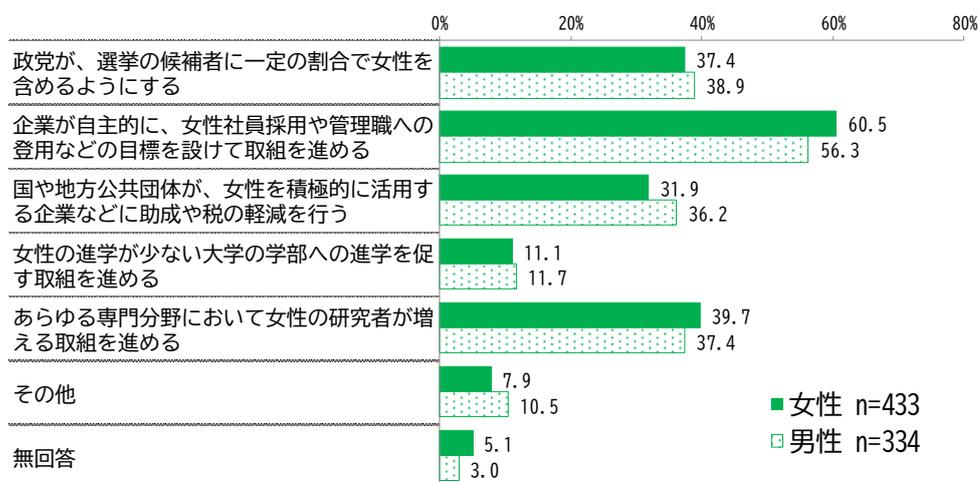
<全体>

図表 40 女性の社会進出を進めていくために必要なこと



- ▶ 性別で見ると、「企業が自主的に、女性社員採用や管理職への登用などの目標を設けて取組を進める」が男女ともに最も高くなっています。

<性別>



▶ 年代別で見ると、いずれの年代においても「企業が自主的に、女性社員採用や管理職への登用などの目標を設けて取組を進める」が最も高くなっています。また、60代以上で「あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める」が、他の年代と比べて高くなっています。

<年代別>

	全 体	政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする	企業が自主的に、女性社員採用や管理職への登用などの目標を設けて取組を進める	国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成や税の軽減を行う	女性の進学が少ない大学の学部への進学を促す取組を進める	あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める	その他	無回答	
全 体	781	37.8	58.4	33.4	11.1	38.9	9.2	4.2	
年 代	20代以下	54	29.6	51.9	29.6	16.7	22.2	13.0	1.9
	30代	82	32.9	46.3	32.9	12.2	35.4	14.6	3.7
	40代	138	37.0	60.9	36.2	10.1	25.4	11.6	2.2
	50代	141	44.7	56.7	36.2	13.5	39.7	11.3	2.1
	60代	133	43.6	62.4	30.8	11.3	45.9	6.0	5.3
	70代以上	232	34.5	61.2	32.8	8.6	47.8	5.6	6.9

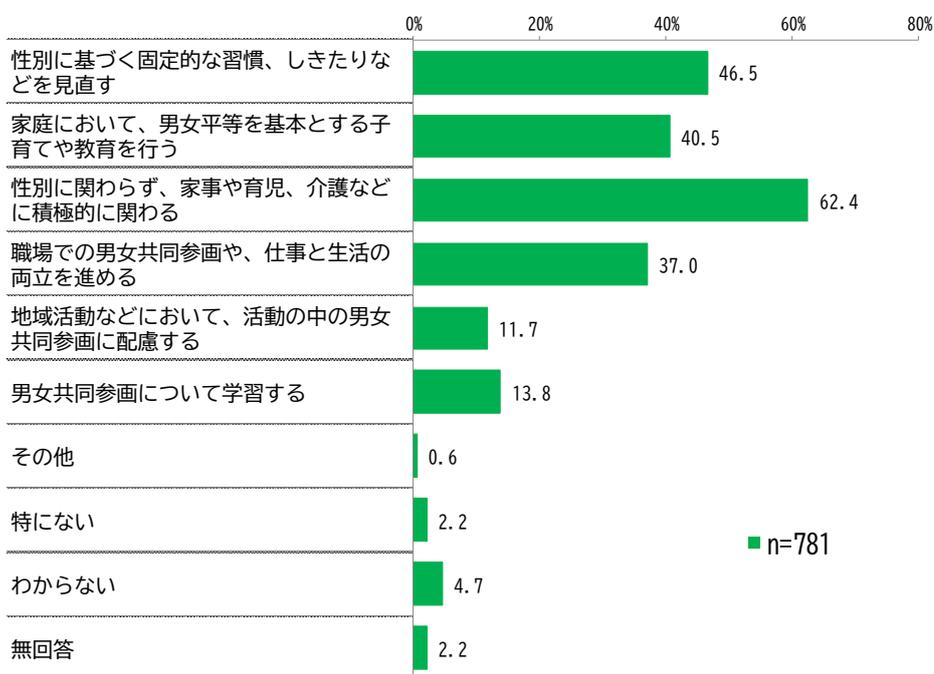
問 32 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。「①市民として」「②行政として」力を入れていくべきだと思うことについて、それぞれお答えください。

【市民として】

- ▶ 男女共同参画社会を実現するために市民として力を入れていくべきことについては、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が 62.4%と最も多く、次いで「性別に基づく固定的な習慣、しきたりなどを見直す」が46.5%、「家庭において、男女平等を基本とする子育てや教育を行う」が40.5%、「職場での男女共同参画や、仕事と生活の両立を進める」が37.0%となっています。

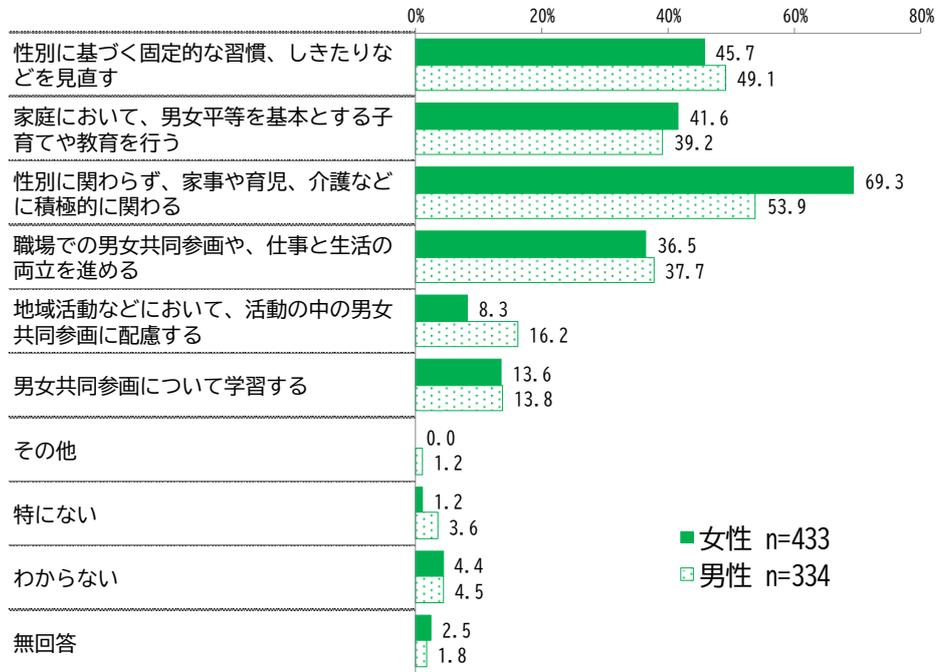
<全体>

図表 41 男女共同参画社会を実現するために、今後力を入れていくべきこと



▶ 性別でみると、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を 15.4 ポイント上回っています。また、「地域活動などにおいて、活動の中の男女共同参画に配慮する」では、男性が女性を 7.9 ポイント上回っています。

<性別>



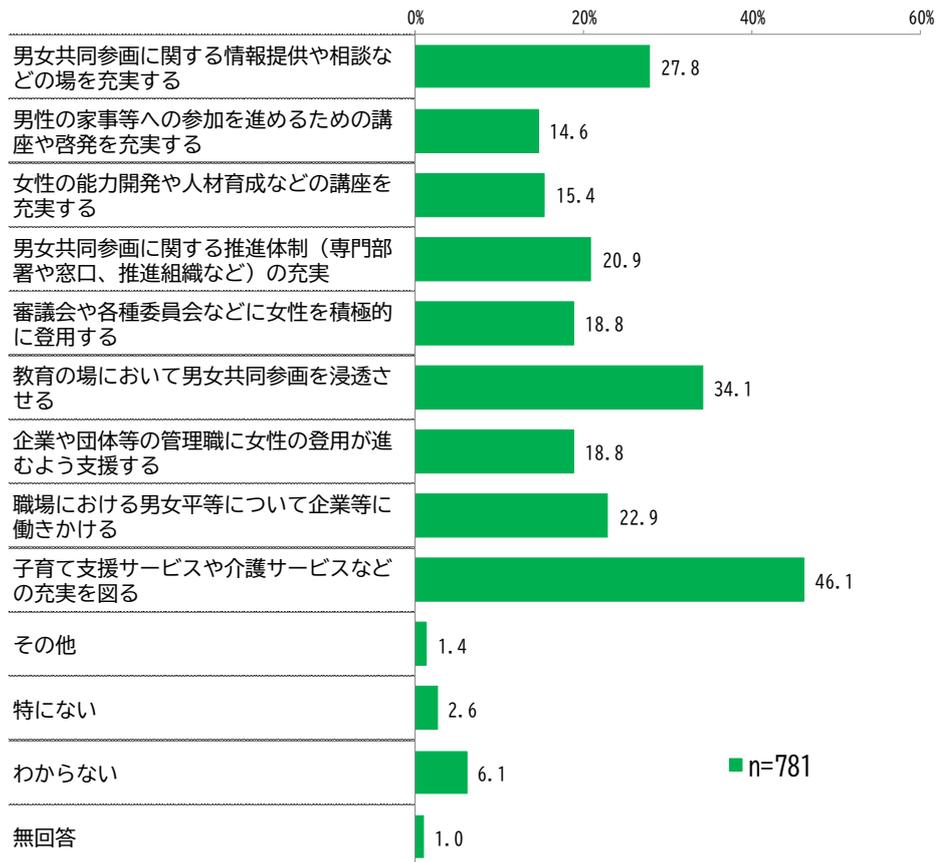
▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が最も高くなっています。次いで、30代以下では「家庭において、男女平等を基本とする子育てや教育を行う」が、40代以上では「性別に基づく固定的な習慣、しきたりなどを見直す」が高くなっています。

<年代別>

	全体	性別に基づく固定的な習慣、しきたりなどを見直す	家庭において、男女平等を基本とする子育てや教育を行う	性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる	職場での男女共同参画や、仕事と生活の両立を進める	地域活動などにおいて、活動の中の男女共同参画に配慮する	男女共同参画について学習する	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	781	46.5	40.5	62.4	37.0	11.7	13.8	0.6	2.2	4.7	2.2	
年代	20代以下	54	38.9	44.4	53.7	35.2	7.4	16.7	0.0	1.9	7.4	1.9
	30代	82	42.7	45.1	68.3	40.2	6.1	17.1	0.0	3.7	6.1	0.0
	40代	138	47.8	44.2	61.6	34.1	6.5	12.3	1.4	2.2	7.2	0.0
	50代	141	48.2	40.4	65.2	39.7	12.1	14.9	0.0	2.1	3.5	0.7
	60代	133	48.9	36.1	69.2	36.8	14.3	11.3	1.5	0.8	2.3	2.3
	70代以上	232	46.6	38.4	57.3	36.2	15.9	13.4	0.4	2.6	4.3	5.2

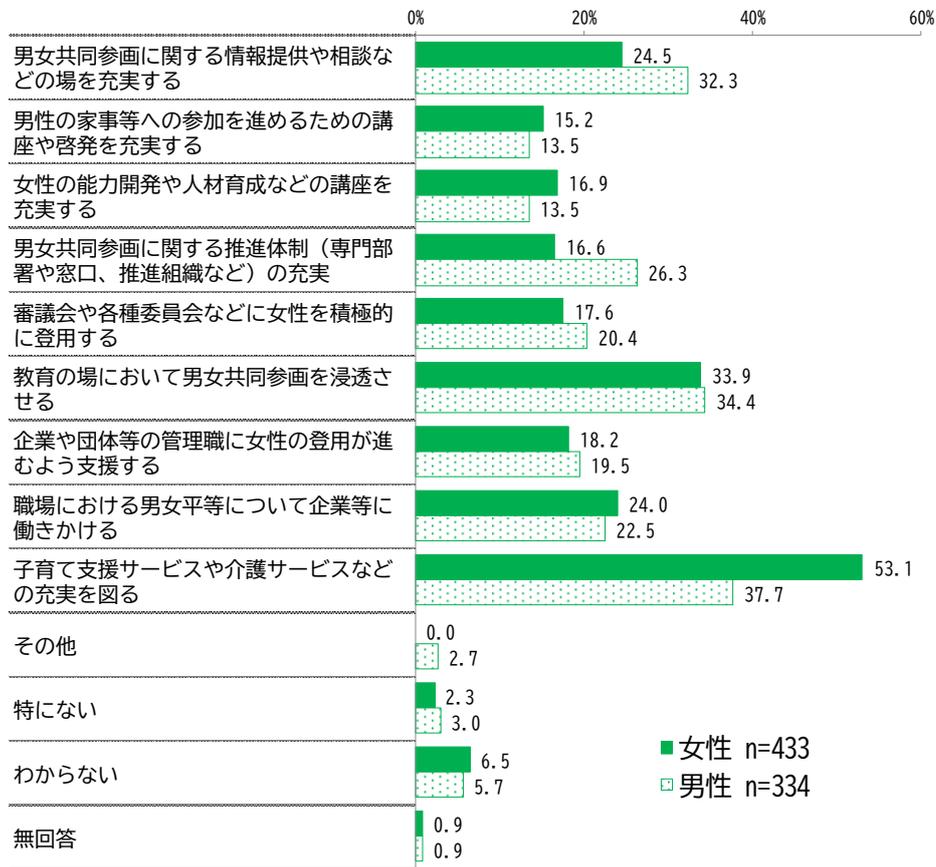
【行政として】

- ▶ 男女共同参画社会を実現するために行政として力を入れていくべきことについては、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が46.1%と最も多く、次いで「教育の場において男女共同参画を浸透させる」が34.1%、「男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する」が27.8%、「職場における男女平等について企業等に働きかける」が22.9%、「男女共同参画に関する推進体制（専門部署や窓口、推進組織など）の充実」が20.9%となっています。



▶ 性別でみると、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を 15.4 ポイント上回っています。また、「男女共同参画に関する推進体制（専門部署や窓口、推進組織など）の充実」「男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する」では、男性が女性を、それぞれ 9.7 ポイント、7.8 ポイント上回っています。

<性別>



▶ 年代別でみると、いずれの年代においても「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が最も高くなっています。次いで、50代以下では「教育の場において男女共同参画を浸透させる」が、60代以上では「男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する」が高くなっています。

<年代別>

	全体	男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する	男性の家事等への参加を進めるための講座や啓発を充実する	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する	男女共同参画に関する推進体制（専門部署や窓口、推進組織など）の充実	審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する	教育の場において男女共同参画を浸透させる	企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	職場における男女平等について企業等に働きかける	子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る	その他	特になし	わからない	無回答	
全体	781	27.8	14.6	15.4	20.9	18.8	34.1	18.8	22.9	46.1	1.4	2.6	6.1	1.0	
年代	20代以下	54	20.4	9.3	9.3	18.5	14.8	35.2	13.0	20.4	44.4	0.0	7.4	11.1	3.7
	30代	82	18.3	18.3	15.9	4.9	17.1	32.9	22.0	24.4	62.2	0.0	2.4	6.1	0.0
	40代	138	18.8	16.7	17.4	15.9	15.9	39.1	18.8	22.5	44.9	2.9	1.4	9.4	0.0
	50代	141	27.7	16.3	12.8	19.9	18.4	36.2	19.9	27.0	46.8	1.4	1.4	7.1	0.0
	60代	133	31.6	9.8	15.0	28.6	27.8	30.8	19.5	21.8	43.6	1.5	3.0	0.8	0.8
70代以上	232	36.2	14.7	17.2	26.3	17.2	31.5	18.1	21.6	42.2	1.3	2.6	5.6	2.2	

IV 小中学生調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次尾張旭市男女共同参画プラン」の策定に伴い、市内の小中学校を対象に家庭や学校における男女の役割分担意識や将来の人生観、日常生活の中で感じている性差別に関することなどを調査し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査対象及び調査方法

区分	小学生	中学生
調査対象	市内小学校の5年生の児童	市内中学校の2年生の生徒
調査票の配布・回収	WEB 回答方式	WEB 回答方式
調査基準日	令和5年10月1日現在	
調査期間	令和5年11月6日(月)～11月27日(月)	

3 調査票の回収状況

区分	小学生	中学生
配布数(A)	286	284
有効回答件数(B)	248	156
有効回答率(B/A)	86.7%	54.9%

4 集計方法

- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略し、凡例のみを表示しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合もあります。
- ・ クロス集計では、分析軸の「その他」「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の合計値と全体の数値が合わない場合があります。

V 小中学生調査結果の概要

1 男女共同参画社会について

(1) 男女の地位の平等感

- 小学生では、いずれの項目も「平等である」と回答した割合が最も高く、中でも「家庭生活」で約6割となっています。
- 中学生調査では、「家庭生活」と「学校生活」で「平等である」、「社会全体」で「男性優遇」が、それぞれ最も高くなっています。
- 市民調査と比較してみると、家庭生活の中や社会全体では、市民に比べて小・中学生では「平等である」と感じている人が多くなっています。また、「男性優遇」と感じている人は、小学生、中学生、市民というように年齢とともに割合も増えていく傾向にあります。学校生活では市民、小・中学生ともに「平等である」と感じている人が5割を超えています。

2 普段の生活について

(1) 家の中の手伝いについて

- 家の中の手伝いについては、小学生・中学生ともにいずれの項目においても“手伝いをしている”(「よくしている」+「時々している」)が5割を超えており、特に「食事のしたく」や「食事の後片づけ」などでは7割を超えています。

(2) 家の中での役割について

- 家の中での役割については、小学生、中学生ともに「そうじ・せんたくなどの家事」「食事のしたく」「日用品の買物」「子どもの身の回りの世話」「子どものしつけ・教育」「家族の介護」「地域活動(町内会の活動)への参加」などは、「母親」が最も多く、「家や車など高額なものの購入」「生活費をかせぐ」などは、「父親」が最も多くなっています。

(3) 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方

- 性別による役割分担については、小学生では「反対」が 29.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が 28.6%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が 57.6%となっています。一方で、“賛成派”(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は 19.7%となっています。
- 性別による役割分担については、中学生では「どちらかといえば反対」が 29.5%と最も多く、次いで「反対」が 25.0%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が 54.5%となっています。一方で、“賛成派”(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は 12.8%となっています。
- 市民調査と比較してみると、市民、小・中学生ともに“反対派”が5割を超えています。一方で、“賛成派”は市民で 25.3%、小学生で 19.7%、中学生で 12.8%となっており、意識にやや差がみられます。

3 仕事・将来について

(1) 将来の進学先について

- 将来どの学校まで行きたいかについては、小学生・中学生ともに「まだ決めていない・わからない」が最も多く、次いで「4年生大学まで」「専門学校(各種学校)まで」となっています。

(2) 将来の働き方について

- 将来の働き方については、小学生・中学生ともに「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が最も多く、次いで「今のところはわからない」「ずっと仕事を続けたい」となっています。

4 性の多様性（性的マイノリティ）について

- 市民調査と比較してみると、LGBT の認知度は小学生では約3割にとどまっているものの、市民、中学生ともに9割を超えています。SOGI、カミングアウト、アウティングなどについても市民、中学生ともに認知度に大きな変化はみられません。その一方で、アライについては市民の認知度が14.8%となっているのに対し、中学生では57.7%となっており、認知度に大きな差がみられます。

5 デートDVについて（※中学生のみ）

- デートDVの認知度については、「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が63.5%と最も多く、次いで「言葉も意味も知っていた」が27.6%、「言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった」が9.0%となっています。

VI 小中学生調査結果

1 あなた自身のことについて

問 1 あなたの性別をお答えください。1つだけ選んでください。

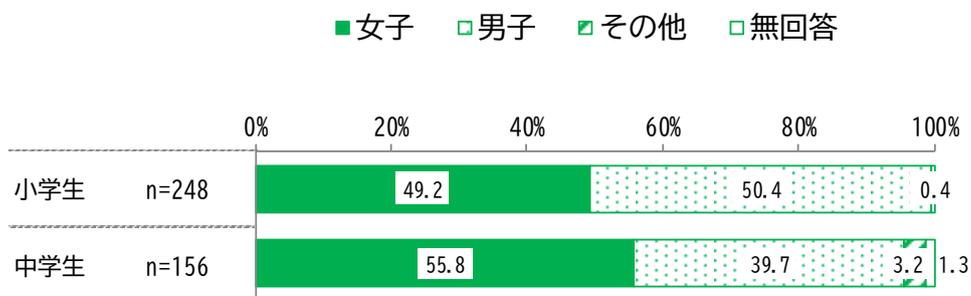
【小学生】

➤ 回答者の性別は、「女子」が49.2%、「男子」が50.4%となっています。

【中学生】

➤ 回答者の性別は、「女子」が55.8%、「男子」が39.7%となっています。

図表 42 性別について



問 2 現在、だれと一緒に住んでいますか。あてはまるものをすべて選んでください。仕事の関係等で、一時的にはなれてくらしている人がいる場合は、その人も選んでください。

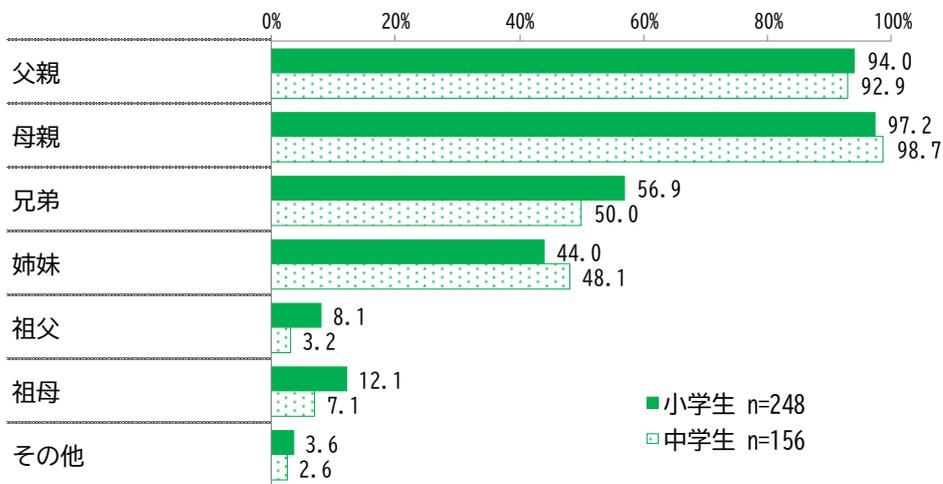
【小学生】

➤ 一緒に住んでいる人は、「母親」が 97.2%と最も多く、次いで「父親」が 94.0%、「兄弟」が 56.9%、「姉妹」が 44.0%となっています。

【中学生】

➤ 一緒に住んでいる人は、「母親」が 98.7%と最も多く、次いで「父親」が 92.9%、「兄弟」が 50.0%、「姉妹」が 48.1%となっています。

図表 43 同居家族について



2 男女共同参画社会について

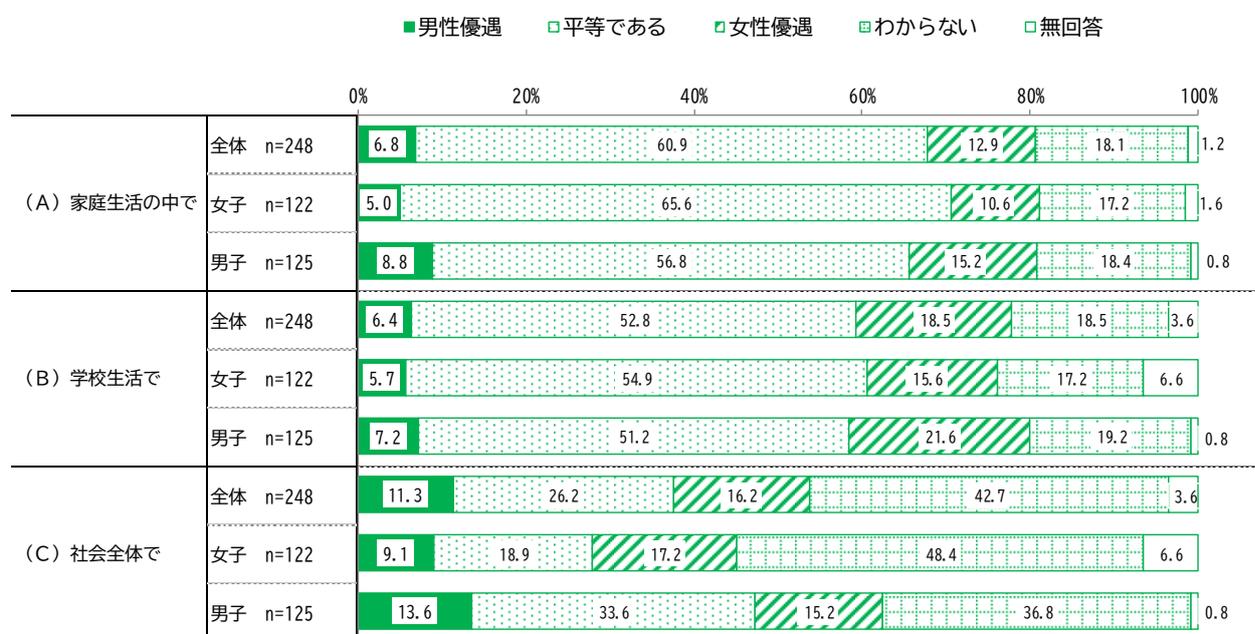
問 3 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。

A～Cについて、それぞれ1つだけ選んでください。

【小学生】

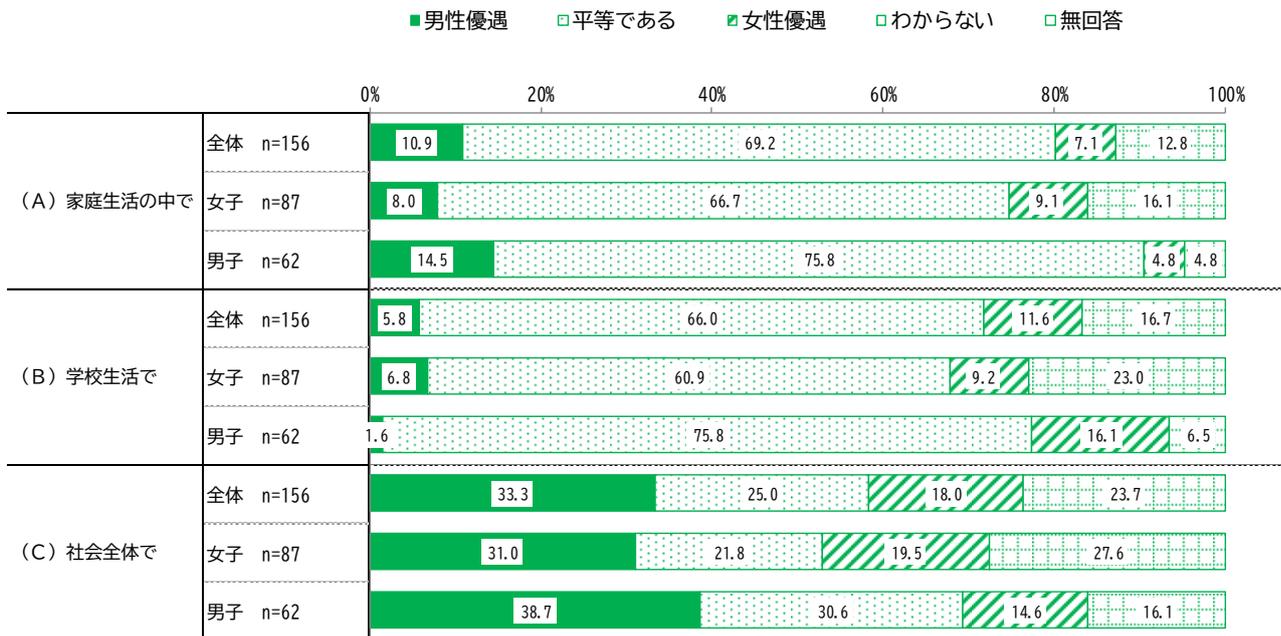
- ▶ 家庭生活の中では、「平等である」が60.9%と最も多く、次いで「わからない」が18.1%となっています。性別で見ると、「平等である」は女子が男子を8.8ポイント上回っています。
- ▶ 学校生活では、「平等である」が52.8%と最も多く、次いで「女性優遇」「わからない」が18.5%となっています。性別で見ると、「平等である」は女子が男子を3.7ポイント上回っています。
- ▶ 社会全体では「わからない」が42.7%と最も多く、次いで「平等である」が26.2%、「女性優遇」が16.2%となっています。性別で見ると、「平等である」は男子が女子を14.7ポイント上回っています。

図表 44 家庭や学校等における男女の平等



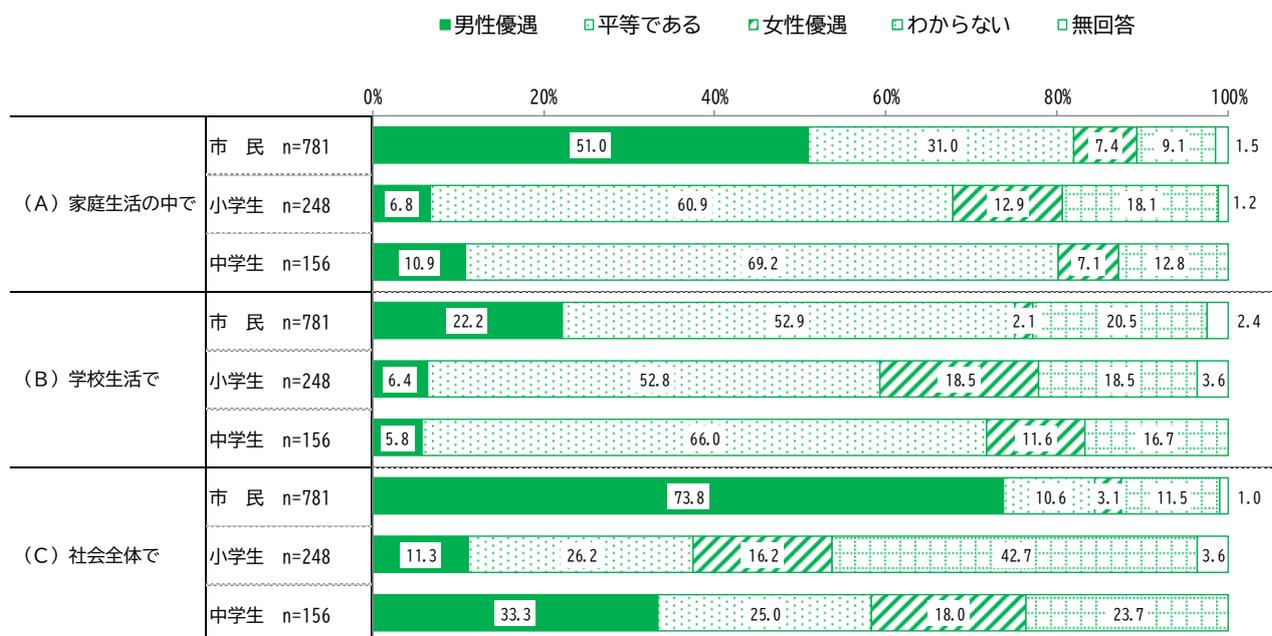
【中学生】

- ▶ 家庭生活の中では、「平等である」が 69.2%と最も多く、次いで「わからない」が 12.8%、「男性優遇」が 10.9%となっています。性別で見ると、「平等である」は男子が女子を 9.1 ポイント上回っています。
- ▶ 学校生活では、「平等である」が 66.0%と最も多く、次いで「わからない」が 16.7%となっています。性別で見ると、「男性優遇」は女子が男子を 5.2 ポイント上回っています。
- ▶ 社会全体では、「男性優遇」が 33.3%と最も多く、次いで「平等である」が 25.0%、「わからない」が 23.7%となっています。性別で見ると、「男性優遇」「平等である」は、男子が女子をそれぞれ 7.7 ポイント、8.8 ポイント上回っています。



▶ 市民調査と比較してみると、家庭生活の中や社会全体では、市民に比べて小・中学生では「平等である」と感じている人が多くなっています。また、「男性優遇」と感じている人は、小学生、中学生、市民というように年齢とともに割合も増えていく傾向にあります。学校生活では市民、小・中学生ともに「平等である」と感じている人が5割を超えています。

<市民調査との比較>



問 4 あなたは、「男の子だから〇〇しなさい」や「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。1つだけ選んでください。

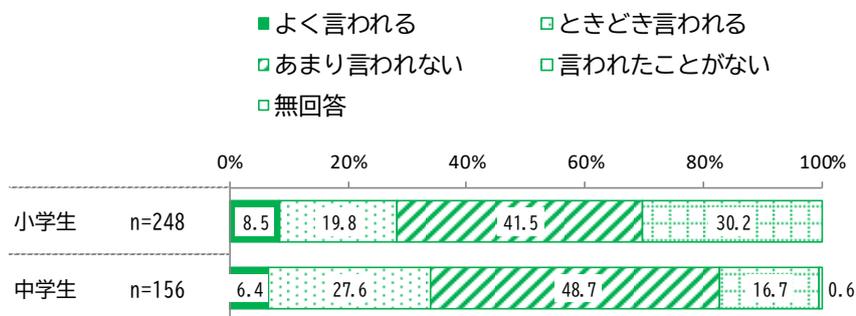
【小学生】

➤ 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験については、「あまり言われたい」が41.5%と最も多く、次いで「言われたことがない」が30.2%となっています。

【中学生】

➤ 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験については、「あまり言われたい」が48.7%と最も多く、次いで「ときどき言われる」が27.6%、「言われたことがない」が16.7%となっています。

図表 45 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験



問 4-2 その時、どんな気分でしたか。1つだけ選んでください。

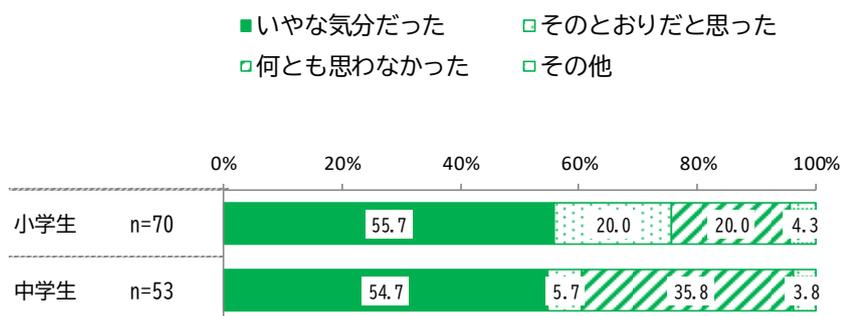
【小学生】

- 言われた時の気分については、「いやな気分だった」が 55.7%と最も多く、次いで「そのとおりだと思った」「何とも思わなかった」が 20.0%となっています。

【中学生】

- 言われた時の気分については、「いやな気分だった」が 54.7%と最も多く、次いで「何とも思わなかった」が 35.8%となっています。

図表 46 言われた時の気持ち



問 4-3 どんなことで言われましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

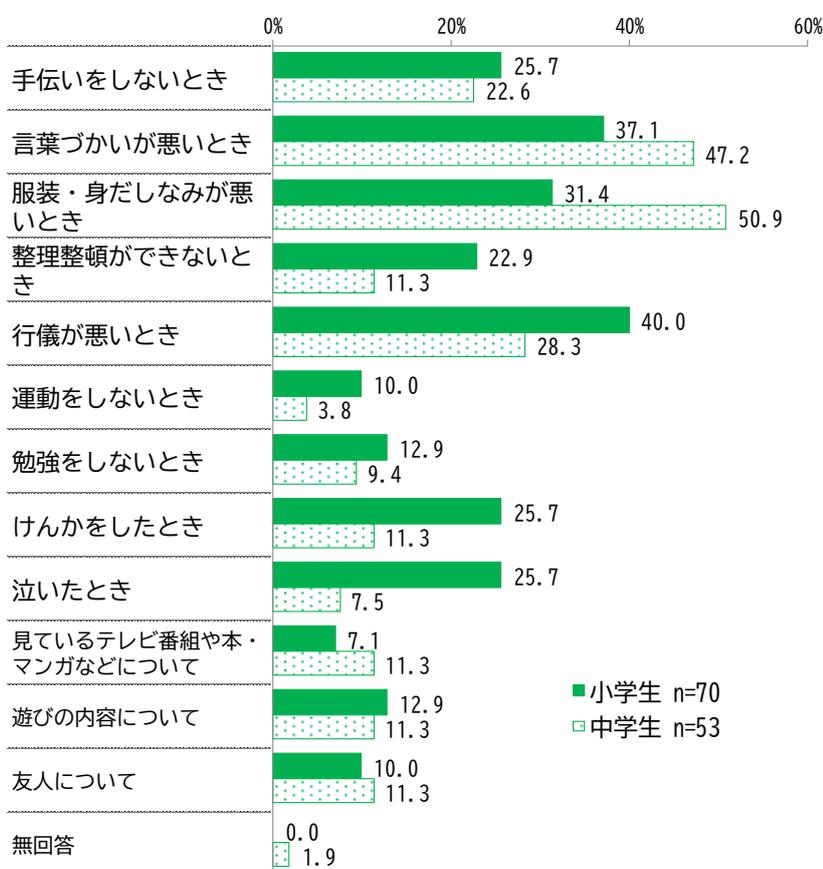
【小学生】

➤ どんなことで言われたかについては、「行儀が悪いとき」が 40.0%と最も多く、次いで「言葉づかいが悪いとき」が 37.1%、「服装・身だしなみが悪いとき」が 31.4%となっています。

【中学生】

➤ どんなことで言われたかについては、「服装・身だしなみが悪いとき」が 50.9%と最も多く、次いで「言葉づかいが悪いとき」が 47.2%、「行儀が悪いとき」が 28.3%、「手伝いをしないとき」が 22.6%となっています。

図表 47 言われた原因



問 4-4 あなたは、だれにそれを言われましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

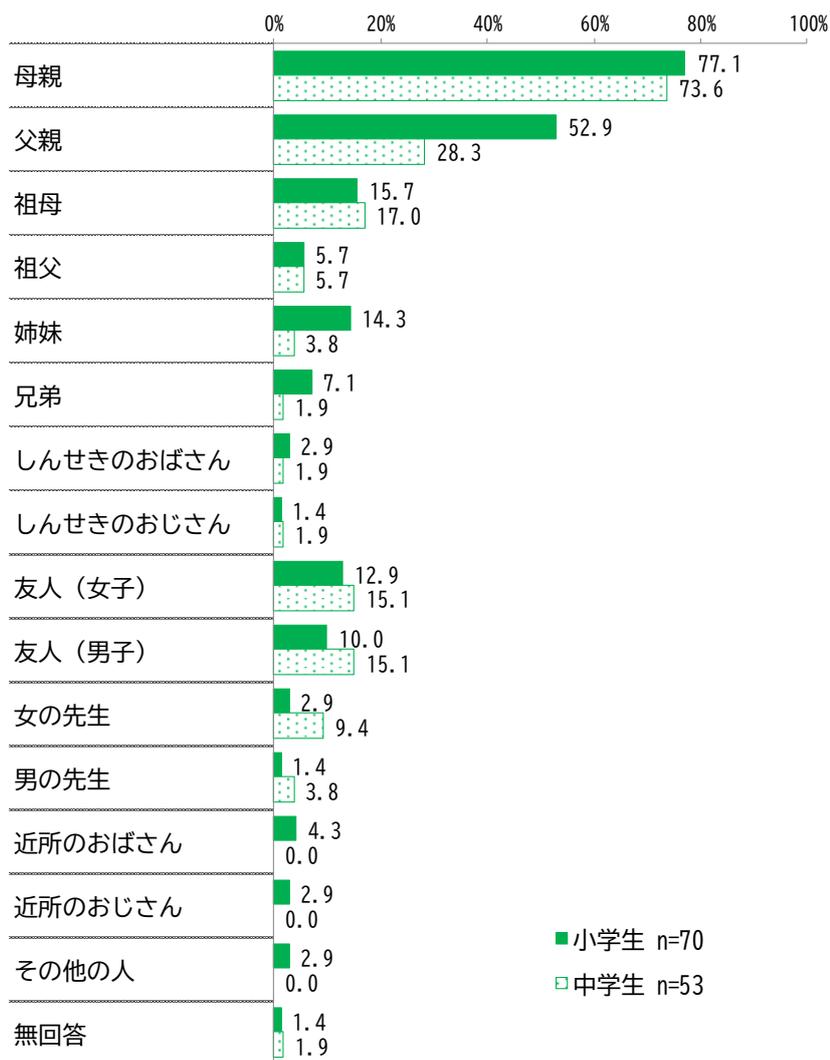
【小学生】

➤ それを言った人については、「母親」が77.1%と最も多く、次いで「父親」が52.9%となっています。

【中学生】

➤ それを言った人については、「母親」が73.6%と最も多く、次いで「父親」が28.3%となっています。

図表 48 言った人

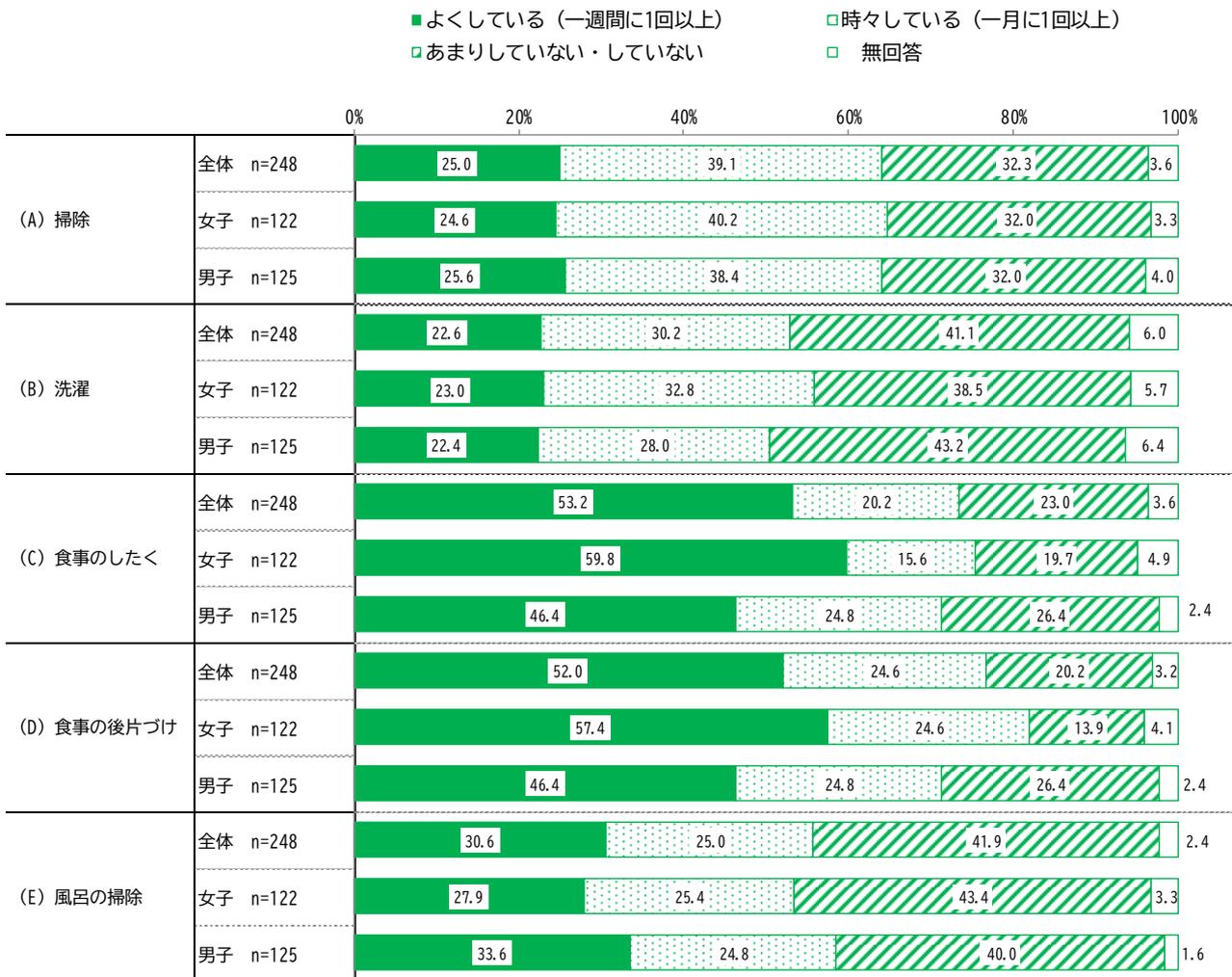


問 5 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。A～Eについて、それぞれ1つだけ選んでください。

【小学生】

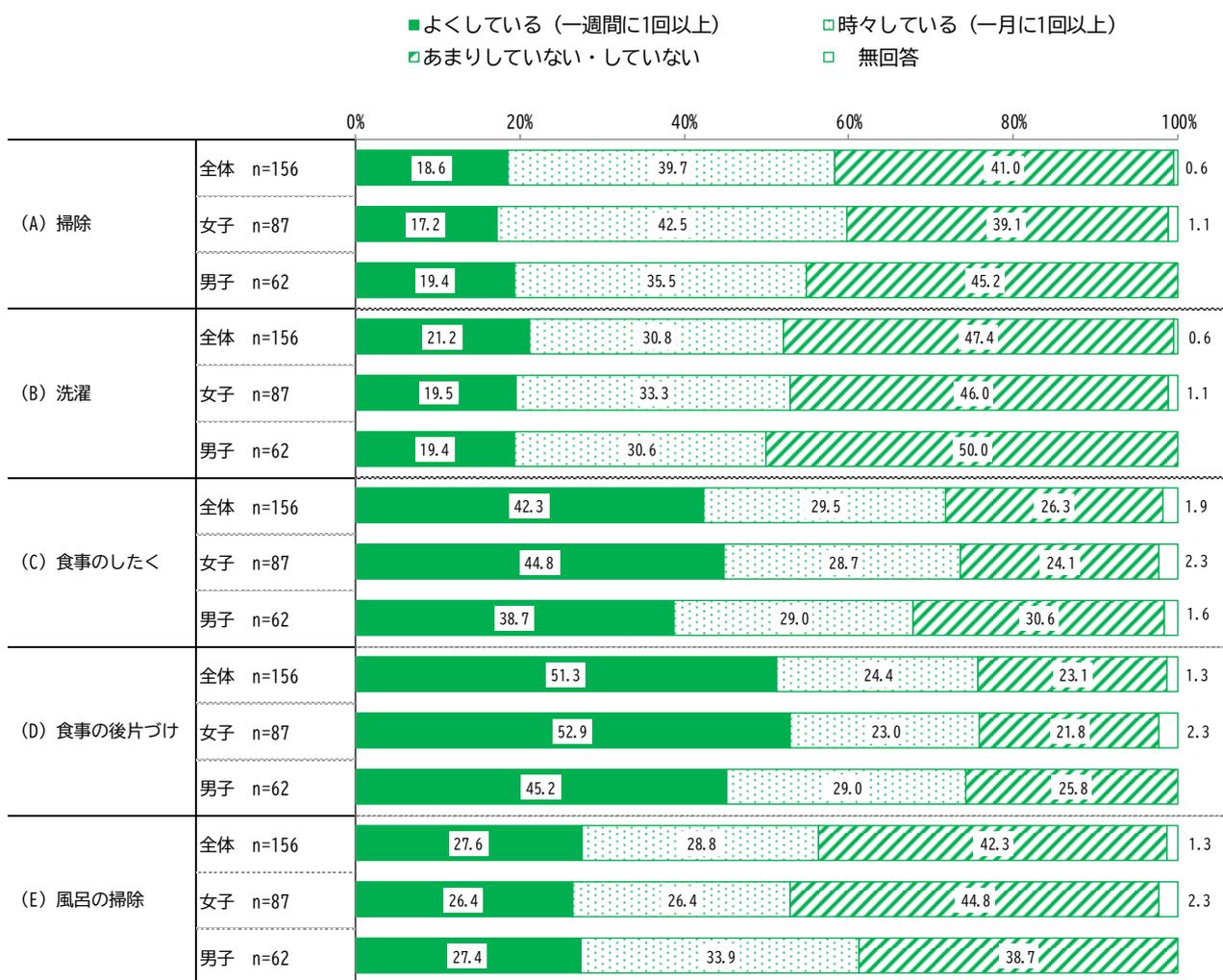
- ▶ 家の中の手伝いについては、いずれの項目においても“手伝いをしている”(「よくしている」+「時々している」)が5割を超えており、特に「(C)食事のしたく」や「(D)食事の後片づけ」では7割を超えています。
- ▶ 性別でみると、「(D)食事の後片づけ」では、女子が男子を10.8ポイント上回っています。

図表 49 家庭内の手伝い



【中学生】

- ▶ 家の中の手伝いについては、いずれの項目で“手伝いをしている”(「よくしている」+「時々している」)が5割を超えており、特に「食事のしたく」や「食事の後片づけ」では7割を超えています。
- ▶ 性別で見ると、「(C)食事のしたく」では、女子が男子を 5.8 ポイント上回っているのに対し、「(E)風呂の掃除」では、男子が女子を 8.5 ポイント上回っています。



問 6 あなたは家の中で、次のようなことはだれがおこなうのがいいと思いますか。

A～Iについて、それぞれあてはまるものをすべて選んでください。

【小学生】

▶ 家の中での役割については、「A そうじ・せんたくなどの家事」「B 食事のしたく」「C 日用品の買物」「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「G 家族の介護」「H 地域活動(町内会の活動)への参加」は、「母親」が最も多く、「D 家や車など高額なものの購入」「I 生活費をかせぐ」は、「父親」が最も多くなっています。

【中学生】

▶ 家の中での役割については、「A そうじ・せんたくなどの家事」「B 食事のしたく」「C 日用品の買物」「E 子どもの身の回りの世話」「F 子どものしつけ・教育」「G 家族の介護」「H 地域活動(町内会の活動)への参加」は、「母親」が最も多く、「D 家や車など高額なものの購入」「I 生活費をかせぐ」は、「父親」が最も多くなっています。

図表 50 家の中での役割



問 7 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。
 1つだけ選んでください。

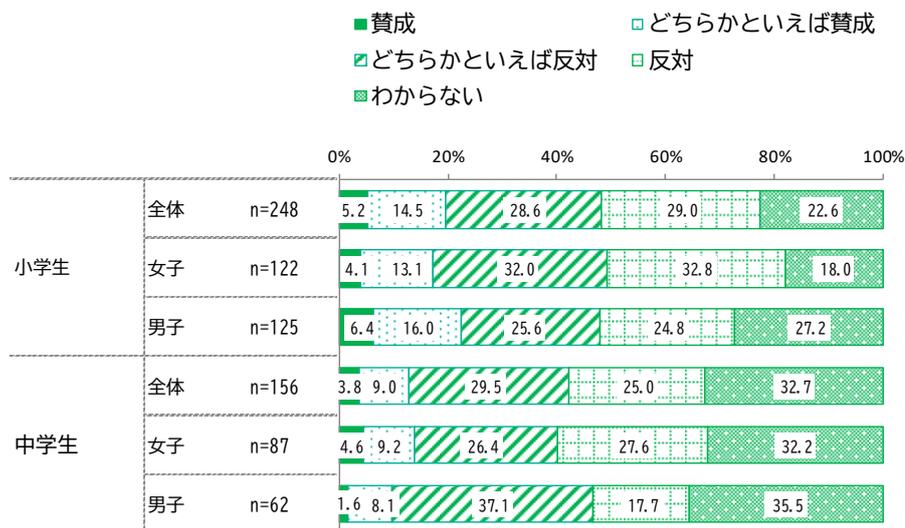
【小学生】

- ▶ 性別による役割分担については、「反対」が 29.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が 28.6%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が 57.6%となっています。一方で、“賛成派”（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）は 19.7%となっています。
- ▶ 性別でみると、“反対派”は女子が男子を 14.4 ポイント上回っています。

【中学生】

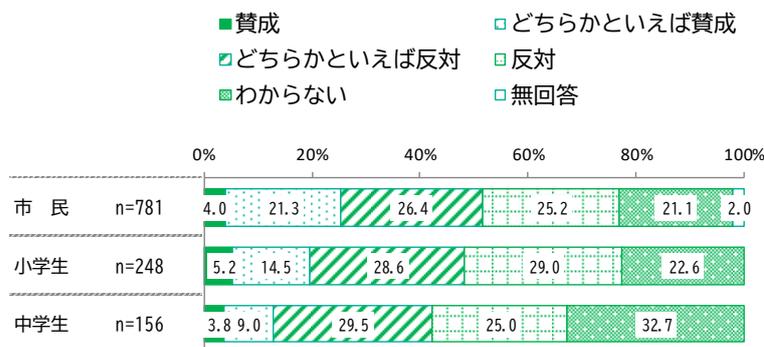
- ▶ 性別による役割分担については、「どちらかといえば反対」が 29.5%と最も多く、次いで「反対」が 25.0%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が 54.5%となっています。一方で、“賛成派”（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）は 12.8%となっています。
- ▶ 性別でみると、特に大きな違いはみられません。

図表 51 性別による役割分担について



- ▶ 市民調査と比較してみると、市民、小・中学生ともに“反対派”が5割を超えています。一方で、“賛成派”は市民で 25.3%、小学生で 19.7%、中学生で 12.8%となっており、意識にやや差がみられます。

<市民調査との比較>



問 8 あなたは、次のことについてどう思いますか。

A～Dについて、それぞれ1つだけ選んでください。

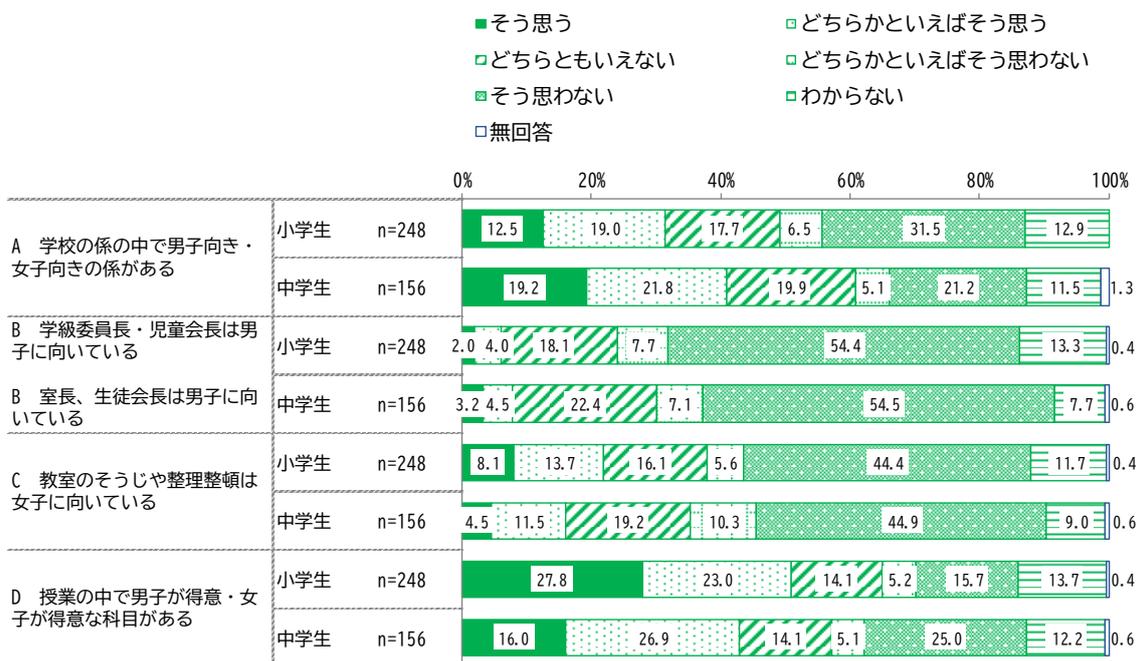
【小学生】

- 学校の係の中で男子向き・女子向きの係の有無については、「そう思わない」が 31.5%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 19.0%、「どちらともいえない」が 17.7%となっています。
- 学級委員長、児童会長は男子に向いているについては、「そう思わない」が 54.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 18.1%、「わからない」が 13.3%となっています。
- 教室のそうじや整理整頓は女子に向いているについては、「そう思わない」が 44.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 16.1%、「どちらかといえばそう思う」が 13.7%となっています。
- 授業の中で男子が得意、女子が得意な科目の有無については、「そう思う」が 27.8%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 23.0%、「そう思わない」が 15.7%となっています。

【中学生】

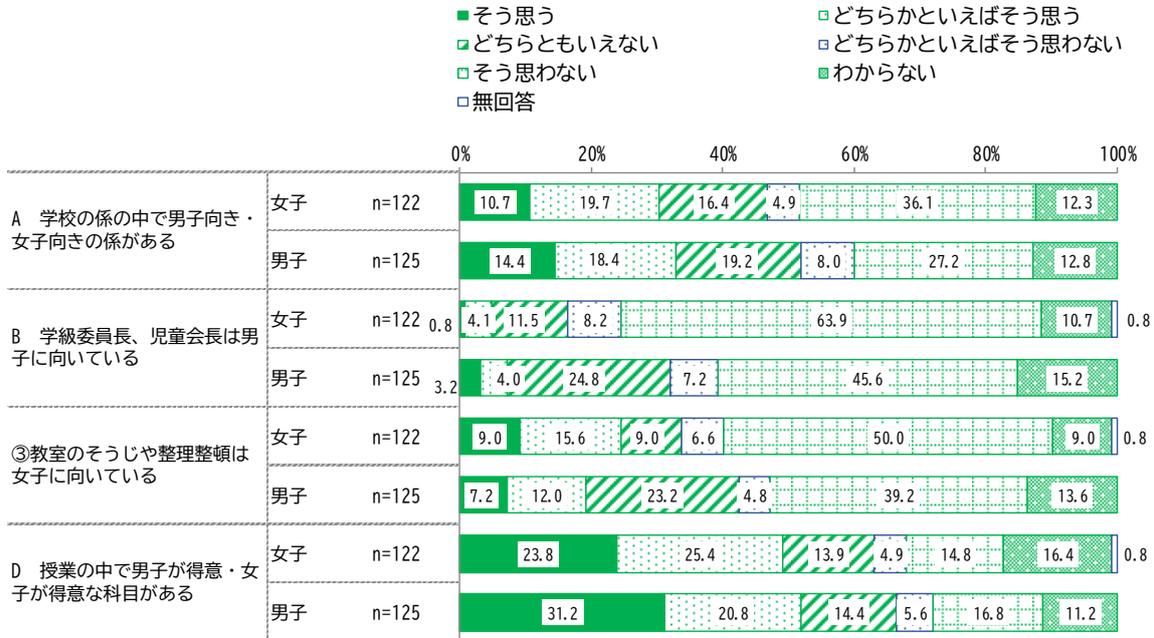
- 学校の係の中で男子向き・女子向きの係の有無については、「どちらかといえばそう思う」が 21.8%と最も多く、次いで「そう思わない」が 21.2%、「どちらともいえない」が 19.9%、「そう思う」が 19.2%となっています。
- 室長、生徒会長は男子に向いているについては、「そう思わない」が 54.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 22.4%となっています。
- 教室のそうじや整理整頓は女子に向いているについては、「そう思わない」が 44.9%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 19.2%、「どちらかといえばそう思う」が 11.5%、「どちらかといえばそう思わない」が 10.3%となっています。
- 授業の中で男子が得意、女子が得意な科目の有無については、「どちらかといえばそう思う」が 26.9%と最も多く、次いで「そう思わない」が 25.0%、「そう思う」が 16.0%、「どちらともいえない」が 14.1%となっています。

図表 52 学校における男女の平等について



▶ 教室のそうじや整理整頓は女子に向いているについては、“そう思うと感じている人(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合が、女子で 24.6%、男子で 19.2%と、女子が 5.4 ポイント上回っています。

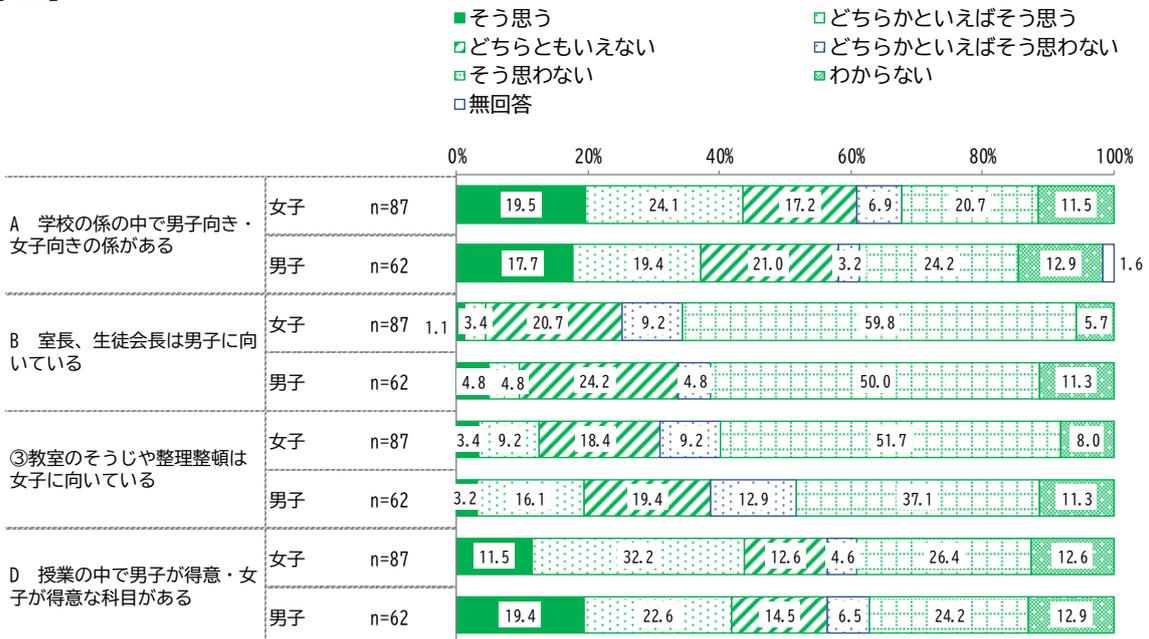
【小学生】



▶ 学校の係の中で男子向き・女子向きの係があるについては、“そう思うと感じている人の割合が、女子で 43.6%、男子で 37.1%と、女子が 6.5 ポイント上回っています。

▶ 教室のそうじや整理整頓は女子に向いているについては、“そう思うと感じている人(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合が、女子で 12.6%、男子で 19.3%と、男子が 6.7 ポイント上回っています。

【中学生】



問 9 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。1つだけ選んでください。

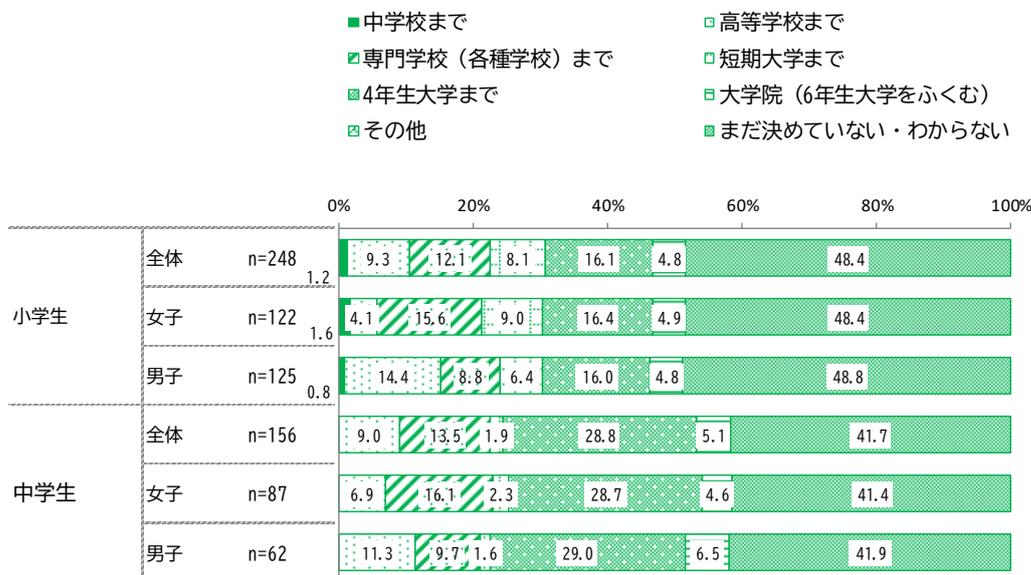
【小学生】

- 将来どの学校まで行きたいかについては、「まだ決めていない・わからない」が 48.4%と最も多く、次いで「4年生大学まで」が 16.1%、「専門学校(各種学校)まで」が 12.1%となっています。
- 性別で見ると、「まだ決めていない・わからない」が男女ともに最も高くなっています。また、「高等学校まで」は男子が女子を 10.3 ポイント上回っています。

【中学生】

- 将来どの学校まで行きたいかについては、「まだ決めていない・わからない」が 41.7%と最も多く、次いで「4年生大学まで」が 28.8%、「専門学校(各種学校)まで」が 13.5%となっています。
- 性別で見ると、「まだ決めていない・わからない」が男女ともに最も高くなっています。また、「専門学校(各種学校)まで」は女子が男子を 6.4 ポイント上回っています。

図表 53 将来の進路



問 10 あなたは、将来どのような働き方をしたいですか。1つだけ選んでください。

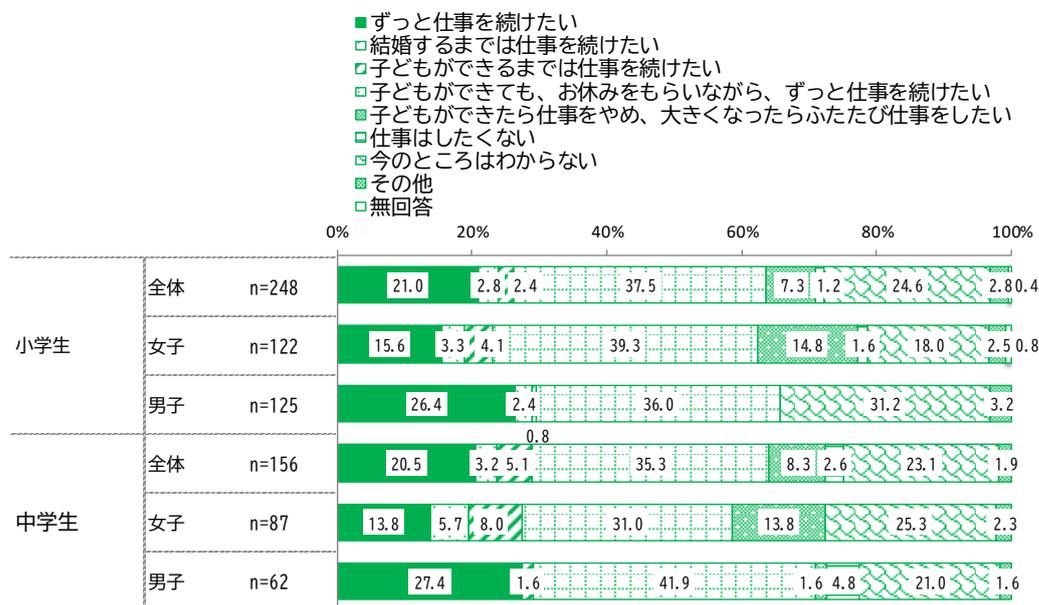
【小学生】

- ▶ 将来の働き方については、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が37.5%と最も多く、次いで「今のところはわからない」が24.6%、「ずっと仕事を続けたい」が21.0%となっています。
- ▶ 性別でみると、「ずっと仕事を続けたい」と回答した人は、男子では26.4%、女子では15.6%となっており、男子が女子を10.8ポイント上回っています。一方で、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事をしたい」と回答した人は、男子ではみられず、女子で14.8%となっています。

【中学生】

- ▶ 将来の働き方については、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が35.3%と最も多く、次いで「今のところはわからない」が23.1%、「ずっと仕事を続けたい」が20.5%となっています。
- ▶ 性別でみると、「ずっと仕事を続けたい」「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」と回答した人は、男子が女子をそれぞれ13.6ポイント、10.9ポイント上回っています。一方で、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事をしたい」と回答した人は、女子が男子を12.2ポイント上回っています。

図表 54 将来の働き方について

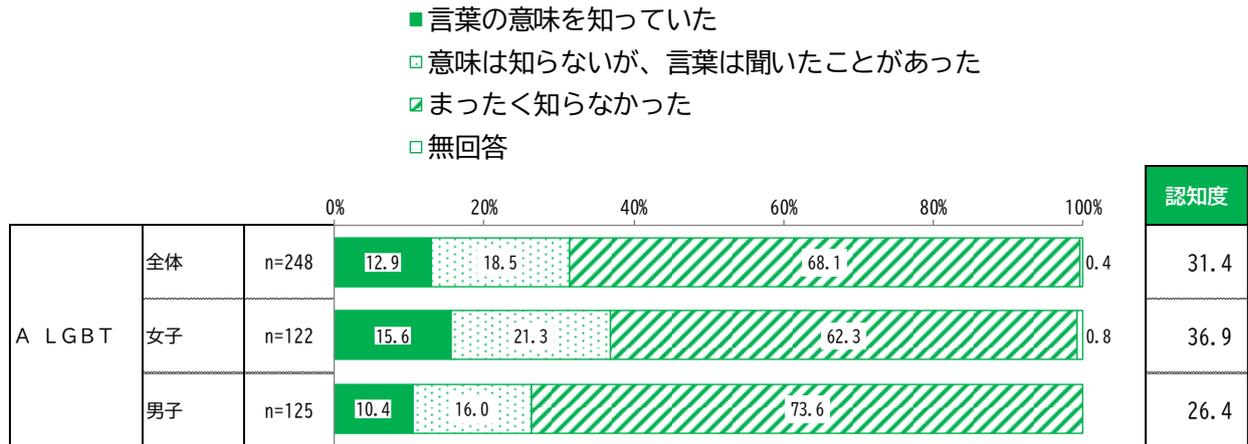


問 11 次の言葉について、あなたが見たり聞いたりしたことはありますか。A～Eについて、それぞれ1つだけ選んでください。

【小学生】

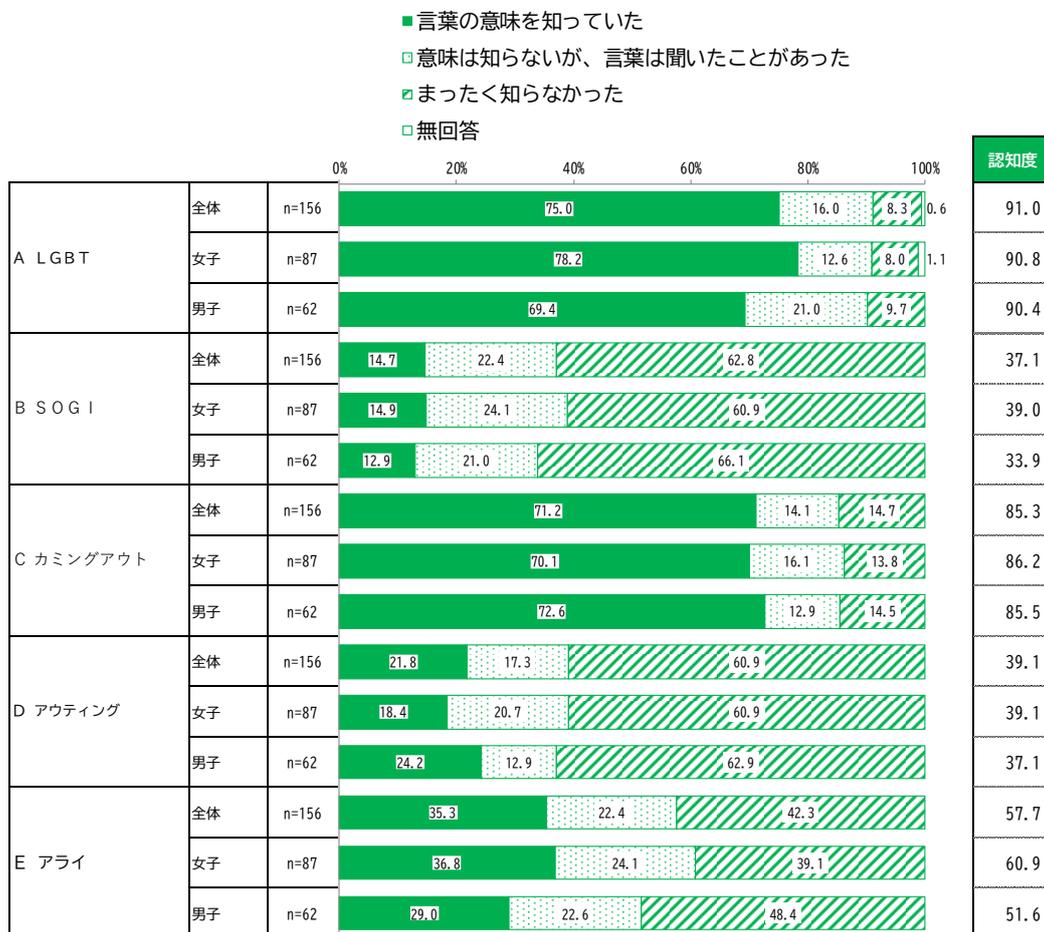
- ▶ LGBT の認知度については、「まったく知らなかった」が 68.1%と最も多く、次いで「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 18.5%、「言葉の意味を知っていた」が 12.9%となっています。
- ▶ 性別でみると、言葉の認知度は女子が男子を 10.5 ポイント上回っています。

図表 55 多様性に関する言葉の認知度



【中学生】

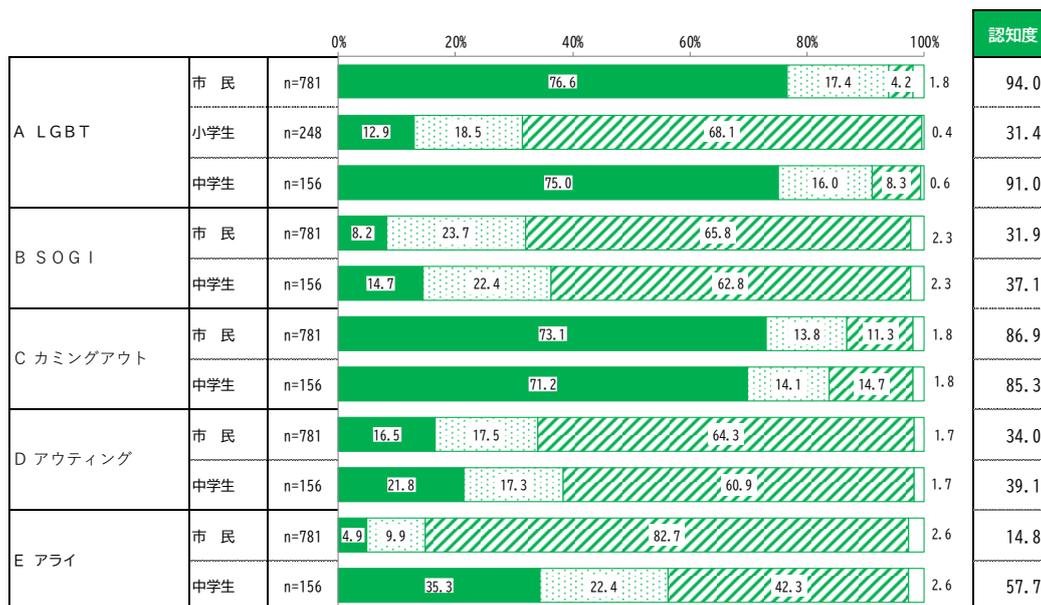
- ▶ LGBT の認知度については、「言葉の意味を知っていた」が 75.0%と最も多く、次いで「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 16.0%、「まったく知らなかった」が 8.3%となっています。
- ▶ SOGI の認知度については、「まったく知らなかった」が 62.8%と最も多く、次いで「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 22.4%、「言葉の意味を知っていた」が 14.7%となっています。また、性別でみると、認知度は女子が男子を 5.1 ポイント上回っています。
- ▶ カミングアウトの認知度については、「言葉の意味を知っていた」が 71.2%と最も多く、次いで「まったく知らなかった」が 14.7%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 14.1%となっています。
- ▶ アウティングの認知度については、「まったく知らなかった」が 60.9%と最も多く、次いで「言葉の意味を知っていた」が 21.8%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 17.3%となっています。
- ▶ アライの認知度については、「まったく知らなかった」が 42.3%と最も多く、次いで「言葉の意味を知っていた」が 35.3%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 22.4%となっています。また、性別でみると、認知度は女子が男子を 9.3 ポイント上回っています。



▶ 市民調査と比較してみると、LGBT の認知度は小学生では約3割にとどまっているものの、市民、中学生ともに9割を超えています。SOGI、カミングアウト、アウティングなどについても市民、中学生ともに認知度に大きな変化はみられません。一方で、アライについては市民の認知度が 14.8%となっているのに対し、中学生では 57.7%となっており、認知度に大きな差がみられます。

<市民調査との比較>

- 言葉の意味を知っていた
- 意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった
- ▨ まったく知らなかった
- 無回答

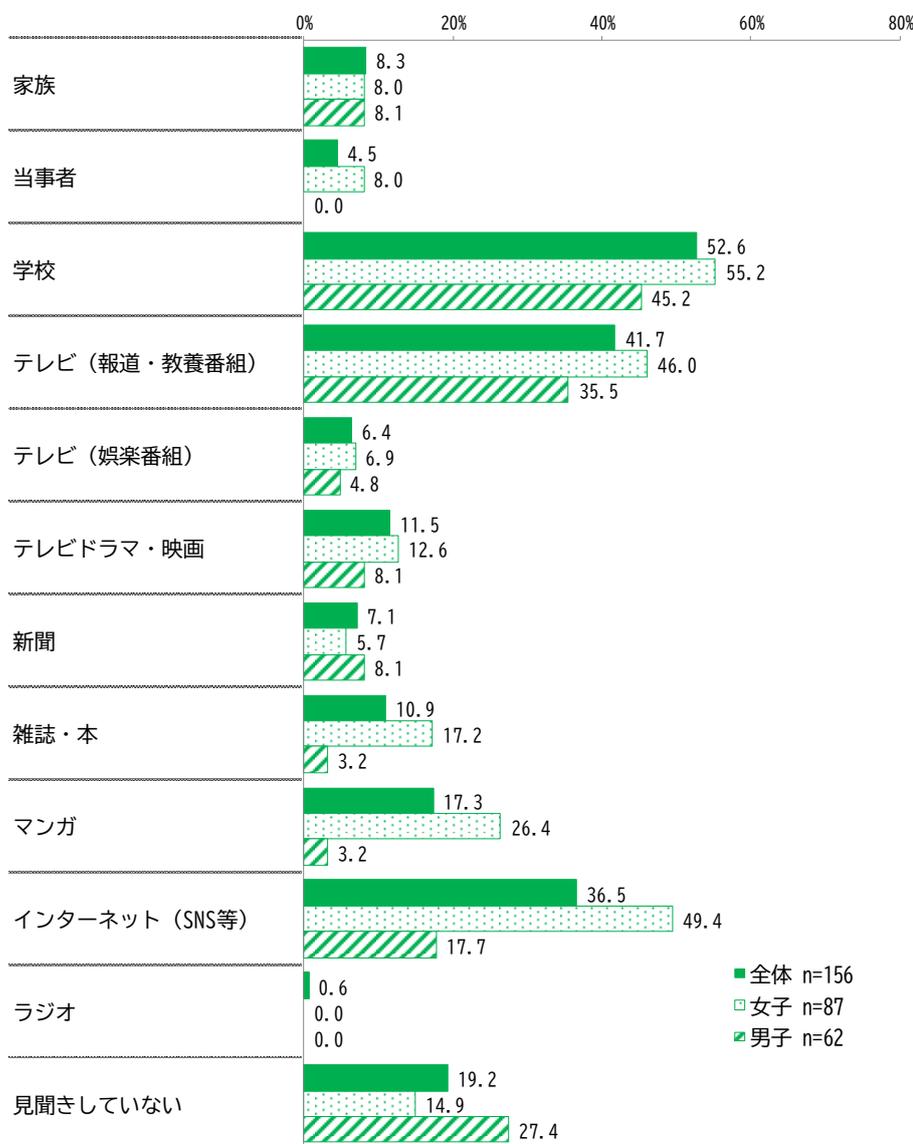


問 12 あなたが最近、性的少数者（LGBT）に関して情報を見聞きしたのはどこですか。あてはまるものすべてを選んでください。

【中学生】

- ▶ 性的少数者(LGBT)に関して見聞きしたところについては、「学校」が 52.6%と最も多く、次いで「テレビ（報道・教養番組）」が 41.7%、「インターネット(SNS 等)」が 36.5%となっています。一方で、「見聞きしていない」が約2割(19.2%)を占めています。
- ▶ 性別では、女子で「インターネット(SNS 等)」が 31.7 ポイント、「マンガ」が 23.2 ポイント、「雑誌・本」が 14.0 ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「見聞きしたものはなし」が 27.4%と、女子より 12.5 ポイント高くなっています。

図表 56 性的少数者（LGBT）に関して見聞きしたところ

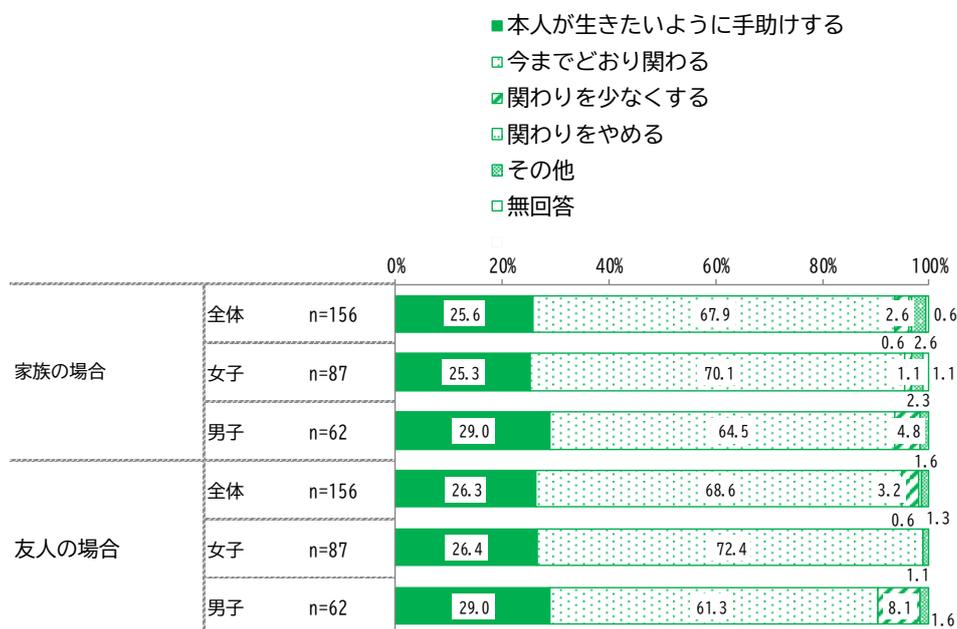


問 13 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBT）であることを打ち明けられたらどうしますか。1つだけ選んでください。

【中学生】

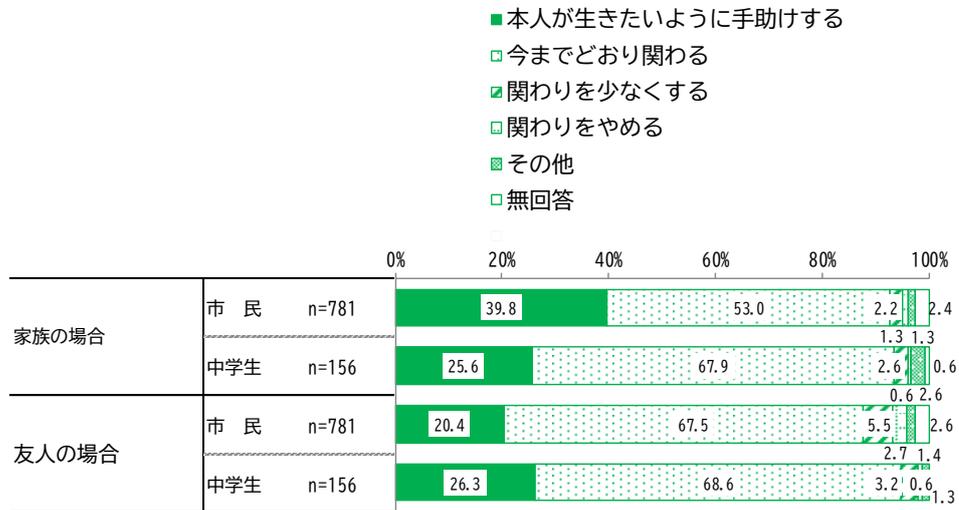
- ▶ 家族から性的少数者であることを打ち明けられたときには、「今までどおり関わる」が 67.9%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が 25.6%となっています。
- ▶ 性別では、女子で「今までどおり関わる」が 70.1%と、男子より 5.6 ポイント高くなっています。
- ▶ 友人から性的少数者であることを打ち明けられたときには、「今までどおり関わる」が 68.6%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が 26.3%となっています。
- ▶ 性別では、女子で「今までどおり関わる」が 72.4%と、男子より 11.1 ポイント高くなっています。

図表 57 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられたときの対応



▶ 市民調査と比較してみると、家族の場合では「本人が生きたいように手助けする」は市民が中学生を14.2ポイント上回っています。また、友人の場合では、中学生が市民を5.9ポイント上回っています。

<市民調査との比較>



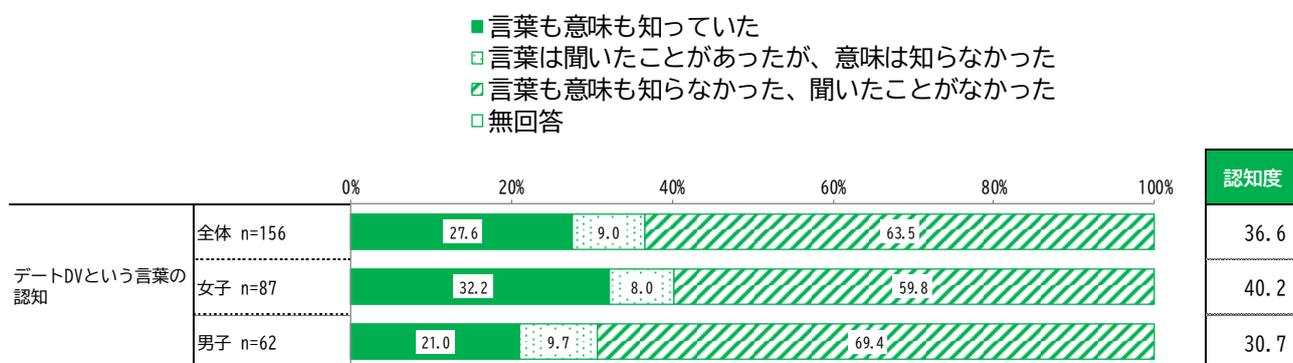
3 デートDVについて（※中学生のみ）

問 14 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていましたか。1つだけ選んでください。

【中学生】

- ▶ デートDVの認知度については、「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が63.5%と最も多く、次いで「言葉も意味も知っていた」が27.6%、「言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった」が9.0%となっています。
- ▶ 性別では、男子で「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が69.4%と、女子より9.6ポイント高くなっています。また、言葉の認知度は女子が男子を9.5ポイント上回っています。

図表 58 デートDVの認知度



Ⅶ 事業者調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次尾張旭市男女共同参画プラン」の策定に伴い、市内事業所における働きやすい職場づくりやワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組状況、課題などを把握するために調査したものです。本市の男女共同参画施策をさらに進めるために実施しました。

2 調査対象及び調査方法

区分	市内事業所意識調査
調査対象	尾張旭市内に本社、支社等がある事業所
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収、WEB 回収
調査基準日	令和6年1月1日現在
調査期間	令和6年1月5日(金)～1月31日(水)

3 調査票の回収状況

区分	市内事業所意識調査
配布数(A)	35 事業所
有効回答件数(B)	11 事業所
有効回答率(B/A)	31.4%

4 集計方法

- ・ 表中の「回答事業所数」はアンケートの回収数を示しています。
- ・ 各設問は、回答があった項目の回答件数のみ記載し、回答件数が0件の項目は記載していません。

VIII 事業者調査結果

1 事業所の状況

①事業所の状況について（令和6年1月1日現在）

- 回答事業所の業種については、「製造業」が7件と最も多く、「運輸通信業」、「卸・小売業」、「医療・福祉」、「サービス業」から回答がありました。

図表 59 回答事業所数の状況

事業所の状況		件数
回答事業所数:11	製造業	7
	運輸通信業	1
	卸・小売業	1
	医療・福祉	1
	サービス業	1

②女性従業員の実態について

貴社の女性従業員は、どのような働き方が多いですか。（○は1つ）

- 回答事業所の女性従業員の働き方については、すべての事業所から「育児や介護中も、育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける」と回答がありました。

図表 60 女性従業員の実態

女性従業員の働き方		件数
回答事業所数:11	育児や介護中も、育児休業・介護休業等を活用して仕事を続ける	11

女性従業員の能力発揮に向けたポジティブアクション（積極的な取組）について、現在行っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- ▶ 回答事業所のポジティブアクションの実施状況については、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が 8 件と最も多く、次いで「資格取得の奨励」が 7 件、「パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ」が 5 件となっています。

図表 61 ポジティブアクションの実施状況

女性従業員の能力発揮に向けたポジティブアクションの実施状況		件数
回答事業所数:11	出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価	8
	資格取得の奨励	7
	パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ	5
	管理職への積極登用	3
	相談体制の充実	3
	テレワークなどの勤務形態の多様化	3
	女性職員に対する研修の充実	2
	情報誌や掲示板などでの情報提供	2
	女性の少ない部署や業務に対する積極的な女性の配置	1
	ロールモデルとなる女性職員の経験等の共有	1
	女性活躍に関する担当を設けるなど、事業所内の体制を整備する	1
	結婚・出産に伴う離職に対する再雇用制度の導入	1

女性従業員の活躍を推進するにあたって課題や問題点をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- 回答事業所の女性従業員の活躍を推進するにあたっての課題や問題点については、「体力が必要な業務や力仕事をさせにくい」が5件と最も多く、次いで「女性が仕事よりも家庭を優先する傾向にある」、「ワーク・ライフ・バランスがとりにくい」が3件となっています。

図表 62 女性従業員の活躍を推進する際の課題や問題点

女性従業員の活躍推進にあたっての課題や問題点		件数
回答事業所数:11	体力が必要な業務や力仕事をさせにくい	5
	女性が仕事よりも家庭を優先する傾向にある	3
	ワーク・ライフ・バランスがとりにくい	3
	女性のキャリア意識が低い	2
	社内にロールモデルがいない	2
	女性の勤続年数が平均的に短い	1
	男性の理解が不十分である	1
	活躍を推進する方法がわからない	1
	その他	1
	特になし	2

2 女性管理職の登用について

③女性管理職について

今後管理職に登用にあたって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。(○は1つだけ)

- 回答事業所の女性管理職に積極的な登用については、「積極的に登用していきたい」が6件となっています。

図表 63 今後の女性管理職の登用について

管理職の登用における女性の積極的な登用について		件数
回答事業所数:11	積極的に登用していきたい	6
	特に増やしていく考えはない	5

管理職に女性を「積極的に登用していきたい」と回答した事業所にお聞きします。

女性の管理職を増やすためにどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

- 回答事業所の女性の管理職を増やすために必要なことについては、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」、「女性従業員の人数を増やす」が3件と最も多くなっており、「意識啓発のための女性従業員を対象とした研修の実施」、「女性の管理職登用に消極的な風土の改善」が2件となっています。

図表 64 女性の管理職を増やすために必要なこと

女性の管理職を増やすために必要なこと		件数
回答事業所数:6	出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価	3
	女性従業員の人数を増やす	3
	意識啓発のための女性従業員を対象とした研修の実施	2
	女性の管理職登用に消極的な風土の改善	2
	時短勤務やリモート勤務などの柔軟な働き方の整備	1

女性の活躍が進み、女性管理職が増えるとどのような影響があると思いますか。

(主なもの3つまでに○)

- 回答事業所の女性管理職が増える影響については、「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が6件と最も多く、次いで「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が5件、「女性の声が反映されやすくなる」が4件となっています。

図表 65 女性の管理職を増やすために必要なこと

女性管理職が増える影響		件数
回答事業所数:11	多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	6
	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	5
	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	5
	女性の声が反映されやすくなる	4
	人材・労働力の確保につながり、会社全体に活力を与えることができる	3
	男性の家事・育児などへの参加が増える	2
	その他	1
	無回答	1

3 育児休業制度の利用について

貴事業所において、男性の育児休業取得者が少ないと感じますか。(〇は1つだけ)

- 回答事業所の男性の育児休業取得者の状況については、「少ないと感じる」が6件となっています。

図表 66 男性の育児休業取得者の状況

男性の育休取得者の状況		件数
回答事業所数:11	少ないと感じる	6
	特に少ないと感じない	5

男性の育児休業取得者が「少ないと感じる」と回答した事業所にお聞きします。

少ない理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)

- 回答事業所の男性の育児休業取得者が少ない理由については、「収入を減らしたくないから」が5件と最も多く、次いで「なんとなく男性が育児休業を取得しにくい雰囲気があるから」が3件、「育児は女性が担当するものだ」という考えが根強いから、「業務が多忙であるから」が2件となっています。

図表 67 男性の育休取得者が少ない理由

男性の育休取得者が少ない理由		件数
回答事業所数:6	収入を減らしたくないから	5
	なんとなく男性が育児休業を取得しにくい雰囲気があるから	3
	育児は女性が担当するものだ」という考えが根強いから	2
	業務が多忙であるから	2
	周りに仕事のしわ寄せがいくことを気にするから	1
	周囲に前例がないから	1
	配偶者や両親が育児をしており、取得する必要性を感じないから	1

4 ワーク・ライフ・バランスについて

⑥ワーク・ライフ・バランスについて

貴事業所ではワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、どのように取り組んでいますか。現在行っていることを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- 回答事業所のワーク・ライフ・バランス実現についての取組については、「1日未満単位(半日、1時間単位等)での休暇取得など、年次有給休暇取得促進のための措置」が9件と最も多く、次いで「フレックスタイム勤務の導入」、「在宅勤務制度の導入」が4件、「ノー残業デーの設定など時間外勤務削減のための取組」が3件となっています。

図表 68 ワーク・ライフ・バランスの実現へ向けての取組

ワーク・ライフ・バランスの実現へ向けての取組		件数
回答事業所数:11	1日未満単位(半日、1時間単位等)での休暇取得など、年次有給休暇取得促進のための措置	9
	フレックスタイム勤務の導入	4
	在宅勤務制度の導入	4
	ノー残業デーの設定など時間外勤務削減のための取組	3
	退職者再雇用制度の導入 ※結婚、出産、育児、介護、配偶者の転勤、留学、ボランティア、転職等を理由に退職された方	2
	育児・介護休業等取得者の代替職員の雇用	1
	研修の実施など、育児・介護休業から復職しやすい体制の整備	1
	無回答	1

5 今後の取組について

⑦今後の取組について

事業所として、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

- 回答事業所の今後、力を入れていくべき取組については、「男女ともに育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が6件と最も多く、次いで「研修や能力開発の機会を充実する」が5件、「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が4件となっています。

図表 69 事業所として今後力を入れていくべき取組

事業所として、今後、力を入れていくべきこと		件数
回答事業所数:11	男女ともに育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる	6
	研修や能力開発の機会を充実する	5
	在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる	4
	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める	4
	育児休業や介護休業の制度を整備・充実する	3
	管理職に女性を積極的に登用する	2
	事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する	2
	賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	1
	男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する	1
	無回答	1

尾張旭市 男女共同参画に関する市民意識調査

【結果報告書】

発行：尾張旭市 市民生活部 多様性推進課 男女共同参画係

〒488-8666

愛知県尾張旭市東大道町原田 2600 番地 1

TEL 0561-76-8125

FAX 0561-53-7008

令和6年3月発行